

Oracle® WebCenter Sites

プロパティ・ファイル・リファレンス

11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69680-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites: プロパティ・ファイル・リファレンス, 11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69680-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites: Property Files Reference, 11g Release 1 (11.1.1)

原本主著者 : Tatiana Kolubayev

原本協力者 : Hareesh Kadlaba, Ravi Khanuja, Vipin Kumar, Yogesh Khubchandani, Cory Lum

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、それを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

このガイドについて	7
対象読者	7
このガイドの構成	8
関連ドキュメント	8
表記規則	8
サード・パーティのライブラリ	8
概要	9
プロパティ・エディタの概要	10
プロパティ・エディタの起動	10
プロパティの設定	10
プロパティの追加	12
プロパティの削除	13

第 1 部 Oracle WebCenter Sites

assetframework.ini	17
「ユーザー定義」タブ	17
batch.ini	18
「構成」タブ	18
「デバッグ」タブ	19
「結果」タブ	19
「セキュリティ」タブ	20
「ユーザー定義」タブ	20
catalog.ini	21
「カタログ」タブ	21
「ユーザー定義」タブ	21
commons-logging.properties	22
「AsyncLog」タブ	23
「ファクトリ」タブ	23

「ログ出力」タブ	24
トラディショナル・ログ・タブ	33
「ユーザー定義」タブ	35
CSPortletRequest.properties	36
「ユーザー定義」タブ	36
dir.ini	37
「属性名」タブ	38
「互換性」タブ	40
グローバル・データ・タブ	40
インターフェース実装タブ	41
JNDI SPI Env タブ	43
ネーミング構文タブ	45
スキーマ・デフォルト・タブ	47
検索コントロール・タブ	48
「ユーザー定義」タブ	49
fatwire_settings.properties	50
「ユーザー定義」タブ	50
futuretense.ini	51
アプリケーション・サーバー・タブ	52
「認証」タブ	53
「基本」タブ	56
BLOB サーバー・タブ	59
「クラスタ」タブ	62
「互換性」タブ	63
「コンテンツ表」タブ	66
「データベース」タブ	67
「デバッグ」タブ	73
「電子メール」タブ	74
「エクスポート / ミラー」タブ	76
「JSP」タブ	79
「その他」タブ	81
「ページ・キャッシュ」タブ	85
「結果セットのキャッシュ」タブ	90
Satellite Server タブ	95
「検索」タブ	96
「ユーザー定義」タブ	97
futuretense_xcel.ini	105
「分析」タブ	106
アセット・デフォルト・タブ	107
「認可」タブ	110
「デバッグ」タブ	116
「ディレクトリ」タブ	117
エレメントのオーバーライド・タブ	120
「プリファレンス」タブ	121
「パブリッシュ」タブ	124

「トランسفォーマ」タブ.....	129
「xcelerate」タブ.....	132
「ユーザー管理」タブ.....	137
「ユーザー定義」タブ	140
gator.ini	142
Gator タブ	142
「ユーザー定義」タブ.....	146
log4j.properties	147
logging.ini (非推奨)	149
グローバル・データ・タブ.....	149
メッセージ・リソース・タブ.....	150
「ユーザー定義」タブ.....	151
omii.ini	152
omproduct.ini	152
satellite.properties	153
「キャッシュ」タブ.....	154
「構成」タブ.....	157
「リモート・ホスト」タブ.....	159
「セッション」タブ.....	160
「互換性」タブ.....	162
「ユーザー定義」タブ.....	163
ServletRequest.properties	164
「リクエストのエンコーディング」タブ.....	165
リクエストのしきい値タブ.....	165
URI アセンブラー・タブ	166
「ユーザー定義」タブ.....	168
visitor.ini	169
訪問者データ・タブ.....	169
「ユーザー定義」タブ.....	171

第 2 部 Oracle WebCenter Sites のアプリケーション

Oracle WebCenter Sites: Analytics のプロパティ	174
Oracle WebCenter Sites: Engage のプロパティ	174
Oracle WebCenter Sites: Satellite Server のプロパティ・ファイル	174

第3部 サード・パーティのライブラリおよびアプリケーション

HTTP クライアント・アクセス	177
Apache Commons HttpClient	177
WebCenter Sites との統合	177
実装	180
HTTPClient パラメータと WebCenter Sites のプロパティ	180
 索引	188
 手順の索引	190
 Oracle WebCenter Sites 11gR1 の新しいプロパティ	202
 非推奨のプロパティ	204

このガイドについて

このガイドでは、Oracle WebCenter Sites のプロパティ・ファイルとプロパティについて説明しています。これらは、Oracle WebCenter Sites とそのアプリケーションの操作パラメータの指定に使用されます。

このガイドで説明しているアプリケーションは、旧 FatWire の製品です。命名規則は次のとおりです。

- *Oracle WebCenter Sites* は、以前は *FatWire Content Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites* を *WebCenter Sites* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Web* エクスペリエンス管理フレームワークは、以前は *FatWire Web Experience Management Framework* と呼ばれていた環境の現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Web* エクスペリエンス管理フレームワークを *WEM* フレームワークと呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Analytics* は、以前は *FatWire Analytics* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Analytics* を *Analytics* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Engage* は、以前は *FatWire Engage* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Engage* を *Engage* と呼ぶこともあります。
- *Oracle WebCenter Sites: Satellite Server* は、以前は *FatWire Satellite Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Satellite Server* を *Satellite Server* と呼ぶこともあります。

対象読者

このガイドは、WebCenter Sites システムのインストール・エンジニア、開発者および管理者を対象としています。

このガイドの構成

概要の項では、プロパティ・ファイルを変更する際のプロパティ・エディタの使用の重要性を説明し、プロパティ・エディタの使用方法について説明しています。

第1部の「[Oracle WebCenter Sites](#)」では、WebCenter Sites のプロパティとそのページ・キャッシュ・アプリケーションである Satellite Server について説明しています。

第2部の「[Oracle WebCenter Sites のアプリケーション](#)」では、WebCenter Sites: Engage アプリケーションのプロパティ・ファイルとリモートでインストールされた Satellite Server について説明しています。

第3部の「[サード・パーティのライブラリおよびアプリケーション](#)」では、WebCenter Sites がサード・パーティのライブラリとどのように統合されるかを説明しています。

このリファレンスの最後には、読者がこのガイドのトピックとプロパティを探し、新規のプロパティと非推奨になったプロパティを素早く識別できるようにするための索引がいくつか掲載されています。

関連ドキュメント

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- 『[Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド](#)』
- 『[Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド](#)』
- 『[Oracle WebCenter Sites タグ・リファレンス](#)』

表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用します。

- 太字は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インターフェース要素を示します。
- 斜体は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅フォントは、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- 等幅太字フォントは、コマンドを示します。

サード・パーティのライブラリ

Oracle WebCenter Sites 11gR1 およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライブラリが含まれています。詳細は、[Oracle WebCenter Sites 11gR1: サード・パーティのライセンス](#)を参照してください。

概要

Oracle WebCenter Sites とそのアプリケーションの構成タスクの多くは、プロパティ・ファイルで指定されたプロパティの値の設定や変更を必要とします。これらのファイルには、.ini または .properties の接尾辞が付けられています。

WebCenter Sites には、「プロパティ・エディタ」ユーティリティとともに一連のプロパティ・ファイルが用意されています。WebCenter Sites: Analytics、WebCenter Sites: Engage、WebCenter Sites: Satellite Server などの WebCenter Sites アプリケーションのそれぞれには、1 つ以上のプロパティ・ファイルが関連付けられています。

この概要では、プロパティ・エディタについて説明し、このリファレンスの後続部分で説明されるプロパティ・ファイルの概略を紹介します。

この章は、次の項で構成されています。

- [プロパティ・エディタの概要](#)
- [プロパティ・エディタの起動](#)
- [プロパティの設定](#)
- [プロパティの追加](#)
- [プロパティの削除](#)

プロパティ・エディタの概要

プロパティ・エディタは、Oracle WebCenter Sites のプロパティ・ファイル内のプロパティ値の設定に使用されます。他のエディタを使用すると問題が発生する場合があるため、値の設定には常にプロパティ・エディタを使用することをお薦めします。たとえば、JumpStart Kit はプロパティ・ファイルの名前を変更します。プロパティ・エディタを起動することにより、変更対象として正しいファイルが表示されることが保証されます。プロパティ・エディタはパスワード・フィールドの暗号化を可能にします。プロパティ・エディタ以外でフィールドを変更するとプロパティ値が破損する場合があります。さらに、プロパティ・エディタでは、特に、正しいプロパティ区切り文字の使用など、ファイルが正しくフォーマットされます。また、プロパティ・エディタでは、タブ上で機能別にプロパティが編成され、プロパティに関する説明的な情報、デフォルト値および設定可能な値が示されます。

プロパティ・エディタの起動

コマンドライン・プロンプトまたは UNIX シェルで次のスクリプトを実行します。

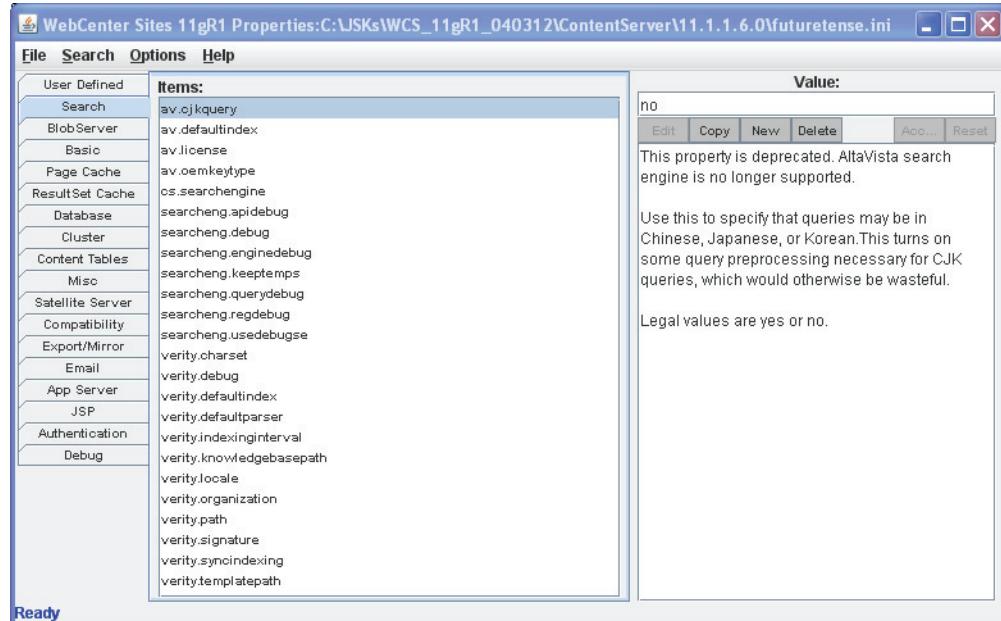
- Windows: propeditor.bat (通常は <cs_install_dir>/ にあります)
- Solaris: propeditor.sh (通常は \$HOME/<cs_install_dir> にあります)

プロパティの設定

WebCenter Sites とそのアプリケーションのプロパティを設定する手順は次のとおりです。

1. 「[プロパティ・エディタの起動](#)」の説明に従って、プロパティ・エディタを起動します。
2. 「ファイル」→「開く」を選択します。
3. 変更が必要なプロパティ・ファイルを参照して、選択します。

プロパティ・エディタでファイルが開かれます。たとえば、`futuretense.ini` ファイルをプロパティ・エディタで最初に開いたときは、次のように表示されます。



- タブ（左側）によって、プロパティが機能別にグループ化されています。
 - 「アイテム」ペインには、選択したタブのプロパティが一覧表示されます。
 - 「値」ペインには、選択したプロパティの現在値、プロパティの簡単な説明、およびプロパティで受け入れられる値が一覧表示されます。
4. 構成するプロパティが含まれる機能グループを表すタブを選択します。
そのタブのプロパティがプロパティ・エディタの「アイテム」ペインに表示されます。
 5. 「アイテム」ペインからプロパティを選択します。
そのプロパティに現在設定されている値がプロパティ・エディタに表示され、「値」ペインにプロパティの簡単な説明が示されます。
 6. 「値」ペインの最上部のテキスト・フィールドにプロパティの値を入力します。
 7. 「受入れ」をクリックします。
 8. 構成するプロパティのそれぞれで、手順 4 から 7 を繰り返します。
 9. 終了したら、「ファイル」→「保存」を選択します。
 10. 「ファイル」→「閉じる」を選択します。
 11. アプリケーション・サーバーを停止してから再起動し、新しい値を有効化します。

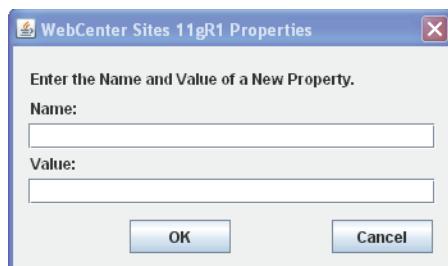
プロパティの追加

構成タスクの一部は、使用システム用に新たなカスタム・プロパティの追加を必要とします。たとえば、結果セットのキャッシングを実装する場合は、キャッシング値を設定する任意の WebCenter Sites データベース表に最大で 3 つのプロパティを作成できます。(結果セットのキャッシングの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。)

WebCenter Sites データベースにプロパティを追加する手順は次のとおりです。

1. 10 ページの「[プロパティ・エディタの起動](#)」の説明に従って、プロパティ・エディタを起動します。
2. 「ファイル」→「開く」を選択します。
3. プロパティの追加が必要なプロパティ・ファイルを参照します。
4. (オプション)「[ユーザー定義](#)」タブを選択します。(プロパティ・エディタでこのプロパティ・ファイルを次回開くときに、どのタブを選択したかに關係なく作成したプロパティが「[ユーザー定義](#)」タブに表示されるため、この手順はオプションになります。)
5. テキスト入力フィールドの直下にある「[値](#)」ペインで、「[新規](#)」をクリックします。

プロパティ・エディタに「[WebCenter Sites のプロパティ](#)」ダイアログ・ボックスが表示されます。



6. 「[名前](#)」フィールド内をクリックして、新しいプロパティの名前を入力します。
7. 「[値](#)」フィールド内をクリックして、新しいプロパティの値を入力します。
8. 「[OK](#)」をクリックします。

新規プロパティが「[アイテム](#)」ペインに、値が「[値](#)」ペインに表示されます。

注意

手順 4 で「[ユーザー定義](#)」タブを選択しなかった場合は、手順 5 で「[新規](#)」をクリックしたときに選択したタブに新規プロパティが表示される場合があります。これは一時的です。プロパティ・エディタで次回この ini ファイルを開くと、このプロパティは「[ユーザー定義](#)」タブに表示されます。

9. 「ファイル」→「[保存](#)」を選択します。

プロパティの削除

プロパティの削除が必要になることはまずありません。しかし、プロパティの削除が必要になった場合は、次の手順を参照してください。

プロパティを削除する手順は次のとおりです。

注意

必須プロパティは絶対に削除しないでください。

1. プロパティ・エディタを起動します。(前述の「[プロパティ・エディタの起動](#)」を参照してください。)
2. 「ファイル」→「開く」を選択します。
3. プロパティの削除による変更が必要なプロパティ・ファイルを参照して、選択します。
4. 削除するプロパティが保持される機能グループを表すタブを選択します。
5. なんらかの理由によりリストアが必要になった場合に備え、このプロパティの現在値を記録しておきます。
6. テキスト入力フィールドの直下にある「値」ペインで、「削除」をクリックします。
7. プロパティ・エディタに確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックします。
このプロパティがプロパティ・ファイルから削除されます。
8. 「ファイル」→「保存」を選択します。

第 1 部

Oracle WebCenter Sites

この部では、WebCenter Sites によってインストールされ、そのユーザー・マネージャ・プラグインや共存 Satellite Server などでも使用されるプロパティ・ファイルを紹介します。WebCenter Sites のプロパティ・ファイル内のプロパティの設定には、プロパティ・エディタが使用されます。

この部には、次のプロパティ・ファイルに関する情報が含まれています。

- [assetframework.ini](#)
- [batch.ini](#)
- [catalog.ini](#)
- [commons-logging.properties](#)
- [CSPortletRequest.properties](#)
- [dir.ini](#)
- [futuretense.ini](#)
- [futuretense_xcel.ini](#)
- [gator.ini](#)
- [logging.ini \(非推奨 \)](#)
- [log4j.properties](#)
- [omii.ini](#)
- [omproduct.ini](#)
- [satellite.properties](#)
- [ServletRequest.properties](#)
- [visitor.ini](#)

assetframework.ini

assetframework.ini ファイルには、フレックス・アセットの履歴およびパブリッシュに関する情報を保持するファイルの格納場所を決定するプロパティが保持されます。

このファイルについてプロパティ・エディタに表示されるタブは「ユーザー定義」のみです。

assetframework.ini: 「ユーザー定義」タブ

assetframework.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
afk.historydata	履歴データを保持するディレクトリを指定します。 デフォルト値: c:/futuretense/history/
afk.publishdata	パブリッシュ・データを保持するディレクトリを指定します。 デフォルト値: c:/futuretense/publish/

batch.ini

batch.ini ファイルは、WebCenter Sites で様々な理由（パブリッシュなど）によってバックグラウンドで使用されるバッチ・プロセスの構成情報を提供します。

batch.ini のプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 「構成」タブ
- 「デバッグ」タブ
- 「結果」タブ
- 「セキュリティ」タブ
- 「ユーザー定義」タブ

batch.ini: 「構成」タブ

「構成」タブは、バッチ・プロセスで使用されるスレッドの設定の構成に使用されるプロパティを保持します。

batch.ini: 「構成」タブのプロパティ

プロパティ	説明
thread.count	プールに割り当て、プール内で管理するディスパッチャ・スレッドの数を指定します。 デフォルト値: 32
thread.growcache	必要に応じたプールへの追加の (thread.count を超過する) ディスパッチャ・スレッドの割当てが可能であるかどうかを指定します。 可能な値: true false デフォルト値: false
thread.idle	thread.growcache が true に設定されている場合にのみ適用されます。 ディスパッチャ・スレッドをアイドル状態のまま保持できる秒数を指定します。この秒数を経過するとプールによってリリースされます。 デフォルト値: 10

batch.ini: 「構成」タブのプロパティ

プロパティ	説明
thread.wait	<p>thread.growcache が <code>false</code> に設定されている場合にのみ適用されます。</p> <p>バッチ・プロセスが空きディスパッチャ・スレッドを待機する秒数を指定します。この秒数を経過すると、タスクを実行できないことに起因してエラーがレポートされます。</p> <p>デフォルト値: 15</p>

batch.ini: 「デバッグ」タブ

batch.ini: 「デバッグ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
debug	<p>バッチ・プロセスのデバッグが有効かまたは無効かを指定します。この値を <code>true</code> に設定すると、バッチ・プロセスのステータスに関するメッセージが WebCenter Sites のログ・ファイルに書き込まれます。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>

batch.ini: 「結果」タブ

batch.ini: 「結果」タブのプロパティ

プロパティ	説明
request.folder	<p>バッチ・プロセスの結果に関する情報を格納するファイルの場所を指定します。たとえば、WebCenter Sites のパブリッシュ・システムはこのディレクトリにパブリッシュのログ・ファイルを保持します。</p> <p>デフォルト値: <code>/dispatcher/</code></p>

batch.ini: 「セキュリティ」タブ

batch.ini: 「セキュリティ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
security.class	セキュリティ・チェックに使用するクラス・ファイルの名前を指定します。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。 com.openmarket.Batch.DefaultSecurity このプロパティの値は変更しないでください。

batch.ini: 「ユーザー定義」タブ

batch.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
-------	----

注意: デフォルトでは、このタブにプロパティは保持されません。

catalog.ini

catalog.ini ファイルには、WebCenter Sites でショッピング・カートの構成に使用されるプロパティが保持されます。

catalog.ini のプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 「カタログ」タブ
- 「ユーザー定義」タブ

catalog.ini: 「カタログ」タブ

catalog.ini: 「カタログ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
<code>mwb.cartsetdir</code>	<p><code>cartset</code> データ・ファイルが格納されるディレクトリ・パス (末尾のスラッシュ文字を含む) を指定します。</p> <p>この値はインストール時に設定されます。インストール・ディレクトリの <code>/gator/cartset</code> ディレクトリをポイントします。</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>

catalog.ini: 「ユーザー定義」タブ

batch.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
-------	----

注意: デフォルトでは、このタブにプロパティは保持されません。

commons-logging.properties

commons-logging.properties ファイルは、org.apache.commons.logging.Log プロパティを介して WebCenter Sites のロギング・システムを指定します。新規インストールの WebCenter Sites システムでは Apache log4j が使用されますが、これは次のように指定されます。

```
org.apache.commons.logging.Log=
    com.fatwire.cs.core.logging.Log4JLogger
```

Apache log4j の詳細は、147 ページの [「log4j.properties」](#) を参照してください。

パブリック・ドメインでは、これ以外にも多様なログ出力を使用できます。使用可能なログ出力に目的の機能がない場合は、独自のログ出力を作成することもできます。log4j 以外のログ出力で Commons Logging を使用する場合でも、プロパティ・エディタを使用してログの設定を表示および変更することが可能です。

以前の Content Server 7.6 Commons Logging システムに戻す必要がある場合は、次のいずれかのクラス名を org.apache.commons.logging.Log に手動で設定する必要があります。

- **TraditionalLog**

```
com.fatwire.cs.core.logging.TraditionalLog
```

このログ出力はすべてのログ・メッセージを各サーバーの WebCenter Sites ログ・ファイルに書き込みます。TraditionalLog では、ログ・ファイルのローリング、カスタム書式設定、日付スタンプ、およびその他の多様な機能がサポートされます。オプションで、クライアントの IP アドレスに基づいたログ・メッセージのフィルタ処理による、ブラウザベースのログの取得もサポートされます。

- **StandardLog**

```
com.fatwire.cs.core.logging.StandardLog
```

このログ出力でもカスタム書式設定や日付スタンプなどがサポートされますが、標準出力と標準エラー・ストリームにメッセージが送信されます。つまり、WebCenter Sites のログ・ファイルではなく、Java コンソールにメッセージが送信されます。StandardLog ではブラウザベースのログの取得はサポートされませんが、別の有効な機能が用意されています。開発者は、IDE デバッガで JumpStart Kit または WebCenter Sites を実行することで、最も見やすい場所にすべてのログ・メッセージを表示できます。すべてのテンプレート開発者には StandardLog の使用が推奨されます。これにより、エラーを WebCenterSites のログ・ファイルに送信してユーザーに確認させるではなく、エラーがデフォルトでユーザーに警告されるようになります。StandardLog は、Apache のデフォルトの SimpleLog に類似しています。

- **StandardTraditionalLog**

```
com.fatwire.cs.core.logging.StandardTraditionalLog
```

このログ出力では、TraditionalLog と StandardLog の機能および出力方法がサポートされます。

commons-logging.properties ファイルには、WebCenter Sites 向けに変更可能なロギング・プロパティがリストされます。このプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 「[「ファクトリ」](#) タブ
- 「[「ログ出力」](#) タブ

- トランザクション・ログ・タブ
- 「ユーザー定義」タブ

commons-logging.properties: 「AsyncLog」タブ

このタブのプロパティは非推奨になりました。

commons-logging.properties: 「AsyncLog」タブのプロパティ

プロパティ	説明
logging.interval	<p>非推奨です。</p> <p>ログ・ファイルへの書き込み間隔(ミリ秒単位)を指定します。</p> <p>デフォルト値: 5000</p>

commons-logging.properties: 「ファクトリ」タブ

commons-logging.properties: 「ファクトリ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
org.apache.commons.logging.Log	<p>デフォルトの commons-logging ログ・ファクトリがログ出力として使用する org.apache.commons.logging.Log インタフェースを実装するクラス名を指定します。</p> <p>デフォルト値: com.fatwire.cs.core.loggingTraditionalLog</p> <p>デフォルト値は、ログ・ファイルのブラウザベースの取得、ログのローリング、タイムスタンプなど、他のログ出力ではサポートされない可能性のある追加機能をサポートする WebCenter Sites の拡張ログ出力を指定します。</p> <p>注意: この値を変更する場合は、事前に commons-logging のドキュメントを参照してください。</p>

commons-logging.properties: 「ファクトリ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
org.apache.commons.logging.LogFactory	<p>パブリッシュ・イベントの実行中に各ログ・メッセージに <code>pubsessionid</code> を出力する、特別なパブリッシュ・ログ出力を有効化します。このログ出力は、パブリッシュ失敗の分析に使用されます。</p> <p>このプロパティは、<code>commons-logging.properties</code> に手動で追加する必要があります。</p> <p>有効な値: <code>com.fatwire.cs.core.logging.ContextAwareLogFactory</code></p> <p>注意: このログ出力を有効化すると、クライアント別のロギングが自動的に無効化されます (<code>logging.per-client-log</code> プロパティの値は無視されます)。</p>

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブ

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ

プロパティ	説明
<code>com.fatwire.logging.cs</code>	<p>汎用的な WebCenter Sites ログ出力のログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenter Sites のコア機能に関連します。そうでない場合は、適切なログ出力が割り当てられていないことがあります。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
<code>com.fatwire.logging.cs.auth</code>	<p>ユーザー認証およびユーザー認可メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、ユーザー・ログイン、ユーザー ACL、およびユーザー・ロールに関連します。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.cs.blobserver	<p>BlobServer デバッグ・メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenterSites ページ・キャッシュ内のデータの追加、取得および変更に関連します。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.cache.page	<p>ページ・キャッシュ・デバッグ・メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenterSites ページ・キャッシュ内のデータの追加、取得および変更に関連します。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.cache.resultset	<p>結果セット・キャッシュ・デバッグ・メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenterSites 結果セット・キャッシュ内のデータの追加、取得および変更に関連します。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.core.http.HttpAccess	<p>HttpAccess API で、HTTP アクセス時に発生したエラーおよび警告を記録するために使用されるログ出力です。このログは、ヘッダー、パラメータ、本文のコンテキストなどの HTTP リクエストおよびレスポンス情報を生成します。一般に、DEBUG では大量のログ・メッセージが生成されます。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.core.uri.assembler	<p>URI アセンブラー・エンジン、およびすべてのアセンブラーで使用されるログ出力です。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.cs.core.uri.definition	<p>URI 定義および関連する実装で使用されるログ出力です。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.db	<p>データベース・アクセス・メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、データベース・アクセス、問合せ、および文の実行に関連します。このログ出力は、予期したとおりに動作しないデータベース問合せのデバッグに非常に有益です。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs(errno	<p>エラー番号の設定に関連する情報の表示に使用されるログ出力です。このログ出力によって書き込まれるメッセージは、Variables(errno および Variables.errdetail の WebCenter Sites 変数の値セットに関連します。エラー番号の設定の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』および Oracle WebCenter Sites タグ・リファレンスを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.event	<p>WebCenter Sites イベント・エンジン・メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenter Sites によるイベントの起動に関連するものです。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.cs. export	WebCenter Sites ページ・エクスポート・エンジン・メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenter Sites によるイベントの起動に関連するものです。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs. filelock	ファイル・ロック・メッセージのログ重大度を指定します。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs. firstsite.filter	FirstSite II フィルタのログ出力です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs. install	WebCenter Sites インストーラのメッセージのログ重大度を指定します。このログにはインストール時のみメッセージが書き込まれます。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.jsp	WebCenter Sites jsp エレメントのデバッグ情報のログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenterSites による JSP エレメントの起動に関連します。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs. realtime	RealTime パブリッシュ・プロセスの際に実行された操作をログに記録します。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.cs.request	リクエスト処理メッセージのログ重大度を指定します。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.satellite	Satellite Server の汎用ログ出力です。このログ出力でログに記録されるメッセージは、システム構成に関係します。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.satellite.cache	これは Satellite Server 用のログ出力で、キャッシング可能なオブジェクト、およびそのキャッシング内でのライフ・サイクルの解析に関連する情報を処理します。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.satellite.host	これは Satellite Server 用のログ出力で、Satellite Server およびそのホスト WebCenter Sites 間の通信に関連する情報のロギング専用です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.satellite.request	これは Satellite Server 用のログ出力で、クライアントからのリクエストの処理に関連する情報のロギング専用です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.session	WebCenter Sites セッション・ログ出力のログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、セッション開始、変更およびアクセスに関連します。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.cs.sync	<p>WebCenter Sites クラスタ同期メッセージのログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、WebCenter Sites のクラスタ同期動作に関連します。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.sysinfo	<p>WebCenter Sites インストールでのシステム情報のキャプチャのログ重大度を指定します。このログ出力は、WebCenter Site 管理者インターフェースの「管理」タブで使用可能なシステム・ツール・ユーティリティで使用されます。システム・ツールの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.time	<p>WebCenter Sites の時間およびパフォーマンスのデバッグ情報のログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージには、一般に、ページおよび WebCenter Sites のパフォーマンスの調整に使用可能な情報が含まれます。</p> <p>ページおよびページレットの実行時間をログに記録するには、このプロパティを DEBUG に設定します。ページおよびページレットの実行時に、次のようなメッセージが返されます。</p> <pre>Execute page OpenMarket/ Xcelerate/Util/getCurrentUser Hours: 0 Minutes: 0 Seconds: 0:002</pre> <p>注意: ページは、キャッシュで見つからない場合のみ実行されます。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.visitor.object	<p>訪問者オブジェクトのライフ・サイクル追跡のためのログ出力です。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.cs.visitor.ruleset	ルール・セット・コンパイルのログ出力です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.xcelerate	Xcelerate のログ出力です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.advantage.recommendation	推奨処理のログ出力です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.approval	アセット承認処理のログ出力です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.asset	汎用的なアセット処理のログ出力です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.assetmaker	AssetMaker 処理のログ出力です。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.publish	このログ出力はパブリッシュ・ログをキャプチャします。 可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL デフォルト値: INFO 注意: DEBUG および TRACE を設定すると、大量のログが生成され、パフォーマンスに重大な影響を及ぼす場合があります。

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.template	<p>Template、CSElement、および SiteEntry アセット処理のログ出力です。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.cs.xml	<p>WebCenter Sites XML エレメントのデバッグ情報のログ重大度を指定します。このログ出力に書き込まれるメッセージは、XML エレメントの解析および評価に関連します。このデバッグ・フラグを有効化すると、WebCenter Sites でデフォルトの非検証パーサーではなく XML 検証パーサーが使用されるため注意が必要です。これはレンダリング済ページに影響する場合があります。詳細はドキュメントを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.search.asset	<p>アセット関連の検索で使用されるログ出力です。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
org.apache.http	<p>HttpComponents ライブライで使用される最上位レベルのログ出力です。詳細は、Apache HttpComponents のドキュメントを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
org.apache.http.client	<p>このログ出力は、HttpComponents ライブライでコンテキスト・ロギングに使用されます。詳細は、Apache HttpComponents のドキュメントを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>

commons-logging.properties: 「ログ出力」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
org.apache.http.impl.client	<p>このログ出力は、HttpComponents ライブライアリでコンテキスト・ロギングに使用されます。詳細は、Apache HttpComponents のドキュメントを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
org.apache.http.impl.conn	<p>このログ出力は、HttpComponents ライブライアリで接続管理に使用されます。詳細は、Apache HttpComponents のドキュメントを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
org.apache.http.headers	<p>このログ出力は、HTTP ヘッダーのログ記録のみに使用されます。詳細は、Apache HttpComponents のドキュメントを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
org.apache.http.wire	<p>このログ出力は、HTTP リクエストの実行時にサーバーとの間で送受信されるすべてのデータのログ記録に使用されます。このログ出力では非常に大量のログ・データが(一部はバイナリ形式で)生成されます。このため、有効化はデバッグ目的のみに限定してください。詳細は、Apache HttpComponents のドキュメントを参照してください。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: ERROR</p>

commons-logging.properties: トラディショナル・ログ・タブ

次の表は、プロパティ `org.apache.commons.logging.Log` で指定されるデフォルトのログ出力である `TraditionalLog` 固有のプロパティを一覧表示しています。`TraditionalLog` は、他のログ出力ではサポートされない多数の機能をサポートします。Spark インストールでは、独自のプロパティ・セットを指定した別のログ出力を選択することもできます。

commons-logging.properties: トラディショナル・ログ・タブのプロパティ

プロパティ	説明
<code>logging.file</code>	ログ・ファイルのフルパスを指定します。これは必須で、競合を回避するために VM ごとに異なる値を設定する必要があります。 注意: この値を指定しないとロギングが失敗します。
<code>logging.format</code>	ログ・ファイルに書き込まれるタイムスタンプで使用される <code>java.text.SimpleDateFormat</code> を指定します。構文情報については、 <code>java.text.SimpleDateFormat</code> の API ドキュメントを参照してください。指定しない場合は、デフォルトの <code>SimpleDateFormat</code> が使用されます。
<code>logging.maxlogsize</code>	ログ・ファイルの最大サイズを指定します(バイト単位)。ログ・ファイルが指定したサイズまで拡大すると、ローリングまたは削除が実行されます。ログの拡大を無限に許容するには、 <code>-1</code> に設定します。 デフォルト値: 10MB

commons-logging.properties: トランザクション・ログ・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
logging.per-client-log	<p>WebCenter Sites に対してデータをリクエストする個別の IP アドレスごとにログ・ファイルを保持するかどうかを指定します。このプロパティを使用すると、Web ブラウザからのログ・ファイルの取得に CatalogManager を使用できます。</p> <p>このプロパティを <code>true</code> に設定すると、WebCenter Sites ではブラウザの IP アドレスごとにログ・ファイルが作成されます。各ファイルは WebCenter Sites のログ・ファイルと同じディレクトリに格納され、<code>futuretense.IPaddress.txt</code> の命名規則に従って作成されます。使用しているブラウザの IP アドレスのログ・ファイルを取得するには、<code>CATALOGMANAGER</code> タグの <code>exportlog</code> 引数を使用できます。</p> <p>可能な値: <code>true</code> <code>false</code></p> <p>注意: <code>ContextAwareLogFactory</code> パブリッシュ・ログ出力を有効化すると、クライアント別のロギングが自動的に無効化されます (つまり、<code>ContextAwareLogFactory</code> を有効化するように org.apache.commons.logging.LogFactory を設定すると、<code>logging.per-client-log</code> は無視されます)。</p>
logging.roll	<p>ログ・ファイルのローリング時に保持するログの数を指定します。古いバージョンは名前が変更され、使用可能なすべてのバージョンが使用されると、最も古いログが削除されます。0 に設定すると、ログ・ファイルのローリングが無効になります。正の整数を設定し、保持するログの数を指定します。</p> <p>デフォルト値: 0</p>
logging.timestamp	<p>ロギング・エントリごとにタイムスタンプをログ・ファイルに書き込むかどうかを指定します。</p> <p>可能な値: <code>true</code> <code>false</code></p> <p>デフォルト値: <code>true</code></p>

commons-logging.properties: 「ユーザー定義」タブ

デフォルトでは、このタブには次のプロパティが含まれます。

commons-logging.properties: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
com.fatwire.logging.ui. model	<p>このログ出力は、ユーザー・インターフェース・モデル・コンポーネントで使用されます。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.ui. phase	<p>このログ出力は、DebugPhaseListener で JSF ライフ・サイクルのフェーズの表示に使用されます。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.logging.ui.v iew	<p>このログ出力は、ユーザー・インターフェース・ビュー・コンポーネントで使用されます。このログ出力の使用目的は、ユーザー・インターフェース・コンポーネントおよびそのライフ・サイクルのデバッグです。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>
com.fatwire.search. lucene	<p>このログ出力は、Lucene 統合で使用されます。</p> <p>可能な値: TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL</p> <p>デフォルト値: INFO</p>

CSPortletRequest.properties

CSPortletRequest.properties ファイルには、WebCenter Sites インストール・プログラムによって設定されるポータル構成プロパティが保持されます。

CSPortletRequest.properties ファイルについては、次のタブがプロパティ・エディタに表示されます。

- 「ユーザー定義」タブ

注意

このタブ上のプロパティの値はいずれも変更しないでください。

CSPortletRequest.properties: 「ユーザー定義」タブ

CSPortletRequest.properties: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	値
cs.contenttype.UTF-8	text/html; charset=UTF-8
cs.charset	_charset_
cs.contenttype	text/html; charset=UTF-8
cs.disksize	102400

dir.ini

dir.ini ファイルには、次に説明するディレクトリ・サービスの構成に使用されるプロパティが格納されます。

dir.ini ファイルは、WebCenter Sites のディレクトリ・サービス API のメイン構成ファイルです。WebCenter Sites はこの API を使用して、認証 / 認可サービスのディレクトリ・サーバーに接続し、ユーザー情報管理のための次のオプションを提供します (使用する WebCenter Sites システム用にいずれかのオプションが構成されます)。

- WebCenter Sites ディレクトリ・サービス・プラグインは、ネイティブの WebCenter Sites ユーザー管理表 (SystemUsers および SystemUserAttrs) を使用します。
- LDAP プラグインは、ユーザー名および属性の格納に、WebCenter Sites データベースではなくディレクトリ・サーバーを使用します。

dir.ini のプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 「属性名」タブ
- 「互換性」タブ
- グローバル・データ・タブ
- インタフェース実装タブ
- JNDI SPI Env タブ
- ネーミング構文タブ
- スキーマ・デフォルト・タブ
- 検索コントロール・タブ
- 「ユーザー定義」タブ

注意

dir.ini ファイルはディレクトリ・サービス API のメイン構成ファイルですが、別のプロパティ・ファイル futuretense.ini にもその他のユーザー・マネージャ / ディレクトリ・サービス・プロパティが存在します。53 ページの 「認証」タブ」を参照してください。

dir.ini: 「属性名」タブ

「属性名」タブには、属性マッピングのプロパティが保持されます。これらのプロパティを使用して、WebCenter Sites で使用されるユーザー属性をディレクトリ・サーバーで識別する方法を指定します。

dir.ini: 「属性名」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cn	<p>ディレクトリ・サーバーでグループ名属性として機能する属性の名前を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites と NT: cn • LDAP、iPlanet: cn • LDAP、Active Directory: cn
loginattribute	<p>ディレクトリ・サーバーでユーザー・ログイン属性として機能する属性の名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: uid</p>
password	<p>ディレクトリ・サーバーでパスワード属性として機能する属性の名前を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites と NT: password • LDAP、iPlanet: userPassword • LDAP、Active Directory: password
uniqueMember	<p>ディレクトリ・サーバーでグループ割当て属性として機能する属性の名前を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites と NT: uniqueMember • LDAP、iPlanet: uniqueMember • LDAP、Active Directory: member

dir.ini: 「属性名」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
username	<p>ディレクトリ・サーバーでユーザー名属性として機能する属性の名前を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites と NT: username • LDAP、iPlanet: uid • LDAP、Active Directory: sAMAccount
memberof	<p>ユーザーのグループに関する情報を格納するユーザー属性の名前を指定します。</p> <p>ユーザーのグループ・メンバーシップがそのグループの uniquemember 属性によって指定される場合は、このプロパティを空白にします。</p> <p>ユーザーのグループ・メンバーシップがユーザーの属性によって指定される場合は、ここでその属性の名前を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • LDAP、WebLogic embedded LDAP: wlsmemberof • LDAP、SunONE Identity Server: memberof

dir.ini: 「互換性」 タブ

「互換性」 タブには、ディレクトリ・サーバーから抽出され、WebCenter Sites データベースに格納された文字列の処理方法を決定するプロパティが保持されます。

dir.ini: 「互換性」 タブのプロパティ

プロパティ	説明
cleandns	<p>WebCenter Sites データベースで識別名の文字列を格納する方法を指定します。</p> <p>true に設定した場合は、ディレクトリ・サービス API によって識別名がディレクトリ・サーバーから抽出され、余計なスペースを削除して大文字のすべてを小文字に変換してから、WebCenter Sites データベースに文字列が格納されます。</p> <p>可能な値: true false</p> <p>デフォルト値: false</p> <p>注意: 旧バージョンの WebCenter Sites からアップグレードした場合は、この値を true に設定しないでください。true に設定する場合は、WebCenter Sites 表に格納された既存の dns 文字列のすべてを手動で変更する必要があります。また、true に設定するときは、syntax.ignorecase プロパティが true に設定されていること確認することも必要になります。</p>

dir.ini: グローバル・データ・タブ

グローバル・データ・タブには、すべてのユーザーに対するグローバル値を決定するプロパティが保持されます。

dir.ini: グローバル・データ・タブのプロパティ

プロパティ	説明
baseDN	<p>デフォルトで検索、および DN タイプを必要とする属性値の名前への付加に使用されるルートの識別名を指定します。</p> <p>デフォルト値: 空白</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。認証モジュールにより currentUser セッション変数が完全修飾名に設定されるため、WebCenter Sites では検索から返されるすべての名前が完全修飾されているとみなされます。</p>

dir.ini: グローバル・データ・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
groupparent	<p>タイプ Group のすべての WebCenter Sites エントリの親として使用されるエントリを指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites と NT: ou=groups • LDAP、iPlanet: ou=groups, dc=<companyname>, dc=com • LDAP、Active Directory: cn=groups, dc=<companyname>, dc=com
peopleparent	<p>タイプ User のすべての WebCenter Sites エントリの親として使用されるエントリを指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites と NT: ou=people • LDAP、iPlanet: cn=people, dc=<companyname>, dc=com • LDAP、Active Directory: cn=users, dc=<companyname>, dc=com

dir.ini: インタフェース実装タブ

インターフェース実装タブには、WebCenter Sites システムが使用しているユーザー・マネージャ・モジュールを判別する 2 つのプロパティが保持されます。このプロパティは、`className.IDir` および `className.IName` です。LDAP と統合する場合以外は、インターフェース実装タブのプロパティの値を変更しないでください。

dir.ini: インタフェース実装タブのプロパティ

プロパティ	説明
<code>className.Attribute</code>	<p>インターフェース属性を実装する具体的なクラスの名前を指定します。</p> <p>LDAP と統合する場合以外は、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
<code>className.Attributes</code>	<p>インターフェース属性を実装する具体的なクラスの名前を指定します。</p> <p>LDAP と統合する場合以外は、このプロパティの値を変更しないでください。</p>

dir.ini: インタフェース実装タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
className.IDir	<p>className.IName プロパティを使用して、システムが使用しているユーザー・マネージャ・モジュールを指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites: com.openmarket.directory.cs.CSDir • LDAP: com.openmarket.directory.jndi.JNDIDir <p>LDAP と統合する場合以外は、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
className.IFactory	<p>インターフェース Ifactory を実装する具体的なクラスの名前を指定します。</p> <p>LDAP と統合する場合以外は、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
className.IName	<p>className.IDir プロパティを使用して、システムが使用しているユーザー・マネージャ・モジュールを指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites: com.openmarket.directory.cs.CSName • LDAP: com.openmarket.directory.jndi.NameWrapper <p>LDAP と統合する場合以外は、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
className.IUserDir	<p>インターフェース IUserDir を実装する具体的なクラスの名前を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites: com.openmarket.directory.cs.CSDir • LDAP: com.openmarket.directory.jndi.LDAPUserDir <p>LDAP と統合する場合以外は、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
className.JNDIName	<p>インターフェース JNDIName を実装する具体的なクラスの名前を指定します。</p> <p>LDAP と統合する場合以外は、このプロパティの値を変更しないでください。</p>

dir.ini: JNDI SPI Env タブ

JNDI SPI Env タブのプロパティは、WebCenter Sites システムで LDAP ユーザー・マネージャ・モジュールの使用が構成されている場合のみ使用されます。

dir.ini: JNDI SPI Env タブのプロパティ

プロパティ	説明
java.naming.factory.initial	使用する初期ファクトリ・クラスを指定します。このプロパティの値は、初期コンテキストを作成するファクトリ・クラスの完全修飾クラス名にする必要があります。 このプロパティの値は変更しないでください。
java.naming.security.authentication	使用するセキュリティ・レベルを指定します。この値は、文字列 <code>none</code> 、 <code>simple</code> 、 <code>strong</code> のいずれかになります。 このプロパティが未指定の場合、セキュリティ・レベルはサービス・プロバイダによって決まります。 デフォルト値: <code>simple</code>
jndi baseURL	ディレクトリ・サーバーのサーバー名およびポート番号を指定します。 この値は、次のフォーマットを使用します。 <code>ldap://<ホスト名>:<ポート></code>
jndi.connectAsUser	ディレクトリ・サーバーにユーザー属性情報を問い合わせる際に、WebCenter Sites が指定ユーザー・アカウントを必要とするかどうかを指定します。 true に設定すると、 <code>jndi.connectAsUser</code> によって、WebCenter Sites が LDAP サーバーにログインすることが指定されます。つまり、WebCenter Sites 自体が、WebCenter Sites システムにログインして問合せを実行するユーザーとして、ディレクトリ・サーバーに情報を問い合わせることになります。たとえば、管理者が WebCenter Sites インタフェースのユーザー情報を調べる場合に、WebCenter Sites がそのユーザー（例： <code>admin</code> ）として問合せを実行します。 false に設定すると、 <code>jndi.connectAsUser</code> によって LDAP サーバーへの直接ログインが指定されます。このため、 <code>jndi.login</code> および <code>jndi.password</code> プロパティで指定された有効なユーザー名 / パスワードの組合せが必要になります。WebCenter Sites はそのユーザー・アカウントを使用して問合せを実行します。

dir.ini: JNDI SPI Env タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
jndi.custom	<p>システム・プロパティです。</p> <p>このプロパティには値を入力しないでください。</p> <p>javax.naming.context に渡すその他の spi 固有変数を指定します。構文は x-www-form-urlencoded 形式に従います。</p>
jndi.login	<p>jndi.connectAsUser が <code>false</code> に設定されている場合にのみ適用されます。</p> <p>WebCenter Sites がディレクトリ・サーバーへの問合せに使用するユーザー・アカウントの完全修飾された完全識別名を指定します。</p>
jndi.password	<p>jndi.connectAsUser が <code>false</code> に設定されている場合にのみ適用されます。</p> <p>WebCenter Sites がディレクトリ・サーバーへの問合せに使用するユーザー・アカウントのパスワードを指定します。この値は暗号化されます。</p>
jndi.poolConnections	<p>jndi.connectAsUser が <code>false</code> に設定されている場合にのみ適用されます。</p> <p>このプロパティを <code>true</code> に設定すると、システムで DirContent 接続のプールが作成されます。</p> <p><code>false</code> に設定すると、jndi.poolsize は無視されます。</p>
jndi.poolsize	<p>プールのサイズを示します。</p> <p>デフォルト値: 20</p> <p>jndi.poolConnections が <code>false</code> に設定された場合、このプロパティは無視されます。</p>
syntax.custom	<p>classINName コンストラクタに渡す classJNDIName 固有変数を指定します。構文は x-www-form-urlencoded 形式に従います。</p>

dir.ini: ネーミング構文タブ

ネーミング構文タブには、ユーザー属性の文字列とその値の解釈方法を決定するプロパティが保持されます。

dir.ini: ネーミング構文タブのプロパティ

プロパティ	説明
syntax.beginquote	引用符付き文字列の開始を定める文字列を指定します。 デフォルト値:
syntax.beginquote2	syntax.beginquote プロパティで指定された値の代替を指定します。
syntax.direction	指定された名前のコンポーネントを読み取る方向を指定します。 可能な値: left_to_right right_to_left flat デフォルト値: left_to_right
syntax.endquote	引用符付き文字列の終了を定める文字列を指定します。 デフォルト値:
syntax.endquote2	syntax.endquote で指定された値の代替を指定します。
syntax.escape	セパレータ、エスケープおよび引用符をオーバーライドするエスケープ文字列を指定します。 DN で「,」、「+」、「-」、「;」などの特殊文字を使用する場合、「¥」をエスケープ文字列として使用することはできません。 デフォルト値: ¥

dir.ini: ネーミング構文タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
<code>syntax.ignorecase</code>	<p>文字列で大文字と小文字が区別されるかどうかを指定します。</p> <p>英字の大文字と小文字を別の文字として区別する必要がある場合は、<code>false</code> に設定します。 (つまり、「admin」と「Admin」が別の語として解釈されます。)</p> <p>英字の大文字と小文字を別の文字として区別する必要がない場合は、<code>true</code> に設定します。 (つまり、「admin」と「Admin」が同じ文字列として解釈されます。)</p> <p>デフォルト値: <code>true</code></p> <p>注意: 「互換性」タブの <code>cleandns</code> プロパティを <code>true</code> に設定する必要がある場合は、このプロパティの値も <code>true</code> に設定する必要があります。</p>
<code>syntax.separator</code>	<p>不可分の名前コンポーネント間で使用されるセパレータ文字を指定します。</p> <p><code>syntax.direction</code> が <code>flat</code> の値に設定された場合を除き、このプロパティは必須です。</p> <p>デフォルト値: <code>,</code></p>
<code>syntax.separatorava</code>	<p>複数の属性 / 値のペアの区切りに使用されるセパレータ文字を指定します。通常はカンマ文字<code>(,)</code>が使用されます。</p> <p>デフォルト値: <code>,</code></p>
<code>syntax.separatortypeval</code>	<p>属性とその値との区切りに使用されるセパレータ文字を指定します。たとえば、等号<code>(=)</code>などが使用されます。</p> <p>デフォルト値: <code>=</code></p>
<code>syntax.trimblanks</code>	<p>文字列の評価時に、スペースおよび空白文字が有意義であるか、無視(トリミング)されるかを指定します。</p> <p>スペースを無視する場合は、<code>true</code> に設定します。</p> <p>文字列の評価時にスペースを考慮する場合は、<code>false</code> に設定します。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>

dir.ini: スキーマ・デフォルト・タブ

スキーマ・デフォルト・タブには、WebCenter Sites に対する次のエンティティを識別するプロパティが保持されます。

- 有効なユーザーとみなされるためにユーザーが保持する必要のあるディレクトリ・サーバー属性。
- ユーザーにデフォルトで割り当てられる属性値(存在する場合)。

dir.ini: スキーマ・デフォルト・タブのプロパティ

プロパティ	説明
defaultGroupAttrs	<p>groupparent プロパティによって指定されたエンティリのすべての子に設定される属性名 / 値のペアを指定します。</p> <p>WebCenter Sites はこの情報を使用して、インストール時に必要なデフォルト・グループを作成します。このため、このプロパティは WebCenter Sites をインストールする前に設定する必要があります。</p> <p>値は www-form-urlencoded 形式で入力する必要があります。</p>
defaultPeopleAttrs	<p>peopleparent プロパティによって指定されたエンティリのすべての子に設定される属性名 / 値のペアを指定します。</p> <p>WebCenter Sites はこの情報を使用して、インストール時に必要なデフォルト・ユーザーを作成します。このため、このプロパティは WebCenter Sites をインストールする前に設定する必要があります。</p> <p>値は www-form-urlencoded 形式で入力する必要があります。</p>
defaultReaderACLS	<p>ログイン・モジュールによって DefaultReader に割り当てられるアクセス制御リスト。</p> <p>デフォルト値: Browser</p>

dir.ini: スキーマ・デフォルト・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
objectclassGroup	<p>WebCenter Sites グループを表すベース・オブジェクトの名前を指定します。 DIR.GROUPMEMBERSHIPS タグは、このプロパティに設定された値を使用して、グループ・エントリをユーザーまたはその他のエントリと区別します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites: groupofuniqueNames • LDAP、iPlanet: groupofuniqueNames • LDAP、Active Directory: group
objectclassPerson	<p>WebCenter Sites ユーザー (個人) を表すベース・オブジェクトの名前を指定します。 DIR.LISTUSERS タグは、このプロパティに設定された値を使用して、ユーザー・エントリをグループまたはその他のエントリと区別します。</p> <p>WebCenter Sites または LDAP の値: person</p>
requiredGroupAttrs	<p>groupParent プロパティによって指定されるエントリのすべての子に値の保有が必須とされる属性を指定します。</p> <p>値は www-form-urlencoded 形式で入力する必要があります。</p>
requiredPeopleAttrs	<p>peopleParent プロパティによって指定されるエントリのすべての子に値の保有が必須とされる属性を指定します。</p> <p>値は www-form-urlencoded 形式で入力する必要があります。</p>

dir.ini: 検索コントロール・タブ

検索コントロール・タブには、ユーザー・マネージャ・プラグインからディレクトリ・サーバーに対して実行される問合せを制約するプロパティが保持されます。

dir.ini: 検索コントロール・タブのプロパティ

プロパティ	説明
search.returnLimit	返されるエントリの最大数を指定します。 検索条件を満たすすべてのエントリを取得するには 0 に設定します。
search.scope	検索の実行対象の階層深度を指定します。指定ノードまたは現在のノードのみの検索、またはそのノードの下位ノードの検索を指定します。 デフォルト値: 2 (指定ノードのすべての下位ノードが検索されます)
search.timeoutVal	結果を待機する秒数を指定します。これを経過するとエラーが返されます。 値 0 は、待機時間に制限がないことを意味します(ネットワーク・タイムアウトの制限によって待機を終了するまで)。

dir.ini: 「ユーザー定義」タブ

dir.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
-------	----

注意: デフォルトでは、このタブにプロパティはありません。

fatwire_settings.properties

fatwire_settings.properties ファイルは、WebCenter Sites ユーザーの「パスワードを忘れた場合」の通知を受信する電子メール・アドレスをポイントするプロパティを保持します。

fatwire_settings.properties: 「ユーザー定義」タブ

fatwire_settings.properties: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
forgotpassword	忘れたパスワードに関するユーザーからの通知を受信する電子メール・アドレスを指定します。このプロパティは、WebCenter Sites ログイン・ページのパスワードを忘れた場合リンクの電子メール・アドレスを設定します。 有効な値:<e-mail address> デフォルト値:admin@localhost

futuretense.ini

futuretense.ini ファイルは、WebCenter Sites のメイン・プロパティ・ファイルです。このプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- アプリケーション・サーバー・タブ
- 「認証」タブ
- 「基本」タブ
- BLOB サーバー・タブ
- 「クラスタ」タブ
- 「互換性」タブ
- 「コンテンツ表」タブ
- 「データベース」タブ
- 「デバッグ」タブ
- 「電子メール」タブ
- 「エクスポート / ミラー」タブ
- 「JSP」タブ
- その他タブ
- 「ページ・キャッシュ」タブ
- 「結果セットのキャッシュ」タブ
- Satellite Server タブ
- 「検索」タブ
- 「ユーザ一定義」タブ

futuretense.ini: アプリケーション・サーバー・タブ

アプリケーション・サーバー・タブには、WebCenter Sites にアプリケーション・サーバーに関する情報を提供する futuretense.ini プロパティが保持されます。

futuretense.ini: アプリケーション・サーバー・タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.eventhost	<p>アプリケーション・サーバー上でイベント・エンジンを実行するためのホスト・ストリング。クラスタ化された環境では、このプロパティをクラスタ・メンバーのそれぞれで設定し、プライマリ・クラスタ・メンバー、またはクラスタ・メンバー自体をポイントする必要があります。2番目のオプションはフェイルオーバーに備えて用意されています。</p> <p>有効な値: <code>http://<ホスト名>:<ポート番号></code></p>
ft.cgipath	<p>WebCenter Sites オブジェクトがインストールされる Web サーバーの CGI ディレクトリ。URL の構成およびフォーム・アクションで使用されます。</p> <p>値の末尾は必ずスラッシュ (/) にする必要があります。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>/NASApp/CS/</code>: Sun ONE アプリケーション・サーバー (iAS) を使用する場合。このパスは Sun ONE インストール時に使用されるパスとして定義されます。 <code>/servlet/</code>: HTTP サーブレット・アプリケーション環境 (WebLogic など) の場合。

futuretense.ini: 「認証」 タブ

「認証」 タブには、WebCenter Sites システムで使用されているユーザー・マネージャ・プラグインに基づいてインストール時に構成されたユーザー認証プロパティが保持されます。これらのプロパティには、使用中のユーザー管理モジュールに関係なく適用されるものもあれば、NT 認証を使用している場合にのみ適用されるものもあります。

ユーザー・マネージャ・プラグインのメイン構成ファイルは、dir.ini ファイルです。これも参照してください。37 ページの [「dir.ini」](#) を参照してください。

futuretense.ini: 「認証」 タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.manageACL	<p>WebCenter Sites のデフォルトの ACL の名前と権限の関係のマスク機能を置換するクラスを指定します。</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>
cs.manageproperty	<p>使用しているユーザー・マネージャ・モジュールに応じて、LDAP プラグインまたは NT 認証プラグインを構成する適切なプロパティ・ファイルの名前を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> LDAP の場合の値の設定: dir.ini NT の場合の値の設定: futuretense.ini
cs.manageUser	<p>当該の WebCenter Sites システムで使用するユーザー・マネージャ・プラグインを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトの WebCenter Sites プラグインを使用している場合、この値は空白になります。WebCenter Sites は、データベースの認証と認可を使用します。 LDAP を使用している場合、この値は com.openmarket.directory.jndi.auth.JNDILogin です。 NT 認証を使用している場合、この値は com.FutureTense.NTUserGroups.ValidateLogin.NTUserGroupsLogin です。 <p>このプロパティは、WebCenter Sites システムが LDAP またはその他の外部システムと統合されるときに設定されます。インストール後はこの値を変更しないでください。デフォルトでは空白です。</p> <p>注意: このプロパティの設定時は、cs.manageproperty も設定する必要があります。</p>

futuretense.ini: 「認証」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.manageUserAccess	WebCenter Sites のデフォルトのリソース別のユーザーと権限の関係の参照機能を置換するクラスを指定します。 このプロパティの値は変更しないでください。
cs.manageUserSystem	WebCenter Sites システムが NT 認証をしている場合にのみ適用されます(つまり、cs.manageUser で NT プラグインが指定されている場合)。 WebCenter Sites がユーザーの認証に使用する NT ドメイン名のカンマ区切りリストを指定します。 認証は、ドメインのリストによって指定された順序で実行されます。これらのドメインのいずれかでユーザー名 / パスワードの組合せが検出されると、そのユーザーが有効なユーザーとして宣言されます。 ローカル・システムはピリオド(.) を使用して指定します。 cs.manageUser で NT プラグインが指定され、このプロパティで設定されているドメイン名が存在しない場合、WebCenter Sites はローカル NT ドメインのみで認証を試行します。 この値はインストール時に設定されています。
cs.ssovalidator	このプロパティは SSO バリデータ・プラグインを指定します。 デフォルトで WEM フレームワークがインストールされている場合は次のデフォルト値になります。 com.fatwire.wem.sso.cas.cs.plugin. SSOValidatorPlugin
ntlogin.DefaultACL	NT ユーザー・マネージャ・プラグインのみ。 すべてのユーザーにデフォルトで割り当てるすべての ACL のカンマ区切りリスト。 デフォルトでは、この値は空白です。
ntlogin.DefaultReaderACL	NT ユーザー・マネージャ・プラグインのみ。 デフォルトの Reader アカウントとして使用されるアカウントに割り当てる ACL リスト。 デフォルトでは、この値は空白です。

futuretense.ini: 「認証」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
ntlogin.DefaultReaderID	NT ユーザー・マネージャ・プラグインのみ。 デフォルトの Reader アカウントとして使用されるユーザー名。 デフォルトでは、DefaultReader に設定されます。 この値は空白にしてもかまいません。
ntlogin.DefaultReaderPW	NT ユーザー・マネージャ・プラグインのみ。 NT 認証モジュールでデフォルトの Reader アカウントとして使用されるユーザー名のパスワード。 <code>ntlogin.DefaultReaderID</code> に値が存在する場合は必須です。 デフォルトでは、SomeReader に設定されます。この値は暗号化されます。
ntlogin.LogFile	NT ユーザー・マネージャ・プラグインのみ。 NT 認証モジュールからのデバッグ情報が書き込まれるファイルへの完全パス。 (<code>ntlogin.Logging</code> が <code>true</code> に設定されている場合のみ使用されます。)
ntlogin.Logging	NT ユーザー・マネージャ・プラグインのみ。 NT 認証モジュールのデバッグを有効または無効にします。 可能な値: <code>true</code> <code>false</code>
singlesignon	<code>true</code> に設定すると、シングル・サインオンをサポートする認証プラグインのシングル・サインオンが有効化されます。 WEM フレームワークがデフォルトでインストールされるため、このプロパティは <code>true</code> に設定されます。

futuretense.ini: 「基本」 タブ

「基本」 タブには、WebCenter Sites サーブレットが使用するセキュリティ設定、セッション・タイムアウト、Global Unique Identifierなどを制御する futuretense.ini プロパティが保持されます。

futuretense.ini: 「基本」 タブのプロパティ

プロパティ	説明
bs.security	<p>データベース・アクセスおよびイメージの取得を許可する前に、BlobServer サーブレットがセキュリティをチェックするかどうかを指定します。セキュリティがオンの場合は、イメージをメモリーにキャッシュできません。</p> <p>BlobServer セキュリティを有効にすると、BlobServer サーブレットは、次の例に示すように URL に csblobid パラメータが存在し、その値が同じ名前のセッション変数と一致する場合のみデータを提供します。</p> <pre></pre> <p>可能な値: true false</p>
cc.security	<p>データベース・アクセスを許可する前に、WebCenter Sites がセキュリティをチェックするかどうかを指定します。このプロパティは、特別なクラスを除いて常に true に設定されます。</p> <p>可能な値: true false</p>
cs.barEqualsSlash	<p>Internet Explorer ブラウザがページ名に含まれるバー()文字をスラッシュ(/)と解釈するかどうかを指定します。</p> <p>可能な値: true false</p> <p>たとえば、true に設定すると、Internet Explorer では pagename=folder subfolder page が pagename=folder/subfolder/page と同じ ページであると解釈されます。</p> <p>デフォルト値: false</p>
cs.session	<p>WebCenter Sites が各ユーザーのブラウザ・セッションを開始および管理するかどうかを指定します。</p> <p>可能な値: true false</p> <p>cc.security が true に設定されている場合は、false に設定できません。</p>

futuretense.ini: 「基本」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.timeout	<p>アプリケーション・サーバーが接続からログアウトし、ブラウザ・セッションを終了するまで、接続をアイドルで保持できる秒数を指定します。アイドル時間とは、WebCenter Sites の HTTP リクエスト間の時間です。</p> <p>デフォルト値: 300 (5 分)</p> <p>注意: 承認システムがアセットを承認する場合は、バックグラウンド・プロセスではありません。したがって、「複数アセットの承認」機能を使用する場合は、必ずこのプロパティをアセットのバッチの承認に要する時間より大きい値に設定して、ブラウザ・セッションがタイムアウトにならないようにします。この設定は実験が必要ですが、1800 秒 (30 分) の設定から開始できます。</p>
cs.uniqueidpoolsize	<p>1 度にキャッシュされる一意およびクラスタセーフの ID 番号の数を指定します。 (WebCenter Sites では、データベース表のすべての行に一意の ID が生成されます。)</p> <p>デフォルト値: 100</p>
cs.wrapper	<p>非推奨です。 WebCenter Sites HTML ラッパー・ページを使用する必要があるか (使用可能であるか) を指定します。</p> <p>デフォルト値: true</p> <p>アプリケーション・サーバーに Web サーバーに対する HTTP アクセスがない WebCenter Sites システム、またはセキュリティ上の理由によってラッパー・ページを保持するディレクトリを削除した場合はこの値を false に設定します。</p> <p>『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』も参照してください。</p>
ft.version	<p>WebCenter Sites アプリケーションのバージョン番号を指定します。</p> <p>この値は変更しないでください。</p>

futuretense.ini: 「基本」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
secure.CatalogManager	<p>DefaultReader ユーザーが CatalogManager サーブレットにアクセスできるかどうかを指定します。</p> <p>可能な値: true false</p> <p>インストール時はこのプロパティが false に設定されています。インストール後に必ずこの値を true に変更してください。</p> <p>詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
secure.DebugServer	<p>セキュリティが有効なときに、DefaultReader が指定されたサーブレットに接続できるかどうかを制御します。true に設定されると、DefaultReader は接続できません。</p> <p>可能な値: true false</p>
secure.TreeManager	<p>DefaultReader ユーザーが TreeManager サーブレットにアクセスできるかどうかを指定します。</p> <p>デフォルト値: true</p> <p>詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>

futuretense.ini: BLOB サーバー・タブ

BLOB サーバー・タブには、BlobServer サーブレットを構成するプロパティが保持されます。BlobServer は BLOB を提供します。これは、表から BLOB を収集して、必要なすべてのセキュリティ・チェックを実行します。BlobServer が BLOB を提供する際は、WebCenter Sites と Satellite Server の両方でキャッシュされます。

futuretense.ini: BLOB サーバー・タブのプロパティ

プロパティ	説明
bs.bCacheSize	デフォルトで(メモリーに)キャッシュ可能な BLOB の数を指定します。 デフォルト値: 100

futuretense.ini: BLOB サーバー・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
bs.bCacheTimeout	<p>メモリー内で BLOB をキャッシュした状態で保持できる秒数を指定します。 BlobServer サーブレットの再起動時は常にメモリー・キャッシュがクリアされることに注意してください。</p> <p>このプロパティは、 CacheManager の動作に次のように影響します。</p> <p>SystemItemCache 表上の BLOB に対して構成上の依存関係が記録されている場合、 BLOB がキャッシュから消去された後に表から削除されるよう構成されます。これにより SystemItemCache 表の肥大化が防止されます。しかし、表からエントリを削除することにより CacheManager が第 2 層のキャッシュから対応する BLOB を削除できなくなり、古いデータがユーザーに表示されることがあります。</p> <p>可能な値: 負の整数、0、正の整数</p> <p>デフォルト値: -1</p> <p>直前に使用された BLOB でキャッシュが満杯であるために消去される場合を除き、 BLOB が永続的にメモリー内にキャッシュされて保持されます。</p> <p>注意: このプロパティの値は、 <code>cs.manage.expired.blob.inventory</code> に次のように影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 以下の値は、 <code>cs.manage.expired.blob.inventory</code> に何も影響しません。 • <code>cs.manage.expired.blob.inventory</code> が <code>true</code> に設定されているときに正の整数では、 CacheManager が正しく動作することが保証されますが、一方で SystemItemCache 表が拡大するコストが発生します。 <p><code>cs.manage.expired.blob.inventory</code> の詳細は、 87 ページ を参照してください。</p>
bs.invalidheadernames	<p>BlobServer で無視される無効ヘッダーのカンマ区切りリスト。</p> <p>デフォルト値: Set-Cookie</p>

futuretense.ini: BLOB サーバー・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.recordBlobInventory	BLOB に対する構成上の依存関係を記録するかどうかを指定します。CacheManager で BLOB を操作する場合は、このプロパティを true(デフォルト) に設定する必要があります。 可能な値: true false デフォルト値: true

futuretense.ini: 「クラスタ」タブ

「クラスタ」タブには、WebCenter Sites システムがクラスタ内にインストールされた場合に、WebCenter Sites がクラスタ内のすべてのサーバーとの通信に使用するプロパティが保持されます。

futuretense.ini: 「クラスタ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cc.cacheNoSync	<p>クラスタ・メンバーによる表の更新後も WebCenter Sites によってキャッシュされたデータベース問合せのトランザクション・データの存続が許容されるかどうかを指定します。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p> <p>次のフォーマットでプロパティを追加することによって、表ごとに固有の値を設定できます。</p> <p><code>cc.<sometable>CSync=<true または false></code></p>
ft.sync	<p>クラスタ・メンバーが共有データベースに使用する DSN など、クラスタ化されたサーバーのシンクロナイザ・キーを定義する識別子または値。各クラスタ・メンバーの <code>ft.sync</code> 値は統一されている必要があります。</p> <p><code>true</code> または <code>yes</code> に設定すると、同期が有効化され、追加のアセット・レベルのロックが有効になります。このモードは、高頻度のアセット変更向けに設計されたアセット・ロック・メカニズムを使用するため、クラスタ化された編集システムでの使用を想定しています。</p> <p><code>true</code> または <code>yes</code> 以外の値に設定すると、同期は有効化されますが、追加のアセット・レベル・ロックは有効化されません。このモードは、低頻度のアセット変更向けに設計されたアセット・ロック・メカニズムを有効にするため、クラスタ化された配信システムでの使用を想定しています。</p> <p>注意: <code>ft.sync</code> の値は指定することをお薦めします。</p> <p>有効な値: <文字列> <空白></p>
ft.usedisksync	<p>クラスタ全体でデータを同期するための共有ファイル・システム・フォルダを指定します。</p> <p><code>ft.sync</code> プロパティによって同期がオンに設定されているときは、このプロパティを有効なフォルダに設定します。たとえば、読み取り/書き込みアクセスがあるディレクトリに設定します。</p>

futuretense.ini: 「互換性」タブ

「互換性」タブには、旧バージョンの WebCenter Sites との下位互換性に必要な値を設定するプロパティが保持されます。

futuretense.ini: 「互換性」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.cookievariables	<p>サーブレット・リクエスト情報に Cookie 変数を作成する必要があるかどうかを指定します。</p> <p>Cookie 変数の生成は、ページ・リクエストのページ基準を混乱させる可能性があり、外部ページでのみ機能します。</p> <p>有効な値: <code>false</code></p>
cs.dataindatabase	大型のデータをデータベースに保存するか、アップロード列としてファイル・システムに保存するかを指定します。
cs.httpvariables	<p>非推奨です。</p> <p>製品の 4.0 より前のバージョンで必須であったように、HTTP ヘッダー情報を格納する WebCenter Sites 変数をページ・リクエストごとに作成するかどうかを指定します。4.0 以降は、FatWire Content Server が同じ機能を実行する組込み変数を提供します。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p> <p>パフォーマンスを最適化するには、この値の設定を <code>false</code> のままにします。開発者がサイト・ページの HTTP 変数の取得を必要とする場合は、組込み変数を使用することで、必要とする値を取得できます。</p>
cs.satellitehosts	<p>WebCenter Sites をホストするサーバー上の CacheManager から通信を行う必要がある Satellite サーブレットをホストするサーバーのホスト名を指定します。</p> <p>ホスト名のカンマ区切りリストを入力します。各ホストの値には、WebCenter Sites サーブレットへのパスを含める必要があります。</p> <p>次のフォーマットを使用します。</p> <pre>http://<ホスト名 : ポート>/<サーブレット>/</pre> <p>必要に応じて、HTTPS や特殊なポートを使用できます。構成上必要な場合は、必ず完全修飾ドメイン名を指定してください。</p> <p>デフォルトではサーバー上に存在する Satellite サーブレットがリストに記載されます。</p>

futuretense.ini: 「互換性」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.satellitepassword	<p><code>cs.satelliteusers</code> で指定されたユーザー・アカウントのパスワードを指定します。デフォルトではこのサーバー上に存在する Satellite サーブレットのパスワードがリストされることに注意します。</p> <p>このプロパティの値は、单一文字列として暗号化されます。このため、このプロパティの値を編集する際は、カンマをデリミタとしてすべての Satellite サーブレットのすべてのパスワードを入力する必要があります。</p> <p>パスワードのカンマ区切りリストは、<code>cs.satelliteusers</code> プロパティに入力した対応ユーザーの順序と一致する順序で入力します。このリストの順序が、<code>cs.satellitehosts</code> プロパティで指定したホスト名のリストの順序と一致していることも確認する必要があります。</p>
cs.satelliteusers	<p>Satellite Server ホストのユーザー名を指定します。デフォルトではサーバー上に存在する Satellite サーブレットのユーザー名がリストに記載されることに注意します。</p> <p>ユーザー名のカンマ区切りリストは、<code>cs.satellitepassword</code> プロパティで指定したパスワードのリストと一致する順序で入力します。</p>
cs.selfmodify	<p>特定のユーザーに対して変更が許可された属性のカンマ区切りリストを指定します。</p> <p>現在は、<code>password</code> パスワードのみサポートされます。</p> <p>下位互換性を完全にするには、このプロパティを空白に設定して、<code>SystemUsers</code> 表に対する書き込み権限がユーザーに付与されることを確実にします。</p>
cs.xmlHeaderAutoStream	<p>WebCenter Sites に対して、レスポンスの最初のコンテンツとしてプロパティ <code>cs.xmlHeader</code> での定義どおりの XML ヘッダーをストリームするかどうかを指示します。</p> <p>このプロパティを <code>true</code> に設定すると、WebCenter Sites では、ヘッダーがレスポンスに自動的に挿入されます。<code>false</code> に設定されている場合、WebCenter Sites は何も実行しません。レスポンスが SOAP レスポンスでない場合、このプロパティは完全に無視され、ヘッダーは挿入されません</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>

futuretense.ini: 「互換性」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
ft.approot	<p>非推奨です。</p> <p>このプロパティは、使用されなくなりました。一部の状況で、下位互換性保持のために必要な場合があります。</p>
ft.catalogmanager	<p>CatalogManager サービスの Global Unique Identifier (GUID) を定義します。このプロパティは参照のみを目的としています。</p> <p>デフォルト値: {40DD4E30-8DE2-11D1-8599-0080C7D07E91}</p> <p>この値は変更しないでください。</p>
ft.contentserver	<p>次の GUID を定義します。</p> <p>ContentServer servlet このプロパティは参照のみを目的としています。</p> <p>デフォルト値: {29434AD0-8DE2-11D1-8599-0080C7D07E91}</p> <p>この値は変更しないでください。</p>
ft.treemanager	<p>Treemanager サーブレットの GUID を定義します。</p> <p>この値は変更しないでください。</p>
security.checkpagelets	<p>包含ページにネストされたページレットの表示をユーザーに許可する前に、WebCenter Sites でセキュリティをチェックするかどうかを指定します。</p> <p>セキュリティを実装するには、cc.security プロパティを <code>true</code> に設定することも必要です。</p> <p>デフォルト値: <code>true</code></p> <p><code>false</code> に設定すると、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共存 Satellite Server が存在しないシステムでは、cc.security が <code>true</code> に設定されていても、ページやページレットのセキュリティはチェックされません。 ・ スタンドアロンの Satellite Server のあるシステム、または WebCenter Sites のみのシステムの場合、最初のページまたは最も外側のページのセキュリティはチェックされますが、ネストされたページレットのセキュリティはチェックされません。

futuretense.ini: 「コンテンツ表」タブ

「コンテンツ表」タブには、WebCenter Sites データベースのすべてのコンテンツ表（オブジェクト表とは異なる）のデフォルトの主キー列を指定するプロパティが保持されます。

開発者がオンライン・サイトをサポートするコンテンツ表を作成する場合は、表固有のプロパティを作成することによってデフォルトで指定された以外の列をそのコンテンツ表の主キー列にするように指定できます。次のフォーマットを使用します。

cc.<表名>Key=<列名>

たとえば、WebCenter Sites で Category 表（ベーシック・アセット・タイプで使用される）をインストールするときは cc.CategoryKey という名前のプロパティが作成されます。cc.CategoryKey プロパティおよび作成した新規のプロパティは、「コンテンツ表」タブではなく、「ユーザー定義」タブに表示されます。

注意

WebCenter Sites のコンテンツ表で指定されたキー値は変更しないでください。

次の表は、コンテンツ表プロパティを示しています。

futuretense.ini: 「コンテンツ表」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cc.contentkey	<p>WebCenter Sites データベースのコンテンツ表の主キーとして機能する列の名前を指定します。これは、別の主キーを設定する表固有のプロパティが存在しないすべてのコンテンツ表に適用されるデフォルト設定です。</p> <p>WebCenter Sites コンテンツ・アプリケーションのインストール時に設定される値: id</p> <p>注意: このプロパティの値は変更しないでください。変更すると、WebCenter Sites のコンテンツ・アプリケーションは機能しません。</p> <p>個別のコンテンツ表で別の主キーを指定するには、この表の前の段落の説明に従って表固有のキー・プロパティを作成します。</p>

futuretense.ini: 「データベース」タブ

「データベース」タブには、データベース名やユーザー・アクセスのプロパティなどの一般的なデータベース構成プロパティと、データベースでの日付 / 時間の解釈方法などのベンダー固有のプロパティの両方が保持されます。

システム間でアセットやその他の作業の移動を可能にするには、WebCenter Sites システムの開発、管理、および配信の各システムで、データベース・プロパティを同じ値に設定する必要があります。

注意

データベース・プロパティは、WebCenter Sites のインストール・プロセスで設定されます。インストール・プロセスにおけるプロパティ値の決定や設定に関するサポートが必要な場合は、Oracle テクニカル・サポートにお問い合わせください。WebCenter Sites のインストール後にこれらのプロパティの値を変更しないでください。

プロパティ値がどのように決定されたかが不明の場合は、データベース管理者または WebCenter Sites のインストール担当者に確認してください。

futuretense.ini: 「データベース」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cc bigint	<p>64 ビット整数フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: NUMBER(38) • SQL Server: BIGINT • DB2: BIGINT <p>この表の前に記載されている注意も参照してください。</p>
cc bigtext	<p>ラージ・テキスト・フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: CLOB • SQL Server: TEXT • DB2: LONG VARCHAR <p>この表の前に記載されている注意も参照してください。</p>

futuretense.ini: 「データベース」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.blob	<p>BLOB (Binary Large Object) フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: BLOB • SQL Server: IMAGE • DB2: LONG VARCHAR FOR BIT DATA <p>この表の前に記載されている注意も参照してください。</p>
cc.char	<p>CHAR データ型を定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: CHAR • SQL Server: CHAR • SQL Server、多言語 Unicode: NCHAR • DB2: CHAR <p>この表の前に記載されている注意も参照してください(67 ページ)。</p>
cc.datepicture	<p>WebCenter Sites で日付 / 時間リテラルを作成する方法を指定します。</p> <p>デフォルト値: {ts \$date}</p> <p>この表の前に記載されている注意も参照してください(67 ページ)。</p>
cc.datetime	<p>日付 / 時間フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle 8: DATE • Oracle 9: TIMESTAMP • SQL Server: DATETIME • DB2: TIMESTAMP <p>この表の前に記載されている注意も参照してください(67 ページ)。</p>

futuretense.ini: 「データベース」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.double	<p>ダブル・フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> Oracle: NUMBER(38,10) SQL Server: NUMERIC(28,10) DB2: FLOAT <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>
cc.forcelower	<p>WebCenter Sites が作成する表の列名のすべてに小文字が使用されることを指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> Oracle: true SQL Server: false DB2: true <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>
cc.ignoreTblCase	<p>表名にアクセスする際に WebCenter Sites が大文字と小文字の区別を無視するかどうかを決定します。</p> <p>可能な値: yes no</p> <p>データベース内で「tablename」と「TABLENAME」が別の表であるとみなされる場合は、この値を no に設定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> Oracle: yes SQL Server: yes DB2: yes <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>
cc.integer	<p>32 ビット整数フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> Oracle: NUMBER(10) SQL Server: INT DB2: INTEGER <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>

futuretense.ini: 「データベース」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.maxvarcharsize	<p>データベースの varchar 列の最大サイズを指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: 2000 • SQL Server: 8000 • DB2: 4000 <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>
cc.null	<p>NULL 値が許容されるフィールドを定義する SQL 文字列を指定します。ほとんどのデータベースで NULL がサポートされますが、これは非標準です。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: NULL • SQL Server: NULL • DB2: 空白 <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>
cc.numeric	<p>数値フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: NUMBER • SQL Server: NUMERIC • DB2: NUMERIC <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>
cc.primary	<p>主キーを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: PRIMARY KEY NOT NULL • SQL Server: PRIMARY KEY NOT NULL • DB2: PRIMARY KEY NOT NULL <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください(67 ページ)。</p>

futuretense.ini: 「データベース」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.queryablemaxvarcharlength	使用中のデータベース・ドライバに基づいて、問合せが可能な varchar 列の最大サイズを指定します。 <ul style="list-style-type: none">Oracle Thin: 255Oracle TypeII: 2000SQL Server: 255DB2: 255
cc.rename	データベース・ベンダーの必要に応じて、データベース内の表の名前を変更する SQL 文字列を指定します。 可能な値: <ul style="list-style-type: none">Oracle: rename %1 to %2SQL Server: execute sp_rename %1,%2DB2: rename %1 to %2 <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>
cc.smallint	16 ビット整数フィールドを定義する SQL 文字列を指定します。 可能な値: <ul style="list-style-type: none">Oracle: NUMBER(5)SQL Server: SMALLINTDB2: SMALLINT <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>
cc.stringpicture	WebCenter Sites で文字列リテラルを作成する方法を指定します。 可能な値: <ul style="list-style-type: none">Oracle: '\$string'SQL Server: '\$string'SQL Server、多言語 Unicode: 'N '\$string'DB2: '\$string' <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>

futuretense.ini: 「データベース」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.unique	<p>一意のフィールドを定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle: UNIQUE NOT NULL • SQL Server: UNIQUE NOT NULL • DB2: UNIQUE NOT NULL <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>
cc.varchar	<p>VARCHAR データ型を定義する SQL 文字列を指定します。</p> <p>可能な値: NVARCHAR に設定された多言語 Unicode である SQL Server を除き、サポートされるすべてのデータベースで VARCHAR</p> <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>
cs.dbconnpicture	<p>JNDI データソースで使用されるデータベース接続文字列のフォーマットを指定します。</p> <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>
cs.dbtype	<p>接続先のデータベースのタイプを定義します。</p> <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>
cs.dsn	<p>データベースに接続するためのデータベース JNDI データソース名を格納します。</p> <p>この表の前に記載されている注意も 参照してください (67 ページ)。</p>
cs.privpassword	<p>読み取り / 書込みアクセスに使用されるデータベース・アカウント名 (cs.privuser) のパスワードを指定します。この値は暗号化されます。</p>
cs.privuser	<p>データベースに対する読み取り / 書込みアクセスに使用されるデータベース・アカウント名を指定します。セキュリティ上の理由により、デフォルトのユーザー名 / パスワードの組合せをシステムで使用しないようにする必要があります。</p> <p>デフォルト値: ftuser (インストール時に設定)</p>

futuretense.ini: 「デバッグ」タブ

注意

デバッグのロギングの有効化の詳細は、22 ページの [「commons-logging.properties」](#) を参照してください。『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』のエラー・ロギングとデバッグに関する項も参照してください。

デバッグのロギングを有効にする場合は、以下に注意してください。

- ログ・ファイルが大きくなると、WebCenter Sites のパフォーマンスに影響する場合があるため、WebCenter Sites のログ・ファイルは頻繁に削除またはアーカイブしてください。
- デフォルトでは、すべてのデバッグ・ログ・メッセージが单一のログ・ファイルに入力され、デバッグがより困難になることがあります。デバッグ・メッセージを別のログ・ファイルに配置するには、[logging.per-client-log](#) プロパティを `true` に設定します。このプロパティは [34 ページ](#) で定義されます。

futuretense.ini: 「デバッグ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
<code>ft.debugport</code>	非推奨です。DebugServer がテンプレート・デバッガ・ユーティリティとの通信に使用するポートを指定します。ポート番号は 1024 より大きくする必要があります。 デフォルト値: 1025
<code>ft.suppressPasswords</code>	名前に文字列「password」または「PASSWORD」が含まれる入力またはセッション変数がログに記録されないようにします。 デフォルト値: <code>true</code> パスワードをログに含めるには、 <code>false</code> を指定します。
<code>ft.suppressPasswordNames</code>	<code>ft.suppressPasswords</code> が <code>true</code> に設定されているときに、パスワードとして使用される変数名が抑制されることを指定します。 Cheetah インストーラでは、このプロパティが下記のように設定され、 <code>REMOTEPASS;pubtgt:factors;factors</code> ログ内でミラー・パブリッシュ・ターゲット・パスワードを抑制します。

futuretense.ini: 「電子メール」タブ

「電子メール」タブには、WebCenter Sites 電子メールシステム機能を構成するプロパティが保持されます。futuretense_xcel.ini では、ワークフロー・プロセスによってアセットがワークフロー参加者に割り当てられている場合に、「プリファレンス」タブの追加プロパティ xcelerate_emailnotification によって、WebCenter Sites ワークフロー電子メール・システムにおけるワークフロー参加者への通知の送信が有効化されることに注意が必要です。

futuretense.ini: 「電子メール」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs_emailaccount	<p>メールの送信に使用されるユーザー・アカウント名を指定します。これは、SMTP サーバー上のアカウント名です。</p> <p>SMTP 認証が必要な場合は、このプロパティの値を設定する必要があります。</p>
cs_emailauthenticator	<p>メール操作の認証プロバイダとして使用されるクラスを指定します。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.framework.mail.ICSAuthenticator</p>
cs_emailcharset	<p>電子メール・メッセージの件名のテキストで使用されるデフォルトの文字セットを指定します。</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Latin1: ISO-8859-1 • 日本語 (Shift_JIS): Shift_JIS • UTF-8: UTF-8 <p>このプロパティが空白の場合、その値はデフォルトの UTF-8 に戻されます。</p>
cs_emailcontenttype	<p>電子メール・メッセージの本文テキストで使用されるデフォルトの文字セットを指定します。</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Latin1: text/html; charset=ISO-8859-1 • 日本語 (Shift_JIS): text/html; charset=SJIS • UTF-8: text/html; charset=UTF-8 <p>このプロパティが空白の場合、その値はデフォルトの text/plain に戻されます。</p>

futuretense.ini: 「電子メール」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.emailhost	ContentServer サーブレットで電子メール・メッセージの作成と配信に使用される SMTP (電子メール・サーバー) ホストを定義します。 メールの送受信には有効値が必要です。
cs.emailpassword	WebCenter Sites で使用される電子メール・アカウント (cs.emailaccount によって指定) のパスワードを指定します。 メールの受信には有効値が必要です。
cs.emailreturnto	メールの送信元の電子メール・アドレスを指定します。言い換えると、電子メール・メッセージの「送信元」フィールドに表示される電子メール・アドレスです。 次のいずれかのフォーマットを使用します。 user@domain.com Full Name <user@domain.com> メールの送信には有効値が必要です。

futuretense.ini: 「エクスポート / ミラー」タブ

「エクスポート / ミラー」タブには、WebCenter Sites パブリッシュ・システムで使用されるエクスポートおよびミラー API を構成するプロパティが保持されます。これらのプロパティは、[futuretense_xcel.ini](#) ファイルの「パブリッシュ」タブに配置されたプロパティと連携して機能します。

WebCenter Sites システムのパブリッシュ操作を構成する際は、開発、管理、配信の各システムで、次の条件を評価します。

- ソースは、パブリッシュ・セッションのソースである WebCenter Sites データベースを意味します。任意の WebCenter Sites システム間でアセット、およびサイト構成情報をミラーリングできるため、ソースは WebCenter Sites 管理システムでなくてもかまいません。
- ターゲットは、ミラーリング先の WebCenter Sites データベース、またはエクスポート先のファイル・サーバーを意味します。

パブリッシュの詳細は、[『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』](#)を参照してください。

futuretense.ini: 「エクスポート / ミラー」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.mirrorhttpversion	WebCenter Sites のターゲット・データベースとの通信に使用する HTTP プロトコルを指定します。 デフォルト値: 1
cs.mirrorpassword	システムのパブリッシュ先のターゲット・システム上のミラー・ユーザーのパスワードを指定します。この値は、パブリッシュ用の WebCenter Sites システムをセットアップするときに設定します。 詳細は、 『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』 を参照してください。
cs.mirrorproxyserver	ターゲットとソースがファイアウォールで分離されているときに、(ソース)システムのパブリッシュ先であるターゲット・システムの、ファイアウォールの IP アドレスまたは名前を指定します。この値は、パブリッシュ用の WebCenter Sites システムをセットアップするときに設定します。 可能な値: your_server_name、または your_server_ip_address 詳細は、 『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』 を参照してください。

futuretense.ini: 「エクスポート/ミラー」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.mirrorproxyserverport	<p>ターゲット・システムがソースとファイアウォールで分離されているときに、システムのパブリッシュ先である WebCenter Sites システムのファイアウォール・サーバーのポート番号を指定します。この値は、パブリッシュ用の WebCenter Sites システムをセットアップするときに設定します。</p> <p>可能な値: ポート番号</p> <p>詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
cs.mirrorrowsperpost	<p>ミラー操作時に、HTTP POST のそれぞれでミラーリングが可能な表の行数を指定します。</p> <p>ミラーリング・データに URL フィールドが含まれる場合は、Web サーバーによってポスト・パケットのサイズに制限が課せられるため、この値を低い数値に設定する必要があります。</p> <p>ミラーリング・データに含まれるもののがテキストのみの場合は、高い数値に設定できます。</p> <p>デフォルト値: 6</p> <p>注意: 最適なパフォーマンスを得るには、この値を 12 より大きくしないでください、データベースが UTF-8 で構成され非 ASCII コンテンツを保持している場合は、この値を 4 以下に設定する必要があります。</p>
cs.mirrorthreads	<p>1 つのミラー操作に割り当てるスレッド数を指定します。</p> <p>デフォルト値: 2</p> <p>注意: 最適なパフォーマンスを得るには、この値を 8 より大きくしないでください。</p>
cs.mirroruser	<p>この (ソース) システムのパブリッシュ先であるターゲット・システムのミラー・ユーザーの名前を指定します。この値は、システムでパブリッシュを設定する際に設定します。</p> <p>詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>

futuretense.ini: 「エクスポート/ミラー」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.pgexportfolder	「ディスクにエクスポート」配信タイプでアセットがパブリッシュされるときに作成された HTML ファイルのベース・エクスポート・ディレクトリを指定します。 <ul style="list-style-type: none">Windows NT の例: c:/FutureTense/exportSolaris の例: /export/home/FutureTense/pgexport

futuretense.ini: 「JSP」タブ

「JSP」タブには、WebCenter Sites が JavaServer Page ファイルの提供時に参照する情報を提供するプロパティが保持されます。

futuretense.ini: 「JSP」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.jspclear	<p>WebCenter Sites エンジンが WebCenter Sites によってデプロイされた最初の JSP を最初に実行するときに、以前デプロイされた JSP ファイルを削除し、アプリケーション・サーバーの作業フォルダ (temp および class files) をクリアするように、WebCenter Sites エンジンを構成します。</p> <p>作業フォルダは、アプリケーション・サーバーによって定義されます。</p> <p>可能な値: true false</p>
cs.jsppath	<p>デプロイされた JSP ページを実行する仮想ルート (ゾーン) を指定します。このプロパティは、cs.jsproot とともに使用されるため、2 つのプロパティが同期している必要があります。</p> <p>デフォルト値: cs.jsproot の WebLogic 設定と同期し、インストール時に設定されます。</p> <p>注意: インストール後にこのプロパティの値を変更しないでください。</p>
cs.jsprefresh	<p>WebCenter Sites エンジンが新規、または変更された JSP エレメントをデプロイする際に、JSP のデプロイメントを完了するためにアプリケーション・サーバーが特別な処理を要求することがあります。このような場合は、このプロパティでデプロイメントを完了するクラスの名前を指定します。その他の場合は、空白のままにします。</p>
cs.jspresponsewrapper	<p>JSP エレメントの実行時にアプリケーション・サーバーで PrintWriter が要求されるかどうかを指定します。WebCenter Sites サイトのインストールの際に、これは使用するアプリケーション・サーバーのタイプに応じて適切な値に設定されます。</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>

futuretense.ini: 「JSP」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.jsproot	<p>アプリケーション・サーバーが JSP ファイルの検索先として予期するディレクトリを指定します。一部のアプリケーション・サーバーでは、プロパティ設定を使用することによってこの値を変更できます。WebLogic では、その JSPServlet オブジェクトに <code>weblogic.httpd.initArgs</code> が定義されます。</p> <p><code>cs.jsproot</code> プロパティは、<code>cs.jsppath</code>とともに使用されるため、これら 2 つは同期する必要があります、いずれもインストール時に設定されます。</p> <p>インストール後にこのプロパティの値を変更しないでください。</p>
cs.jspwork	<p>JSP ファイルの実行時にアプリケーション・サーバーがクラス・ファイルを作成するディレクトリを指定します。これは必須のプロパティではなく、空白にできますが、通常はインストール時に設定されます。</p> <p>詳細は、<code>cs.jspclear</code> を参照してください。</p>
cs.use.short.jsp.names	<p>ファイル・システムによっては、絶対パスの長さが制限されます。このようなファイル・システムで長い JSP 名を使用すると、ファイル・システム・エラーが発生する可能性があります。</p> <p>そのファイル・システムを使用している場合は、このプロパティを <code>true</code> に設定し、短縮された JSP 名を使用します。</p> <p>このプロパティを <code>false</code> に設定すると、JSP 名がエレメント名に対応付けられます。</p> <p>このプロパティは、WebCenter Sites インストーラによって自動的に設定され、変更は絶対に必要な場合に限ります。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>

futuretense.ini: その他タブ

その他タブには、WebCenter Sites が接続からログアウトするまでに許容される接続のアイドル時間長や、WebCenter Sites がキャッシュ同期処理をロードするかどうかなどの他のプロパティが保持されます。

futuretense.ini: その他タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.charset	<p>HTML フォームに非表示変数として組込みが可能な変数を指定します。ブラウザによって設定された変数では、WebCenter Sites が処理する必要があるフォーム・データのテキスト・エンコーディングが指定されます。</p> <p>デフォルト値: _charset_</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>
cs.contenttype	<p>HTTP ヘッダー(ストリーミング・テキスト)に使用するデフォルトの文字セットを指定します。</p> <p>デフォルト値: text/html; charset=UTF-8</p> <p>WebCenter Sites システムが配信するオンライン・サイトに適した値を指定します。</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> Latin1: text/html; charset=ISO-8859-1 日本語 (Shift_JIS): text/html; charset=SJIS
cs.disksize	<p>アップロード済ファイルのポスト時の、メモリーにおける保管のサイズ制限(バイト)を指定します。アップロード済ファイルが指定値より大きい場合、WebCenter Sites はページの評価が終了するまでそのファイルを一時ファイルにストリームします。これにより過剰にメモリーが使用されないようにし、DoS 攻撃の防止に役立ちます。</p> <p>デフォルト値: 102400</p>
cs.documentation	<p>WebCenter Sites ドキュメントの URL を指定します。</p> <p>デフォルトでこのプロパティは Oracle ドキュメントの Web サイトに設定されます。</p> <p>必要に応じて、最新のドキュメント・キットを Web サイトからダウンロードして、ネットワーク上にインストールして、このプロパティを Oracle ドキュメントの Web サイトではなく、インストールした場所を指定するように設定できます。</p>

futuretense.ini: その他タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.HTTP_HOST	<p>アプリケーション・サーバー・マシン上に Web サーバーが存在しない場合、またはページの提供に代替の Web サーバーが使用される場合に、WebCenter Sites システムの HTTP ホストを指定します。</p> <p>次のいずれかのフォーマットを使用します。</p> <p><hostname>:<port> <IPaddress>:<port></p> <p>デフォルト値: 空白</p>
cs.HTTP_PROTOCOL	<p>アプリケーション・サーバー・マシン上に Web サーバーが存在しない(つまり、Web コネクタインストールである)場合、またはページの提供に代替の Web サーバーが使用される場合に、WebCenter Sites システムの HTTP プロトコルを指定します。</p> <p>可能な値: http または https または空白</p> <p>デフォルト値: 空白、この場合はプロトコルが HTTP であると想定されます。</p>

futuretense.ini: その他タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.sitepreview	<p>このプロパティは、サイト・プレビュー機能の動作の制御に使用されます。このプロパティの値は、次に説明するようにフィルタ・タグ (<code>asset:filterassetsbydate</code>) の出力を決定します。</p> <p>注意: コンテンツ管理環境でサイト・プレビューを使用するには、このプロパティを <code>contentmanagement</code> に設定する必要があります。</p> <p>可能な値: <code>disabled</code>、<code>contentmanagement</code>、<code>delivery</code></p> <ul style="list-style-type: none"> • 値が <code>disabled</code> に設定された場合: <ul style="list-style-type: none"> - フィルタ・タグでフィルタ処理は行われません。入力されたアセットのセットが返されるだけです。 - キャッシングの有効期限計算で開始 / 終了日付は考慮されません。テンプレートへの日付入力に効力はありません。 • 値が <code>contentmanagement</code> に設定された場合: <ul style="list-style-type: none"> - 指定の日付に従って、フィルタ・タグによってアセットの入力セットがフィルタ処理されます。指定の日付が <code>NULL</code> の場合、このタグは現在のサーバー日付を使用します。 - フィルタ・タグを使用するレンダリング・テンプレートのページはキャッシュされません。 - フィルタ・タグを使用するページでは、キャッシングはデフォルトの方式で動作し、有効期限計算で開始 / 終了日付は考慮されません。 • 値が <code>delivery</code> に設定された場合: <ul style="list-style-type: none"> - フィルタ・タグは渡されたすべての日付を無視し、現在のサーバー日付をフィルタリングに使用します。 - フィルタ・タグを使用するページでは、キャッシングの有効期限計算で開始 / 終了日付が考慮されます。 - フィルタ・タグを使用するページでは、キャッシングはデフォルトの方式で動作し、有効期限計算で開始 / 終了日付は考慮されません。 <p>デフォルト値: <code>disabled</code></p>

futuretense.ini: その他タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.urlfilerollup	<p>URL 列に関するファイルの変更の追跡方法を決定します。</p> <p>このプロパティを <code>true</code> に設定すると、関連するファイルの旧バージョンが名前のシーケンスで追跡されます。たとえば、<code>filename.txt</code> という名前のファイルが 3 回編集されている場合、<code>filename.txt</code> が最も古く、<code>filename,1.txt</code> がその次のバージョンで、<code>filename,2.txt</code> が現行バージョンになります。</p> <p>このプロパティを <code>false</code> に設定すると、ファイル名が更新のたびに <code>filename.txt</code> と <code>filename,0.txt</code> で切り替えられます。</p>
cs.xmlfolder	<p>HTML フィルタリングの作業ディレクトリを指定します。つまり、システム上のエレメントで <code>XMLFILTER</code> タグが使用されると、一時ファイルがこのディレクトリに書込まれます。</p> <p>デフォルト値: <code>\$HOME/FutureTense/xmltemp</code></p>
cs.xmlHeader	これは、SOAP レスポンス向けにストリーム出力される XML ヘッダーです。

futuretense.ini: 「ページ・キャッシュ」タブ

「ページ・キャッシュ」タブには、WebCenter Sites のキャッシュ設定を構成するプロパティが保持されます。WebCenter Sites のページ・キャッシュは、CacheManager によって監視とメンテナンスが行われます。WebCenter Sites のキャッシングでは、Web ページ全体と個別のコンポーネント（またはページレット）の両方をキャッシュできます。

WebCenter Sites システム上でページ・キャッシングを設定するには、CacheManager と Satellite Server のサーブレットのプロパティを構成します。また、BLOB を提供し、WebCenter Sites と Setellite サーブレットの両方からの BLOB をキャッシュする、BlobServer を構成するプロパティも存在します。

詳細の参照先：

- ページ・キャッシング：『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』のページ・キャッシングの章を参照してください。この章では、WebCenter Sites のキャッシュ・マネージャ、Satellite サーブレット、および BlobServer サーブレットの相互操作と連携方法を説明しています。
- Satellite Server プロパティ：95 ページの「Satellite Server タブ」および 153 ページの「satellite.properties」を参照してください。
- Resultset キャッシング・プロパティ：90 ページの「「結果セットのキャッシュ」タブ」を参照してください。
- BlobServer プロパティ：59 ページの「BLOB サーバー・タブ」を参照してください。

futuretense.ini: 「ページ・キャッシュ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.alwaysusedisk	cacheinfo 列に情報がない SiteCatalog 表内のページ・エントリのデフォルトのキャッシュ設定を指定します。 yes に設定すると、そのページ・エントリの cacheinfo 列の値によってキャッシュ対象でないことが指定されている場合を除き、WebCenter Sites から提供されるページのそれがディスク（データベース）にキャッシュされます。 デフォルト値: no

futuretense.ini: 「ページ・キャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.expireonly	<p>古くなったページをキャッシュから消去する方法を制御します。</p> <p>このプロパティを <code>false</code> に設定すると、キャッシュから消去する必要があるページが即座、かつ同時に削除されます。このためユーザーは、すべてのページが削除されるまで待つ必要があります。</p> <p>このプロパティを <code>true</code> に設定すると、キャッシュから消去する必要があるページに削除のマークが付けられ、サービスから除外され、その後のキャッシュ・クリーンアップ・イベントによって削除されます。</p> <p>デフォルト値: <code>true</code></p> <p>可能な値: <code>true</code> <code>false</code></p>
cs.freezeCache	<p>キャッシュ・メンテナンス・イベントによってキャッシュから期限切れのページを定期的に削除するかどうか、また、ページのリクエスト時にのみページの有効期限をチェックするかどうかを指定します。</p> <p>期限切れページをキャッシュから定期的に削除するイベントが不要な場合は、この値を <code>yes</code> に設定します。</p> <p>デフォルト値: <code>no</code></p>
cs.IIItemList	<p>キャッシュ・マネージャが使用する <code>IItemList</code> インタフェースに使用されるファイルを定義します。</p> <p><code>IItemList</code> インタフェースは、ページ・キャッシュの構成上の依存関係の記録に使用されます。このプロパティに有効なクラスを設定した場合、<code>SystemItemCache</code> 表内のページ ID に対して依存性アイテムが記録されます。これによって、<code>CacheManager</code> が有効化されます。無効な値を設定すると <code>CacheManager</code> は無効になります。</p> <p>デフォルト値: <code>com.openmarket.xcelerate.publish.MyItemList</code></p> <p>注意: 示されるデフォルト値は参照のみを目的としています。このプロパティの値は変更しないでください。</p>

futuretense.ini: 「ページ・キャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.manage.expired.blob.inventory	<p>ローカルの blobserver キャッシュの BLOB の有効期限が切れた後に、CacheServer が SystemItemCache 表から blobkey と構成上の依存関係のマッピングを削除するかどうかを制御します。(通常、CacheServer サーブレットはイベント・エンジンによって 5 分ごとに起動されます。)</p> <p>可能な値: true false</p> <ul style="list-style-type: none"> true に設定すると、BLOB の有効期限切れ後の、CacheServer サーブレットによる SystemItemCache 表からの blobkey と構成上の依存関係のマッピングの削除が無効化されます。 false に設定すると、BLOB の有効期限切れ時の、CacheServer サーブレットによる SystemItemCache 表からの期限切れ BLOB の参照の削除が有効化されます。 <p>デフォルト値: false (下位互換性保持のため)</p> <p>注意: このプロパティがどのように作用するかは、bs.bCacheTimeout プロパティの値によって異なります。(60 ページを参照。)</p>
cs.nocache	<p>ディスクベースのすべてのページ・キャッシングを無効にする機能を使用可能にします(ただしページは引き継ぎメモリー内でキャッシングされます)。このプロパティは、サイトのデバッグ時に一時的にページ・キャッシングのシャット・ダウンに使用しますが、ライブ・システム上ではこの値を true の設定にしないでください。</p> <p>デフォルト値: false</p>

futuretense.ini: 「ページ・キャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.pgCacheTimeout	<p>特定のページがページ・キャッシュ内に存在する時間 (分) を指定します。値 0 (ゼロ) はタイムアウトを無効化、つまり永続的に期限切れしないことを意味します。ただし、このプロパティの設定にかかわりなく、パブリッシュ・システムでそのページのアセットのすべてがパブリッシュされたことがレポートされると、CacheManager はキャッシュされたページをリフレッシュします。</p> <p>注意: CacheManager を正しく動作させるには、このプロパティを 0 に設定する必要があります。これ以外に設定した場合は、ページの期限切れが発生し、CacheManager が対応するエントリを Satellite Server キャッシュから削除できなくなり、古いデータがユーザーに表示されることになります。</p> <p>デフォルト値: 0</p>
cs.recordBlobInventory	<p>ユーザーが BLOB 依存関係を処理できるようにします。BLOB インベントリを記録するには、このプロパティの値を true に設定します。</p>
cs.requiresessioncookies	<p>セッション ID 情報を Cookie に保持できるかどうか、また、WebCenter Sites でセッション・データをリンクにエンコードする必要があるかどうかを指定します。</p> <p>WebCenter Sites でセッション Cookie の有効化が予期される場合は、true (デフォルト) に設定します。これにより、すべてのページをキャッシュすることが可能になり、セッション ID のリンクへのエンコードは行われません。値 false では、URL リライティングが有効化され、ページ・キャッシングのパフォーマンスに悪影響を及ぼします。</p> <p>デフォルト値: true</p>
cc.BlobServerTimeout	<p>メモリーにキャッシュされる BLOB のデフォルトのライフタイム (分) を指定します。メモリーに余裕がない場合は、このプロパティの値を減らすことができます。</p> <p>デフォルト値: 1440 (24 時間)</p>
cc.BlobServerCacheCSz	<p>メモリーにキャッシュされる BLOB の最大数を指定します。メモリーに余裕がない場合は、このプロパティの値を減らすことができます。</p> <p>デフォルト値: 1000</p>

futuretense.ini: 「ページ・キャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.SystemPageCacheTimeout	キャッシュ済ページがメモリー内で保持される時間(分)を指定します(キャッシュ済ページはディスクとメモリーの両方でキャッシュされます)。 デフォルト値: 1440 (24 時間)
cc.SystemPageCacheCSz	メモリー内でキャッシュ可能なページの最大数を指定します。ページはメモリーとディスク(データベース)の両方にキャッシュされます。このプロパティでは、ディスクではなくメモリーにキャッシュされるページ数が指定されます。 注意: このプロパティは -1 に設定しないでください。 デフォルト値: 10000
ss.flushall	Satellite Server キャッシュのフラッシュ方法を制御します。 このプロパティを <code>false</code> (デフォルト) に設定すると、古くなったページレットのみが Satellite Server キャッシュからフラッシュされます。 このプロパティを <code>true</code> に設定すると、Satellite Server キャッシュが(単一アセットの更新時に)完全にフラッシュされます。 デフォルト値: <code>false</code> 可能な値: <code>true</code> <code>false</code>

futuretense.ini: 「結果セットのキャッシング」タブ

「結果セットのキャッシング」タブには、WebCenter Sites の結果セット・キャッシングを構成するプロパティが保持されます。WebCenter Sites システム上の結果セットと問合せのキャッシングの詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』を参照してください。

「結果セットのキャッシング」タブには、次のプロパティが保持されます。

- グローバル結果セット・キャッシング・プロパティは、WebCenter Sites のインストール・プロセスで設定され、WebCenter Sites データベース内のすべての表の結果セット・キャッシングを有効化します。その後作成されるすべての表にも同じプロパティが自動的に適用されます。このプロパティは次のとおりです。
 - cc.cacheResults: メモリー内にキャッシングされる結果セット数
 - cc.cacheResultsTimeout: キャッシュされた結果セットがメモリー内に保持される期間
 - cc.cacheResultsAbs: 結果セット・キャッシング内で結果セットの有効期限を計算する方法
- システム表の表固有の結果セット・キャッシング・プロパティ。これらのプロパティは、WebCenter Sites のインストール・プロセスで自動的に設定され、上記のグローバル結果セット・キャッシング・プロパティをオーバーライドします。
たとえば、ElementCatalog 表の cc.ElementCatalogCSz と cc.ElementCatalogTimeout には、次に表固有プロパティが設定されます。プロパティ値は変更可能で、プロパティの削除も可能です(その場合、表の結果セット・キャッシングはグローバル・プロパティの値を使用します)。

注意

グローバルの結果セット・キャッシング・プロパティをオーバーライドする場合は、WebCenter Sites システムの結果セット・キャッシング方針の実装の必要に応じた数の表で、futuretense.ini ファイルに次の表固有プロパティを作成して、表ごとにオーバーライドを実行する必要があります。

```
cc.<tablename>CSz=<number of resultsets>
cc.<tablename>Timeout=<number of minutes>
cc.<tablename>Abs=<true or false>
```

アセット・タイプでリビジョン追跡が有効化され、アセット・バージョンの結果セットをキャッシングする必要がある場合は、前述のプロパティを使用しますが、<tablename> の後に _t を追加します。

```
cc.<tablename>_tCSz=<number of resultsets>
cc.<tablename>_tTimeout=<number of minutes>
cc.<tablename>_tAbs=<true or false>
```

WebCenter Sites データベースの任意のユーザー定義の表に固有の結果セット・キャッシング・プロパティを作成する場合は、これらのプロパティが「ユーザー定義」タブに表示されます(97 ページで説明)。

ページのキャッシング・プロパティの詳細は、85 ページの「[「ページ・キャッシュ」タブ](#)」を参照してください。BlobServer キャッシング・プロパティの詳細は、59 ページの「[BLOB サーバー・タブ](#)」を参照してください。

注意

WebCenter Sites は、ハッシュ表ではなく inCache フレームワークに結果セットを格納します。どちらのキャッシング・フレームワークでも Java メモリーが使用されます。futuretense.ini の rsCacheOverinCache プロパティを true または false に設定することで、これらのフレームワークを切り替えることができます。詳細は、[102 ページの「rsCacheOverinCache」](#) を参照してください。

次の表は、「結果セットのキャッシング」タブのプロパティを示しています。

futuretense.ini: 「結果セットのキャッシング」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cc.cacheResults	<p>メモリーにキャッシングする結果セットのデフォルトの数を指定します。これは結果セットのレコードの数ではなく、結果セットの数を意味する点に注意してください。</p> <p>注意: デバッグ時を除き、このプロパティを 0 または -1 に設定しないでください。その値に設定すると、WebCenter Sites インタフェースはアセットを適切に保存できなくなります。(このプロパティを 0 または -1 に設定すると、独自のキャッシング・プロパティが構成されていないすべての表で結果セットのキャッシングが無効になります。)</p> <p>可能な値: <n> (結果セット数)</p> <p>デフォルト値: 500</p> <p>注意: 特定の表で異なる値を設定するには、フォーマット cc.<tablename>CSz=<number of resultsets> を使用して表にプロパティを作成します。</p>

futuretense.ini: 「結果セットのキャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.cacheResultsAbs	<p>結果セットのキャッシュ内にある結果セットの有効期限の計算方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このプロパティが <code>true</code> に設定されていると、結果セットの有効期限が絶対となります。たとえば、<code>cc.cacheResultsTimeout</code> が 5 分に設定されていると、結果セットがキャッシュされた 5 分後に、その結果セットがキャッシュからフラッシュされます。 このプロパティが <code>false</code> に設定されていると、結果セットの有効期限はそのアイドル時間を基準にします。たとえば、<code>cc.cacheResultsTimeout</code> が 5 分に設定されていると、結果セットは最初にキャッシュされてから 5 分ではなく、最後にリクエストされてから 5 分後にキャッシュからフラッシュされます。 <p>注意: 特定の表の有効期限を設定するには、 フォーマット <code>cc.<tablename>CAbs=<true or false></code> を使用してその表にプロパティを作成します。</p>
cc.cacheResultsTimeout	<p>キャッシュされる結果セットをメモリー内に保持する時間を分単位で指定します。</p> <p>このプロパティを <code>-1</code> に設定すると、表に独自のキャッシング・プロパティが構成されていなければ、タイムアウト値がなくなります。</p> <p>可能な値: <code><n></code> (分)、また、このデフォルト・プロパティを使用する表でタイムアウトを無効にする場合は、<code>-1</code>。</p> <p>デフォルト値: 5</p> <p>注意: 特定の表のタイムアウトを設定するには、フォーマット <code>cc.<tablename>Timeout=<number of minutes></code> を使用してその表にプロパティを作成します。</p>
cc.ElementCatalogCSz	<p><code>ElementCatalog</code> 表に対してキャッシュする結果セットの数を指定します。</p> <p>パフォーマンスを最適化するには、表の行数をこの値として設定します。</p> <p>デフォルト値: 1000</p>

futuretense.ini: 「結果セットのキャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.ElementCatalogTimeout	ElementCatalog 表のアイドル結果セットを結果セット・キャッシュに保持する時間(分)を指定します。 タイムアウトを無効にするには、-1 を使用します。 デフォルト値: 60
cc.SiteCatalogCSz	SiteCatalog 表に対してキャッシュする結果セットの数を指定します。 パフォーマンスを最適化するには、表の行数をこの値として設定します。 デフォルト値: 1000
cc.SiteCatalogTimeout	SiteCatalog 表のアイドル結果セットを結果セット・キャッシュに保持する時間(分)を指定します。 タイムアウトを無効にするには、-1 を使用します。 デフォルト値: 60
cc.SystemACLCSz	SystemACL 表に対してキャッシュする結果セットの数を指定します。 パフォーマンスを最適化するには、表の行数に比例した値を指定する必要があります。 デフォルト値: 25
cc.SystemACLTimeout	SystemACL 表のアイドル結果セットを結果セット・キャッシュに保持する時間(分)を指定します。 デフォルト値: -1 (この表のタイムアウトを無効化)
cc.SystemInfoCSz	SystemInfo 表に対してキャッシュする結果セットの数を指定します。 パフォーマンスを最適化するには、表の行数をこの値として設定します。 デフォルト値: 500
cc.SystemInfoTimeout	SystemInfo 表のアイドル結果セットを結果セット・キャッシュに保持する時間(分)を指定します。 デフォルト値: -1 (この表のタイムアウトを無効にします)

futuretense.ini: 「結果セットのキャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.SystemUsersCSz	SystemUsers 表に対してキャッシュする結果セットの数を指定します。 パフォーマンスを最適化するには、表の行数に比例した値を指定する必要があります。 デフォルト値: 100
cc.SystemUsersTimeout	SystemUsers 表のアイドル結果セットを結果セット・キャッシュに保持する時間(分)を指定します。 デフォルト値: -1 (この表のタイムアウトを無効にします)
ft.filecheck	アップロードされたデータとともにアイテム(エレメントなど)がリクエストされるたびに、WebCenter Sites がアップロード・ファイルに保持されたデータのタイムスタンプを検証するかどうかを指定します。 管理システム、または配信システムでは、同じアイテムが繰り返しリクエストされるため、この値を yes に設定するとシステムのパフォーマンスが低速化する場合があります。 管理または配信システムでは、このプロパティを no に設定します。開発システムでは、yes に設定してもかまいません。 デフォルト値: no

futuretense.ini: Satellite Server タブ

Satellite Server タブには、ローカル実行またはリモート・サーバー上の Satellete サーブレット (Satellite Server) との通信方法を示すプロパティが保持されます。

さらに、Satellite Server はデフォルトで WebCenter Sites アプリケーションをホストするサーバー上にインストールされるため、WebCenter Sites システムのそれぞれにもローカル Satellite サーブレットを構成する `satellite.properties` ファイルが存在します。(Satellite Server がリモート・サーバーでも実行される場合は、そのサーバーにも `satellite.properties` ファイルが存在することに注意してください。) そのファイルのプロパティの詳細は、153 ページの [「satellite.properties」](#) を参照してください。

次の表は、すべての Satellite サーブレットとの通信をサポートする WebCenter Sites のホスト・サーバーのプロパティを示しています。

それぞれのプロパティの値はカンマ区切りリストです。リスト内のアイテムの序数位置は、各 Satellite サーブレットのホスト、ユーザー名、およびパスワードと関連付けられています。たとえば、`cs.satellitehosts` で指定される 3 番目のホストには、`cs.satelliteusers` で指定された 3 番目のユーザー・アカウントを使用し、`cs.satellitepassword` にリストされた 3 番目のパスワードを提供してアクセスします。

futuretense.ini: Satellite Server タブのプロパティ

プロパティ	説明
<code>cs.PastramiEngine</code>	<code>PastramiEngine</code> インタフェースを実装するクラスの名前を定義します。このプロパティを <code>NULL</code> のままにすると、この機能全体が無効化されます。このプロパティの標準値は <code>com.divine.pastrami.PushEngine</code> です。
<code>satellite.blob.cachecontrol.default</code>	<code>satellite.blob</code> と <code>RENDER.SATELLITEBLOB</code> のタグ、および同等の機能を持つ JSP の <code>cachecontrol</code> パラメータのデフォルト値を指定します。 デフォルト値: 空白 このプロパティは、多数の BLOB に適した値に設定し、 <code>satellite.blob</code> および <code>RENDER.SATELLITEBLOB</code> のタグで <code>cachecontrol</code> パラメータを使用して、個別の BLOB でこの値をオーバーライドします。 値を設定するには、次のフォーマットを使用します。 <code>hours:minutes:seconds daysOfWeek/ daysOfMonth/months</code> このフォーマットの詳細は、153 ページの 「satellite.properties」 の <code>expiration</code> プロパティの説明を参照してください。

futuretense.ini: Satellite Server タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
satellite.page.cachecontrol.default	<p>非推奨です。</p> <p>satellite.page と RENDER.SATELLITEPAGE のタグ、および同等の機能を持つ JSP の cachecontrol パラメータのデフォルト値を指定します。</p> <p>デフォルト値: 空白</p> <p>このプロパティは、多数のページおよびページレットに適した値に設定し、satellite.page および RENDER.SATELLITEPAGE のタグで cachecontrol パラメータを使用して、個別のページおよびページレットでこの値をオーバーライドします。</p> <p>値を設定するには、次のフォーマットを使用します。</p> <pre><hours>:<minutes>:<seconds> <daysOfWeek>/<daysOfMonth>/<months></pre> <p>このフォーマットの詳細は、153 ページの [satellite.properties] の expiration プロパティの説明を参照してください。</p>

futuretense.ini: 「検索」タブ

「検索」タブのプロパティは非推奨で、サポートされていません。

futuretense.ini: 「ユーザー定義」タブ

「ユーザー定義」タブには、カスタム・プロパティが表示されます。これは、コアの WebCenter Sites 製品によって作成されたものではありませんが、WebCenter Site とそのコンテンツ・アプリケーションで使用されるものです。

このタブに表示されるプロパティの種類は次のとおりです。

- WebCenter Sites ポータル・サンプル・サイトがインストールされている場合はサンプル・サイトの 2 つのカスタム・プロパティ。
- コンテンツ表 (カタログ) の主キー列の名前を指定するプロパティ。コンテンツ表の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』の、データ設計に関する項を参照してください。
- WebCenter Sites データベースのユーザー定義の各表の結果セット・キャッシング設定を指定するカスタム・プロパティ。詳細は、90 ページの「[「結果セットのキャッシング」タブ](#)」の注意を参照してください。
- WebCenter Sites データベースの、リビジョン追跡対象のユーザー定義の表の結果セット・キャッシング設定を指定するカスタム・プロパティ。詳細は、90 ページの「[「結果セットのキャッシング」タブ](#)」の注意を参照してください。

下表は、いずれかの WebCenter Sites 製品が futuretense.ini ファイルで作成するすべてのプロパティ、つまり「ユーザー定義」に表示されるすべてのプロパティの一覧です。ご使用のシステムには、この一覧に記載されていない他のプロパティが存在する場合もあることに注意してください。

futuretense.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
analysisconnector.version	非推奨です。 Analytics Bridge がインストールされている場合、バージョン番号が示されます。 このプロパティの値は変更しないでください。
catalogcentre.version	非推奨です。 CS-Direct Advantage がインストールされている場合は、バージョン番号が示されます。CS-Direct Advantage は、製品の旧バージョンで指定されていた Catalog Centre です。 このプロパティの値は変更しないでください。
cc.AssetTypeCSz	WebCenter Sites インストールによって作成されるオブジェクト表である、AssetType 表に対してキャッシングされる結果セットの数。 デフォルト値: 50
cc.CategoryCSz	WebCenter Sites インストールによってアセット・タイプに作成されるオブジェクト表である、Category 表に対してキャッシングされる結果セットの数。 デフォルト値: 50

futuretense.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.ComparatorsKey	WebCenter Sites インストールで、ファイル・コンパレータ・クラスを保持するために作成される Comparator 表の主キー。 デフォルト値: name このプロパティの値は変更しないでください。
cc.FiltersKey	デフォルト値: name
cc.MimeTypeKey	WebCenter Sites インストールで、処理するドキュメントの mimetype を格納するために作成されるMimeType 表の主キー。 デフォルト値: mimetype このプロパティの値は変更しないでください。
cc.PreviewgenKey	デフォルト値: name
cc.SourceKey	WebCenter Sites インストールで、アセット・タイプに対して作成される Source 表の主キー。 デフォルト値: source このプロパティの値は変更しないでください。
cc.StatusCodeCSz	WebCenter Sites インストールによってアセット・タイプに作成されるコンテンツ表である、StatusCode 表に対してキャッシュされる結果セットの数。 デフォルト値: 10
cc.StatusCodeKey	StatusCode 表の主キー。 デフォルト値: statuscode このプロパティの値は変更しないでください。
commerceconnector.version	Commerce Connector ユーティリティがインストールされている場合は、バージョン番号が示されます。 このプロパティの値は変更しないでください。
contentcentre.version	非推奨です。 CS-Direct がインストールされている場合は、バージョン番号が示されます。CS-Direct は、製品の旧バージョンで指定されていた Content Centre です。 このプロパティの値は変更しないでください。

futuretense.ini: 「ユーザー定義」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.approvalLockStriping	<p>承認ロックが次のいずれであるかの指定に使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルおよびデフォルト (false) ターゲット別 (true)。これによりターゲットで承認とパブリッシュ・アクティビティの競合が回避されます。このプロパティを true に設定するには、ApprovalQueue 表に cs_target という名前の非 NULL 列を追加する必要があります。この列のデータ型は、cc bigint プロパティ (futuretense.ini 内) と一致している必要があります。 <p>ターゲット別の承認ロックをデフォルトの動作 (グローバル・ロック) に戻す必要がある場合は次の手順を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ApprovalQueue 表から cs_target 列を削除します。 cs.approvalLockStriping を false に設定します (または、デフォルトで false であるときはこのプロパティを削除します)。
cs.parentfoldercount	<p>WebCenter Sites が <cs_install_dir>/Shared のサブディレクトリに生成できる親フォルダの最大数を指定します。親フォルダは、WebCenter Sites によって生成される番号付きフォルダの最上位レベルです。たとえば、このプロパティが 500 に設定されている場合、WebCenter Sites は <cs_install_dir>/Shared/ccurl (フレックス・アセットが格納される) 内に 500 を超える親フォルダを生成しません。</p> <p>このプロパティを使用するには、このプロパティを futuretense.ini に追加する必要があります。追加しない場合、WebCenter Sites のデフォルト値が使用されます。このプロパティを使用する場合、既存の親フォルダ構造はそのまま保持されることに注意してください。使用しなくなった親フォルダは、手動で削除する必要があります。</p> <p>WebCenter Sites は、親フォルダ内に子フォルダを生成します。生成可能な子フォルダの最大数を指定する必要がある場合は、cs.childfoldercount プロパティ (100 ページ) を使用します。</p> <p>デフォルト値: 1024</p>

futuretense.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.childfoldercount	<p>WebCenter Sites が <cs_install_dir>/Shared のサブディレクトリ内の親フォルダに生成できる子フォルダの最大数を指定します。子フォルダは、WebCenter Sites によって親フォルダ内に生成される番号付きサブフォルダです。たとえば、このプロパティが 300 に設定されている場合、WebCenter Sites は <cs_install_dir>/Shared/ccurl にある親フォルダ内に 300 を超える親フォルダを生成しません。</p> <p>このプロパティを使用するには、このプロパティを futuretense.ini に追加する必要があります。追加しない場合、WebCenter Sites のデフォルト値が使用されます。このプロパティを使用する場合、既存の子フォルダ構造はそのままで保持されることに注意してください。使用しなくなった子フォルダは、手動で削除する必要があります。</p> <p>WebCenter Sites で生成可能な親フォルダの最大数を指定する必要がある場合は、cs.parentfoldercount プロパティ (99 ページ) を使用します。</p> <p>デフォルト値: 1024</p>
cs.dbencoding	デフォルト値: UTF-8
cs.invalMemWindow	<p>このプロパティは、inCache フレームワークに適用されます。FW_InvalidationMemory 表で、この表のデータ格納期間に関するサイズの定義に使用されます。データ格納期間はローリング・ウィンドウです。</p> <p>たとえば、このプロパティが 20000 に設定されている場合、20,000 秒に相当するデータを表内に累積できます。さらにデータの着信が続くと、表のクリーンアップ・メカニズムによって 20,000 秒より古いデータが消去され、新たに着信したデータが格納されます。</p> <p>inCache フレームワークと FW_InvalidationMemory 表の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』 を参照してください。</p> <p>このプロパティを使用する必要がある場合は、futuretense.ini ファイルに追加して、必要な値に設定します。このプロパティを追加しない場合、WebCenter Sites のデフォルト値が使用されます。</p> <p>デフォルト値: 259200 (3 日間)</p>

futuretense.ini: 「ユーザー定義」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cs.requestfactory	デフォルト値: com.fatwire.cs.portals.portlet.PortletRequestFactory
ft.servletoutputstream	デフォルト値: false
image.time	非推奨です。 デフォルト値: 5:0:0 */**/*
marketingstudio.version	Engage のバージョン番号。 このプロパティの値は変更しないでください。
page.time	非推奨です。 デフォルト値: *:0,5,10,15,20,25,30,35,40,45,50,55: 0 */**/*
propagatecache	inCache ページ・キャッシング・フレームワークが有効なノード間におけるページの伝播の有効化に使用されます。inCache の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

futuretense.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
rsCacheOverInCache	<p>結果セット・キャッシング・メディアの切替えに使用されます。このプロパティはデフォルトで <code>true</code> に設定され、この場合、WebCenter Sites によって結果セットが <code>inCache</code> フレームワークにキャッシングされます。このプロパティを <code>false</code> に設定すると、WebCenter Sites では、結果セットがハッシュ表にキャッシングされます。いずれのキャッシング・メディアでも JVM メモリーが使用されます。</p> <p>このプロパティは、WebCenter Sites のインストール・プロセスで <code>true</code> に設定されます。このプロセスでは、次のステップも実施されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>linked-cache.xml</code> 構成ファイルがアプリケーション・サーバーのクラスパス (<code>WEB-INF/classes</code> ディレクトリ) に配置されます。 • 次の結果セット・キャッシング・プロパティが設定されます (90 ページの 「「結果セットのキャッシング」タブ」を参照してください)。 <code>cc.cacheResults</code> <code>cc.cacheResultsTimeout</code> <code>cc.cacheResultsAbs</code> <p>インストール・プロセスが完了すると、「システム・ツール」ノード (管理インターフェースの「管理」タブ) に、<code>inCache</code> ツールに関する結果セットが表示されます。これには、キャッシングとそのコンテンツに関する統計情報が示されます。</p>
	<p>注意: <code>inCache</code> に関する結果セットのキャッシングは、<code>inCache</code> のページとアセットのキャッシングに依存することなく機能します。<code>inCache</code> フレームワーク、そのキャッシング・モデルおよびシステム・ツールに関する情報は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。結果セットのキャッシングの詳細は、<i>Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド</i>も参照してください。</p> <p>デフォルト値: <code>true</code></p> <p>可能な値: <code>true</code> <code>false</code></p>

futuretense.ini: 「ユーザー定義」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
soap.binaryRowsType	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.iList	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.likeConstraint	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.listRowsType	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.nestedConstraint	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.rangeConstraint	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.richTextConstraint	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.searchstate	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。

futuretense.ini: 「ユーザー定義」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
soap.standardConstraint	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.stringRowsType	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.stringVarsType	デフォルト値: com.openmarket.basic.objects.String VarsType
soap.urlRowsType	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。
soap.URLType	Web サービスによる SOAP リクエストに応じてサーバー側オブジェクトをインスタンス化するときに使用される WebCenter Sites システムのプロパティ。 このプロパティの値は変更しないでください。

futuretense_xcel.ini

futuretense_xcel.ini のプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 「分析」タブ
- アセット・デフォルト・タブ
- 「認可」タブ
- 「デバッグ」タブ
- 「ディレクトリ」タブ
- エレメントのオーバーライド・タブ
- 「プリファレンス」タブ
- 「パブリッシュ」タブ
- 「トランスマッパー」タブ
- 「xcelerate」タブ
- 「ユーザー管理」タブ
- 「ユーザー定義」タブ

注意

97 ページの「futuretense.ini: 「ユーザー定義」タブ」で説明されているように、WebCenter Sites では、futuretense.ini ファイルの「ユーザー定義」タブにカスタム・プロパティも挿入されます。

futuretense_xcel.ini: 「分析」 タブ

「分析」 タブには、 Oracle WebCenter Sites: Analytics の構成に使用されるプロパティが保持されます。ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

futuretense_xcel.ini: 「分析」 タブのプロパティ

プロパティ	説明
analytics.datacaptureurl	Analytics データ取得サーブレットが実行されている URL。 構文: <code>http://<host>:<port>/sensor/statistic</code>
analytics.enabled	Analytics がインストールされていることを示します。 可能な値: <code>true</code> <code>false</code>
analytics.piurl	Analytics パフォーマンス・インジケータ・サーブレットが実行されている URL。 構文: <code>http://<host>:<port>/analytics/PI</code>
analytics.reporturl	Analytics ユーザー・インターフェースの URL。 構文: <code>http://<host>:<port>/analytics/Report.do</code>
analytics.user	WebCenter Sites から Analytics にログインする、事前構成された Analytics ユーザー。 デフォルト値: <code>csuser</code> 注意: デフォルト名の変更はお薦めしません。

futuretense_xcel.ini: アセット・デフォルト・タブ

アセット・デフォルト・タブには、キャッシュ情報、デフォルト ACL、および CDEditor の有無など、アセット・タイプに関するデフォルトの詳細の定義に使用されるプロパティが保持されます。ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

futuretense_xcel.ini: アセット・デフォルト・タブのプロパティ

プロパティ	説明
xcelerate.asset.share ToAllAllowed	アセットをすべてのサイトで共有できるかどうかを指定します。 可能な値: true false
xcelerate.asset.size ofnamefield	ベーシックおよびフレックスのアセット・タイプの「名前」フィールドの長さを指定します。 デフォルト値: 64
xcelerate.body.length	Article 表の urlbody 列の「本文」フィールドに格納される文字数を指定します。 記事アセット(サンプル・サイト・アセット・タイプ)の「本文」フィールドに入力されるデータは、urlbody 列に書き込まれます。これは URL の列であるため、このデータは実際には WebCenter Sites データベース外のファイルとして格納されます。 ただし、最初の <code><n></code> 文字 (<code><n></code> はこのプロパティで指定された値に相当します) は、body 列にも格納され、WebCenter Site インタフェースの検索機能を使用して記事アセットの本文のテキストの検索を実行可能にします。 デフォルト値: 1000 最大値: Windows NT または Windows 2000 の場合は 256。UNIX の場合は 2000。 このプロパティが欠落している場合、または設定されていない場合、WebCenter Sites はかわりに futuretense.ini ファイルの <code>cc.maxvarcharsize</code> プロパティを使用します。
xcelerate.defaultacl	SiteEntry または Template アセットの作成時に作成される SiteCatalog 表のページ・エントリに自動的に割り当てられる ACL を指定します。 デフォルト値: 空白
xcelerate.defaultbase	アセットの defdir のデフォルト・ベースを指定します。

futuretense_xcel.ini: アセット・デフォルト・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.default cscacheinfo	<p>キャッシングが有効化された SiteEntry アセットおよび Template アセットのキャッシング規則 (ContentServer) フィールドのデフォルト値を指定します。この値は、「詳細」キャッシング・オプションを選択したときに表示されます。この値はオーバーライドできます。</p> <p>キャッシング規則 (ContentServer) フィールドは、SiteEntry アセットまたは Template アセットと一致したエントリのそれだけで、SiteCatalog 表の cscacheinfo フィールドにマップされます。</p> <p>デフォルト値: true,~0</p>
xcelerate.default sscacheinfo	<p>キャッシングが有効化された SiteEntry アセットおよび Template アセットの「キャッシング規則 (Satellite)」フィールドのデフォルト値を指定します。この値は、「詳細」キャッシング・オプションを選択したときに表示されます。この値はオーバーライドできます。</p> <p>「キャッシング規則 (Satellite)」フィールドは、SiteEntry アセットまたは Template アセットと一致したエントリのそれだけで、SiteCatalog 表の sscacheinfo フィールドにマップされます。</p> <p>デフォルト値: true,~0</p>
xcelerate.default pagecriteria	<p>Template アセットを利用して作成された場合に SiteCatalog 表の pagecriteria 列のページ・エントリのデフォルト値を指定します。</p> <p>デフォルト値: c, cid, p, rendermode, site, context</p> <p>これらの変数の定義、および一般的なページ基準変数の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド</i>』を参照してください。</p>
xcelerate.defaultcsstatus	<p>Template アセットと SiteEntry アセットのいずれかで作成された場合に、SiteCatalog 表の csstatus 列のページ・エントリのデフォルト値を指定します。</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p> <p>デフォルト値: live</p>

futuretense_xcel.ini: アセット・デフォルト・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.default pagecriteriaSite Entry	デフォルトで SiteEntry アセットに設定可能なページ基準変数を指定します。このリストに変数を追加することはできますが、デフォルト値はいずれも削除しないでください。 デフォルト値: rendermode、site、seid、Sitepfx
xcelerate.ewebeditpro	非推奨になりました。サポートされていません 開発者が eWebEditPro HTML エディタを使用するアセット・タイプを設計している場合は、このプロパティによって、ewebeditpro.js ファイルの場所が指定されます。
xcelerate.MaxLinks	リンクセットに組み込むことができたリンク数を指定しましたが、使用が終了した古いアセット・タイプです。

futuretense_xcel.ini: 「認可」タブ**futuretense_xcel.ini: 「認可」タブのプロパティ**

プロパティ	説明
xcelerate.authorize.functions	アセットに対する権限の生成が可能な機能のカンマ区切りリストが格納されます。値が空白の場合、使用可能なすべての機能が表示されます。追加のシステム定義機能をデフォルトの機能リストに追加できます。 デフォルト値: inspect, preview, checkout, copy, edit, delete, rollback, share, approve, build
xcelerate.deny.abstainfromvoting	ワークフロー・プロセスの一部としてアセットが割り当てられた場合に投票の棄権が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.approve	アセットのパブリッシュの承認が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.authorize	アセットに対する特権の認可が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.build	コレクション・アセットのビルトが許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.checkout	リビジョン追跡システムからの明示的なアセットのチェックアウトが許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.copy	アセットのコピーが許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.delegate	割り当てられたアセットのワークフロー内の他の参加者への委任が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白

futuretense_xcel.ini: 「認可」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.deny.delete	アセットの削除が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.edit	アセットの編集が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.inspect	アセットの調査が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.placepage	SitePlanツリーへのアセットの配置が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.preview	アセットとそのテンプレートのプレビューが許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.remove fromgroup	ワークフロー・グループからのアセットの削除が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.removefrom workflow	ワークフローからのアセットの削除が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.rollback	前バージョンへのアセットのロールバックが許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.setExport Data	ディスクへのエクスポート(静的パブリッシュ)開始ポイントの設定が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 他のユーザーが開始ポイントを設定した場合は、これらのユーザーにもアセットの承認およびパブリッシュは許可されます。 デフォルト値: 空白

futuretense_xcel.ini: 「認可」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.deny.set nestedworkflow	ネスト・ワークフローの設定が許可されない ロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.set participants	ワークフロー参加者の設定が許可されない ロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.set processdeadline	ワークフロー・プロセス期限の設定が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.set stepdeadline	ワークフロー・ステップの期限の設定が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.share	他のサイト(アセットが最初に作成されたサイト以外)とのアセットの共有が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.show participants	ワークフローに設定された参加者の表示が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.deny.showstatus	アセットの「ステータス」画面の表示が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 「ステータス」オプションは、「調査」ウインドウの「詳細」ドロップダウン・ボックスに表示されます。この画面には、調査しているアセットのワークフロー、パブリッシュおよびリビジョン追跡情報が表示されます。ユーザーが特権が拒否されたロールのいずれかに属している場合、「ステータス」画面を表示するオプションは表示されません。 デフォルト値: 空白

futuretense_xcel.ini: 「認可」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.deny.showversion	アセットのバージョン・リストの表示が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 注意: ユーザーは、明示的または暗黙的にチェックアウトされたアセットのバージョンのリストを表示できます。ユーザーが、この特権が拒否されたロールのいずれかに属する場合は、調査フォームに「バージョンの表示」ボタンが表示されません。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.abstainfromvoting	ワークフロー・プロセスの一部としてアセットが割り当てられた場合に投票の棄権が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.approve	アセットのパブリッシュの承認が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.authorize	アセットに対する特権の認可が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: SparkAdmin, GeneralAdmin, WorkflowAdmin, SiteAdmin
xcelerate.grant.build	コレクション・アセットのビルトが許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.checkout	リビジョン追跡システムからの明示的なアセットのチェックアウトが許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.copy	アセットのコピーが許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.delegate	割り当てられたアセットのワークフロー内の他の参加者への委任が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白

futuretense_xcel.ini: 「認可」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.grant.delete	アセットの削除が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.edit	アセットの編集が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.inspect	アセットの調査が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.placepage	SitePlanツリーへのアセットの配置が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.preview	アセットとそのテンプレートのプレビューが許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.remove fromgroup	ワークフロー・グループからのアセットの削除が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.remove fromworkflow	ワークフローからのアセットの削除が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.rollback	前バージョンへのアセットのロールバックが許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.set ExportData	ディスクへのエクスポート (静的パブリッシュ) 開始ポイントの設定が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.set nestedworkflow	ネスト・ワークフローの設定が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白

futuretense_xcel.ini: 「認可」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.grant.set participants	ワークフロー参加者の設定が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.set processdeadline	ワークフロー・プロセス期限の設定が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.set stepdeadline	ワークフロー・ステップの期限の設定が許可されないロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.share	他のサイト (アセットが最初に作成されたサイト以外)とのアセットの共有が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.show participants	ワークフローに設定された参加者の表示が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.show status	アセットの「ステータス」画面の表示が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 「ステータス」オプションは、「調査」ウインドウの「詳細」ドロップダウン・ボックスに表示されます。この画面には、調査しているアセットのワークフロー、パブリッシュおよびリビジョン追跡情報が表示されます。ユーザーが特権が付与されたロールのいずれかに属している場合は、「ステータス」画面を表示するオプションが表示されます。 デフォルト値: 空白
xcelerate.grant.show version	アセットのバージョン・リストの表示が許可されるロールのカンマ区切りリストが格納されます。 注意: ユーザーは、明示的または暗黙的にチェックアウトされたアセットのバージョンのリストを表示できます。ユーザーが、この特権が付与されたロールのいずれかに属する場合は、調査フォームに「バージョンの表示」ボタンが表示されます。 デフォルト値: 空白

futuretense_xcel.ini: 「デバッグ」タブ

「デバッグ」タブには、Oracle WebCenter Sites の様々なデバッグ・ユーティリティを有効化するプロパティが保持されます。ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

futuretense_xcel.ini: 「デバッグ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
am.debug	AssetMaker で作成するアセット・タイプに関するデバッグ情報がログに記録されるかどうかを指定します。このプロパティを <code>on</code> に設定すると、アセット・タイプの作成に関する情報が WebCenter Sites ログ・ファイルに書き込まれます。 デフォルト値: <code>off</code>
asset.debug	デスクトップおよび XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法で、アセットを操作する際にデバッグ情報がログに記録されるかどうかを指定します。このプロパティを <code>on</code> に設定すると、アセットの操作に関する情報が WebCenter Sites ログ・ファイルに書き込まれます。 デフォルト値: <code>off</code>

futuretense_xcel.ini: 「ディレクトリ」タブ

「ディレクトリ」タブには、utilities など、様々な WebCenter Sites ディレクトリを有効化するプロパティが保持されます。ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

futuretense_xcel.ini: 「ディレクトリ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
xcelerate.local languedir	サイト・デスクトップ・クライアント・インストールのディレクトリ・パスを指定します。 この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。 デフォルト値: C:/FutureTense/ futuretense_cs/xcelerate/Client/ ClientInstall/CSDesktop
xcelerate.lockdir	データベース操作時にデータに適用されるロックに関する情報を WebCenter Sites が格納するディレクトリへのディレクトリ・パスを(最後のスラッシュも含めて)指定します。 WebCenter Sites システムがクラスタにインストールされている場合、このディレクトリにはすべてのクラスタ・メンバーに対する書き込み権限とアクセスが必要です。 この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。 デフォルト値: c:/FutureTense/lock/
xcelerate.objpubdir	パブリッシュされたオブジェクトが一時的に格納されるクラスタ共有ファイル領域のディレクトリへのパスを(末尾のスラッシュ文字も含めて)指定します。 この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。 デフォルト値: C:/FutureTense/objpubdir/
xcelerate.pubkeydir	様々なターゲット・システムにパブリッシュされたアイテムに関する情報をパブリッシュ・システムが書き込むディレクトリを指定します。 この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。 デフォルト値: c:/FutureTense/pubkeys/

futuretense_xcel.ini: 「ディレクトリ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.saveSearchdir	<p>SaveSearch 表の defdir (デフォルトのストレージ・ディレクトリ) を指定します。この表には、開発または管理システム上に保存された検索を保持する URL 列が存在します。</p> <p>この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。</p> <p>デフォルト値: c:/FutureTense/Storage/SaveSearch</p>
xcelerate.sePath	<p>WebCenter Sites システム上の検索エンジンを使用しているときに、検索索引が格納されるディレクトリを指定します。</p> <p>この値を変更する場合は、必ず存在するディレクトリを指定してください。(このプロパティではディレクトリが作成されません。)</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows NT または Windows 2000: c:/FutureTense/sedb • Solaris または AIX: /export/home/FutureTense/sedb
xcelerate.tempobjectsdir	<p>TempObjects 表の defdir (デフォルト・ストレージ・ディレクトリ) を指定します。これは WebCenter Sites の表で、アップロードされたオブジェクト、または作成途中のオブジェクトの情報が保存または取消しが行われるまで格納されます。</p> <p>この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。</p> <p>デフォルト値: c:/FutureTense/tempobjectsdir/</p>
xcelerate.thumbnaildir	<p>Template アセットがテンプレート・バリアント・サムネイルに関連付けられたサムネイル・イメージを格納するディレクトリを指定します。</p> <p>この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。</p> <p>デフォルト値: C:/FutureTense/thumbnaildir/</p>

futuretense_xcel.ini: 「ディレクトリ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.workflowdir	ワークフロー・プロセスに関連するファイルを保持するディレクトリの名前を指定します。この値は WebCenter Sites インストールによって設定されます。 デフォルト値: C:/FutureTense/workflowdir デフォルトの値を変更する場合は、必ず存在するディレクトリを指定してください。

futuretense_xcel.ini: エレメントのオーバーライド・タブ

エレメントのオーバーライド・タブには、ユーザー・インターフェースのカスタマイズに利用できるプロパティが保持されます。ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

futuretense_xcel.ini: エレメントのオーバーライド・タブのプロパティ

プロパティ	説明
xcelem.manageuserpub	WebCenter Sites が、ユーザーが WebCenter Sites のサイトで実行するロールの管理に使用するエレメントを定義します。 デフォルト値: Openmarket/Xcelerate/Actions/Security/AccessUserPublication
xcelem.publishfactors	追加のパブリッシュ制御ファクタの提供に使用されるエレメントの名前。空白でもかまいません。 デフォルト値: Openmarket/Xcelerate/Actions/Publish/OverrideFactor
xcelem.publishoptions	このプロパティを使用して、パブリッシュ・フォームの共通オプション領域の一部をカスタマイズできます。 これは、Action/Publish/PublishOptions エレメントによって使用されます。 これが定義されている場合、すべてのパブリッシュ・フォームのパブリッシュ・オプション・セクションをレイアウトする際に呼び出されるエレメントが指定されます。 デフォルト値: 空白
xcelem.setpubid	非推奨です。 訪問者が動的 URL を使用してサイトを始めて訪問したときに pubid セッション変数を設定するエレメントの名前を指定します。これは、訪問者のセッションごとに 1 回実行されます。 デフォルト値: OpenMarket/Xcelerate/Actions/Publish/SetPubid

futuretense_xcel.ini: 「プリファレンス」 タブ

「プリファレンス」 タブには、システム上で使用される検索機能、ツリー、および文字セットの構成に使用されるプロパティが保持されます。

ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

futuretense_xcel.ini: 「プリファレンス」 タブのプロパティ

プロパティ	説明
xcelerate.charset	WebCenter Sites がサーバーとの通信に使用する文字セットを指定します。 デフォルト値: UTF-8 このプロパティのデフォルトを変更すると、サポートされる文字が制限される場合があります。
xcelerate.email.notification	非推奨です。 WebCenter Sites ワークフローで電子メール通知機能が有効化されているかどうかを指定します。 このプロパティを <code>true</code> に設定すると、アセットがワークフロー・プロセスを介してユーザーに割り当てられたときに、ワークフロー・システムから電子メール・メッセージがユーザーに送信されます。 デフォルト値: <code>false</code> 『 <i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i> 』の電子メールに関する項も参照してください。
xcelerate.restrictSiteTree	デフォルトで切替えがオフに構成されている場合 (<code>xcelerate.showSiteTree</code> プロパティが <code>false</code> に設定されている場合) に、管理ユーザー以外のユーザーが WebCenter Sites インタフェース内のツリーをオンに切り替えられるかどうかを指定します。 <code>true</code> に設定すると、 <code>xceladmin</code> ACL が設定されたユーザーのみがツリーをオンに戻すことができます。 デフォルト値: <code>false</code> この機能の詳細は、『 <i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i> 』を参照してください。
xcelerate.seLimit	内部で実行された検索エンジンの問合せから返される問合せ結果の最大数を指定します。 デフォルト値: 10000

futuretense_xcel.ini: 「プリファレンス」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.showSiteTree	<p>ユーザーが WebCenter Sites インタフェースにログインしたときに、ツリーがデフォルトで表示されるかどうかを指定します。</p> <p>デフォルトでツリーをオフにする場合は、<code>false</code> に設定します。</p> <p>デフォルト値: <code>true</code></p> <p>この機能の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
xcelerate.treehierassettype	<p>SiteEntry、CSElement、Template、および推薦アセットの階層表示モードを有効化します。</p> <p>このプロパティの値は、階層内に表示するアセット・タイプのカンマ区切りリストです。</p> <p>アセットを階層に表示しないアセット・タイプはリストに含めないでください。</p> <p>階層構造は、アセット名の「/」を基準にします。アセット名内の「/」はそれぞれ 1 つの階層レベルを表します。たとえば、「/AssetName」は最上位レベル、「//AssetName」は、次のレベルというように示されます。</p> <p>デフォルト値: <code>SiteEntry,CSElement,Template,Recommendation</code></p>
xcelerate.treeMaxNodes	<p>WebCenter Sites インタフェースのツリー内の特定ノードに表示されるアイテムの数を指定します。ノードにこの数値を超えるアイテムが存在する場合、WebCenter Sites はユーザーに対して数を減らすための検索条件の入力を求めます。</p> <p>デフォルト値: <code>100</code></p> <p>この機能の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
xcelerate.treeType	<p>WebCenter Sites インタフェースで使用されるツリーの種類を指定します。</p> <p>可能な値: <code>OMTree</code>、またはカスタマイズされた置換ツリーを指定する値</p> <p>デフォルト値: <code>OMTree</code></p> <p>事前に Oracle サポート担当者に問い合わせることなく、このプロパティを変更しないでください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「プリファレンス」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.usese	WebCenter Sites がインストールされた検索エンジンを使用するかどうかを指定します。 可能な値: true false デフォルト値: false

futuretense_xcel.ini: 「パブリッシュ」タブ

「パブリッシュ」タブには、WebCenter Sites パブリッシュ・システムに情報を提供するプロパティが保持されます。システムでは futuretense.ini ファイル（「エクスポート / ミラー」タブ）のプロパティも使用されます。このプロパティの詳細は、76 ページの「[「エクスポート / ミラー」タブ](#)」を参照してください。

futuretense_xcel.ini: 「パブリッシュ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
xcelerate.batchhost	<p>パブリッシュ・プロセスが実行されるサーバーのホスト名とポート番号を指定します。</p> <p>クラスタ化された WebCenter Sites 環境では、バッチ・ホストが 1 つのみサポートされます。このプロパティは、クラスタ・メンバーのそれぞれで同じ専用ホストを指定するように設定する必要があります。</p> <p>可能な値: <hostName>:<portNumber></p>
xcelerate.batchmode	<p>バッチ・パブリッシュ・モードを定義します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> single: バッチ・ホストは専用 IP アドレスです。 multiple: バッチ・ホストはクラスタ IP アドレスです。 <p>デフォルト値: single</p>
xcelerate.batchloadsizeonpublish	<p>パブリッシュ・イベント時にロードされるアセットのバッチ・サイズを制御します。</p> <p>デフォルト値: 250</p>
xcelerate.batchpass	<p>バッチ・ユーザーのパスワードを指定します。</p> <p>デフォルト値: xceladmin</p> <p>この WebCenter Sites システムのバッチ・ユーザーを作成した後で、必ずこの値を変更してください。詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
xcelerate.batchsave sizeonpublish	<p>パブリッシュ・イベント時に保存されるアセットのバッチ・サイズを制御します。</p> <p>デフォルト値: 250</p>

futuretense_xcel.ini: 「パブリッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.batchuser	<p>WebCenter Sites パブリッシュ・システムは、バックグラウンド・プロセスとして実行され、パブリッシュ・システムで使用されるバッチ・ユーザー・アカウントを構成する必要があります。このプロパティでバッチ・ユーザーのユーザー名が指定されます。</p> <p>デフォルト値: admin</p> <p>この WebCenter Sites システムのバッチ・ユーザーを作成した後で、必ずこの値を変更してください。詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
xcelerate.blobref	<p>BLOB のパブリッシュ参照を管理するクラスの名前。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p> <p>com.openmarket.xcelerate.publish.BlobRef.</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p> <p>パブリッシュ参照の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>
xcelerate.bulkapprov echunk	<p>WebCenter Sites インタフェースの「複数アセットの承認」機能を使用する際に、同一のバッチまたは「チャンク」で同時に承認されるアセットの数を指定します。</p> <p>この機能では、バッチで承認を求めるように選択されたすべてのアセットが承認されます。各バッチのアセット数はこのプロパティによって設定されます。</p> <p>デフォルト値: 500</p> <p>複数アセットの承認機能の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「パブリッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.donotregenerate	<p>キャッシュされたページをパブリッシュ・セッションの後に再生成するかどうかを指定します。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> 空白、つまり値なし: パブリッシュ・セッションの影響を受けたキャッシュ内のすべてのページがリフレッシュされることを意味します。 unknowndeps: キャッシュされたページが RENDER.UNKNOWNDEPS タグを使用したエレメントから生成された場合はリフレッシュされないことを意味します。 * (アスタリスク): キャッシュ内のページがリフレッシュされないことを意味します。言い換えると、影響を受けるページは、訪問者がページをリクエストしたときのみリフレッシュされることになります。 <p>デフォルト値: 空白</p> <p>事前に Oracle サポート担当者に問い合わせることなく、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
xcelerate.exportmaxfilename	<p>エクスポート・パブリッシュ時に生成されるすべてのファイル名の最大長です。</p> <p>Windows NTFS を実行している場合は、ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・プロセスによって作成されたファイルの再エクスポート、削除、名前の変更を可能にするために、この値を低く設定することが必要な場合があります。NTFS の場合はどのパス名についても上限は 255 文字です。</p>
xcelerate.mirrorini	<p>futuretense.ini 以外の追加プロパティ・ファイルからの情報を必要とするようにエレメントが変更されたことが xcelerate.remotecall プロパティによって識別された場合、このプロパティによって必要とするすべてのプロパティ・ファイルの名前が指定されます。</p> <p>デフォルト値: futuretense.ini</p> <p>事前に Oracle サポート担当者に問い合わせることなく、追加のプロパティ・ファイルを組み込む変更をこの値に加えないでください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「パブリッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.pageref	<p>ページのパブリッシュ参照を管理するクラスの名前を指定します。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p> <p>com.openmarket.xcelerate.publish.PageRef.</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>
xcelerate.presaveelt	<p>アセットの主要な行がミラー化された後、フレックスおよびコンプレックス・アセットのデシリアライズおよびasset.saveの前のパブリッシュ時に、ミラー・ターゲット上で呼び出されるエレメントの名前を指定します。</p> <p>標準のミラー・パブリッシュでは、PresaveElementを使用します。</p>
xcelerate.pubabortelt	<p>パブリッシュが失敗した場合に、ミラー・ターゲット上で呼び出されるエレメントの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: 標準のミラー・パブリッシュでは、PubAbortElementです。</p>
xcelerate.pubcleanupelt	<p>パブリッシュ・システムでミラー・パブリッシュ操作のクリーンアップ・フェーズで使用されるエレメントの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: PubCleanupElement</p> <p>事前に Oracle サポート担当者に問い合わせることなく、この値を変更しないでください。</p>
xcelerate.publishallassettypes	<p>ミラー・パブリッシュですべてのアセット・タイプをパブリッシュするかどうかを指定します。</p> <p>可能な値: true false</p> <p>trueに設定すると、すべてのアセット・タイプがパブリッシュされます。</p> <p>trueに設定しない場合は、パブリッシュに関係したアセットのアセット・タイプとその依存アセット・タイプのみがパブリッシュされます。</p> <p>注意: このプロパティを trueに設定する場合は、ソース・サーバー上に存在するすべてのアセット・タイプがパブリッシュの宛先にも存在していることを確認する必要があります。</p>

futuretense_xcel.ini: 「パブリッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.publish.invalidate	<p>アセットがパブリッシュされたときに宛先システム上でアセットに変更済のマークが付けられるかどうかを指定します。変更済のマークが付けられている場合、そのシステムから新しい宛先にパブリッシュするには承認を受ける必要があります。</p> <p>可能な値: true false</p> <p>デフォルト値: true</p> <p>パブリッシュ・システムで、アセットが宛先で変更されたことをマークするには時間が必要で、パブリッシュ・セッションの時間が長くなるため、通常は、開発および管理システムでこのプロパティを true に設定したままにしますが、配信システムでは false に変更します。</p>
xcelerate.pubsetupelt	<p>パブリッシュ・システムでミラー・パブリッシュの設定フェーズで使用されるエレメントの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: PubSetupElement</p> <p>事前に FatWire Professional Services または FatWire Customer Support に問い合わせることなく、この値を変更しないでください。</p>
xcelerate.remotecall	<p>ミラー・パブリッシュ・セッション時にターゲット・システムで起動される Pagename を指定します。</p> <p>デフォルト値:</p> <p>Openmarket/Xcelerate/PrologActions/Publish/Mirror1/RemoteCall</p> <p>事前に Oracle サポート担当者に問い合わせることなく、このエレメントや、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
xcelerate.templatedefault	<p>アセット・タイプをレンダリングするテンプレートが見つからない場合に使用するテンプレートの名前。</p> <p>デフォルト値: Openmarket/TemplateDefault</p>

futuretense_xcel.ini: 「トランスマッタ」タブ

「トランスマッタ」タブには、サイト・デスクトップで作成され、テキストと単一イメージの両方が同じ BLOB 属性に保存され、フォーマットが保持される(つまり、アセットへの変換時にテキストとイメージの両方が保存される)コンテンツに適用されるプロパティが保持されます。BLBO 属性が単一タイプのデータを保持するなど、プロパティの設定が不要なその他のシナリオについては、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』の説明を参照してください。

futuretense_xcel.ini: 「トランスフォーマ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
transformer.imgdir	<p>サイト・デスクトップが Word ドキュメントをアセットに変換するときに使用するイメージ・ファイルへのパスを指定します。このプロパティは、サイト・デスクトップで作成され、テキストと単一イメージの両方が同じ BLOB 属性で保存され、フォーマットが保持されるアセットのみに適用されます。</p> <p>注意: このプロパティはインストーラでは設定できません。空白のままにすると、サイト・デスクトップは <transformer.imgdir> ディレクトリを無視するため、Word ドキュメントから作成するアセットからイメージ・ファイルが省かれます。</p> <p>サイト・デスクトップで特定のアセット・タイプの BLOB 属性が有効化され、複合タイプのデータがサポートされる場合、ユーザーは Word ドキュメントの作成または編集時に、テキストと単一イメージを BLOB 属性に保存できます。Word ドキュメントが保存されると、そのコンテンツがアセットに変換されます。変換の際にイメージ・ファイルは <transformer.imgdir> ディレクトリに書き込まれますが、テキストは WebCenter Sites データベースの URL 列に HTML 形式で格納されます。HTML ファイルには、<transformer.imgdir> ディレクトリ内のイメージへの管理対象外のリンクが存在します。(このアセットには、WebCenter Sites ユーザー・インターフェースからアクセスでき、Word ドキュメントはそのままで保持されサイト・デスクトップを使用して編集できます。) パブリッシュシステムではこのディレクトリがミラー化されないため、複合タイプのデータが含まれる BLOB フィールドでは、<transformer.imgdir> ディレクトリを配信システムに定期的にミラー化するプロセスを実装する必要があります。</p> <p><transformer.imgdir> パスを設定する手順は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> すべてのクラスタ・メンバーからアクセス可能な共有ファイル・システムのディレクトリをポイントする Webroot を定義します。 transformer.imgurl を、定義した Webroot の相対 URL パス (/ で開始)、または Webroot の絶対 URL (http で開始) に設定します。 transformer.imgdir を、Webroot がポイントするディレクトリ・パスに設定します。 <p>サイト・デスクトップで作成 (または編集) したコンテンツの格納の詳細は、『<i>Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド</i>』を参照してください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「トランスフォーマ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
transformer.imgurl	<p>このプロパティは、サイト・デスクトップが Word ドキュメントからアセットへの変換時に Word ドキュメントから抽出したイメージ・ファイルの格納に使用する Webroot の相対 URL パスまたは絶対パスを指定します。(Word ドキュメントはそのままで保持されます。)</p> <p>注意: このプロパティは、テキストと単一イメージの両方が同じ BLOB 属性に保存され、フォーマットが保持される transformer.imgdir プロパティと連携して使用され、サイト・デスクトップで作成されたアセットのみに適用されます。</p> <p>このプロパティはインストーラでは設定されません。空白のままにすると、サイト・デスクトップはイメージ・ファイルを格納するディレクトリ (<transformer.imgdir>) を無視するため、Word ドキュメントから作成するアセットからイメージ・ファイルが省かれます。</p> <p>このプロパティの使用方法の詳細は、transformer.imgdir を参照してください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「xcelerate」タブ

「xcelerate」タブには、デフォルトの管理設定、Web モード（サイトのコントリビュータ・インターフェース内）が有効化されているかどうか、ワークフロー構成と検索エンジンが使用されているかどうか、LDAP が使用されているかどうかなどを指定するプロパティが保持されます。ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

futuretense_xcel.ini: 「xcelerate」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.binarypath	インストール時に設定されます。このプロパティは、WebCenter Sites およびサード・パーティのバイナリ（共有オブジェクト）が格納される場所を指定します。 注意： このプロパティの値は変更しないでください。
wem.enabled	これはシステム・プロパティです。サイレント・インストーラまたは GUI インストーラによる場合を除き、この値は変更できません。 デフォルト値： true (WEM フレームワークがデフォルトでインストールされる場合。)
xcelerate.adminacl	管理機能（WebCenter Sites インタフェースの「管理」タブに表示される機能）へのアクセスを可能にするためにユーザーを割り当てる必要がある ACL を指定します。 デフォルト値： xceladmin このプロパティの値を別の ACL に変更する場合は、現在 xceladmin ACL が割り当てられているすべての表に、必ずその ACL を割り当てる必要があります。
xcelerate.adminrole	インストール時にすべての管理表に設定される ACL を指定します。 デフォルト値： xceladmin システムのインストール後、このプロパティの値を変更しないでください。
xcelerate.approval.dependency.chunksize	このプロパティは、承認で使用されるチャンク・サイズを定義します。（チャンク・サイズは、パブリッシュの承認処理の際の特定の時点において WebCenter Sites が処理するアセットの数です。処理には依存性の計算が含まれます。） デフォルト値： 250 (下位互換性保持のため) 可能な値： 1 から 1000 までの任意の整数 推奨値： 1

futuretense_xcel.ini: 「xcelerate」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.base	<p>WebCenter Sites エレメントの最上位 (ベース) ディレクトリを指定します。インストール時に、インストールにおける WebCenter Sites エレメントの配置場所を指定するため、この値をインストーラで編集する必要が生じる場合があります。</p> <p>デフォルト値:</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows NT または Windows 2000: <code>c:/Fatwire/elements/OpenMarket/Xcelerate</code> Solaris または AIX: <code>/export/home/Fatwire/elements/OpenMarket/Xcelerate</code> <p>システムのインストール後、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
xcelerate.crosssiteassign	<p>複数のサイトからのユーザーが同一のワークフロー・プロセスに参加できるかどうかを指定します。</p> <p>可能な値: <code>true</code> <code>false</code></p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>
xcelerate.defaultlang	<p>デフォルト言語を指定します。</p> <p>デフォルト値: <code>en_US</code></p>
xcelerate.defaultpreviewurlgenerator	<p>サイト固有のジェネレータが記述されていない場合に、プレビュー用の URL を生成するプレビュー・ジェネレータ名を設定します。</p>
xcelerate.domain	<p>システムのドメイン名を指定します。サーバー(マシン)名は含みません。このプロパティは、WebCenter Sites と統合されているアプリケーション、およびブラウザ・インターフェースを持つアプリケーションで使用されます。</p>
xcelerate.editrole	<p>インストール時に編集用の表に設定される ACL を指定します。</p> <p>デフォルト値: <code>xceleditor</code></p> <p>システムのインストール後、このプロパティの値を変更しないでください。</p>
xcelerate.enableinsite	<p>WebCenter Sites システムの Web モード(サイト・コントリビュータ・インターフェース内)の有効 / 無効を設定します。値 <code>true</code> は Web モードを有効化します。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p> <p>WebCenter Sites 配信システムでは、Web モードを有効化しないでください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「xcelerate」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.imageurl	アプリケーションで使用されるすべてのイメージ URL の Webroot を指定します。
xcelerate.previewhost	このプロパティは、プレビュー・ホスト機能を有効化する 2 つのプロパティの 1 つで、プレビュー・ホストが使用するプロトコル、サーバー、およびポートを定義します。 この機能の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』のプレビューに使用する複数のブラウザ・セッションの管理に関する項を参照してください。 このプロパティで値を指定するには、次の構文を使用します。 <code>http://<servername>:<port></code>
xcelerate.previewservlet	このプロパティは、プレビュー・ホスト機能を有効化する 2 つのプロパティの 1 つで、プレビュー・ホストが使用するサーブレットを指定します。 この機能の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』のプレビューに使用する複数のブラウザ・セッションの管理に関する項を参照してください。 可能な値: ContentServer または Satellite デフォルト値: Satellite
xcelerate.previewurlpage name	プレビュー用の URL を生成するページの名前を設定します。 このプロパティの値は変更しないでください。
xcelerate.publishquery style	パブリッシュが承認されたアセットのリストを取得する際に使用する問合せのスタイルを定義します。 可能な値: subquery, join

futuretense_xcel.ini: 「xcelerate」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.rolemanager class	<p>ロール・マネージャ・クラスの名前を指定します。デフォルトの場合、このプロパティの値は WebCenter Sites ロール管理システムに設定されます。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.xcelerate.roles.RoleManager</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun ONE に埋め込まれた Identity Server を使用している場合は、このプロパティを正確に次の値に設定します。 com.openmarket.xcelerate.roles.IdentityServerRoleManager • WebLogic に埋め込まれた LDAP を使用している場合は、このプロパティを正確に次の値に設定します。 com.openmarket.xcelerate.roles.FlatLDAPRoleManager
xcelerate.searchResult Cols	<p>WebCenter Sites 管理インターフェースの検索結果リストに表示される列を指定します。(カスタム列は追加できません。)</p> <p>デフォルト値: name,modified,locale,startDate,endDate,assetType</p> <p>追加値: description,status</p> <p>注意: 列名では大文字と小文字が区別されます。このプロパティで指定された列順は、検索結果リストの実際の列順に影響しません。実際の順序(列の表示名による)は Name、Description、Type(ここで Type とは assetType を示します)、Locale、Status、Modified、Start Date、End Date です。</p>
xcelerate.systemid	<p>WebCenter Site システムの識別子を指定します。これは、エクスポートされるデータの一意識別子の生成に使用されます。</p> <p>既知のすべての WebCenter Sites システムの ID とは異なる値を選択します。そのようにしないと、ID の競合が発生します。</p> <p>デフォルト値: CSSystem</p> <p>可能な値: 1 から 255 文字までの任意の英数字の文字列</p>
xcelerate.transformpath	<p>インストール時に設定されます。このプロパティは、WebCenter Sites がアセットに変換する Microsoft Word ファイルをサイト・デスクトップが一時的に格納するディレクトリへのパスを設定します。</p> <p>注意: このプロパティの値は変更しないでください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「xcelerate」 タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.treetabmanager class	<p>WebCenter Sites にツリー・タブの説明を提供する ITreeTabManager を実装するクラス。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.xcelerate.treetab.TreeTabManager</p> <p>ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。このプロパティの値は変更しないでください。</p>
xcelerate.usermodeler class	<p>WebCenter Sites にユーザー・サービスを提供する ITreeTabManager を実装するクラス。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.xcelerate.user.UserManager</p> <ul style="list-style-type: none"> サイトおよびロール名に LDAP 属性マッピングを実装する場合は、このプロパティを正確に次の値に設定します。 com.openmarket.xcelerate.user.LDAPSschemaUserManager WebLogic、または Sun ONE Application Server に埋め込まれた LDAP を使用している場合は、このプロパティを正確に次の値に設定します。 com.openmarket.xcelerate.user.FlatLDAPSschemaUserManager
xcelerate.workflowengine class	<p>WebCenter Sites にワークフロー・サービスを提供する IWorkflowEngine を実装するクラス。</p> <p>ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p> <p>com.openmarket.xcelerate.workflow.WorkflowEngine</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>

futuretense_xcel.ini: 「ユーザー管理」タブ

「ユーザー管理」タブには、特定のパブリケーションに対してユーザーに設定されたロールのリスト、ユーザーが使用する画面の名前、ユーザーが有効化されているサイトのリストなど、ユーザーに関する各種の情報が保持される様々なユーザー属性名を指定するプロパティが保持されます。

futuretense_xcel.ini: 「ユーザー管理」タブのプロパティ

プロパティ	説明
xcelerate.displayable_nameattr	ログイン名と異なる場合に、表示可能な名前を記述するユーザー属性の名前を指定します。
xcelerate.emailattr	WebCenter Sites システムに対するユーザーの電子メール・アドレスの識別に使用されるユーザー属性の名前を指定します。これらの属性は SystemUserAttr 表に保管されます。 デフォルト値: mail
xcelerate.localeattr	WebCenter Sites システムに複数の言語パックをインストールした場合に、ユーザーが指定したロケールを識別するユーザー属性の名前を指定します。 デフォルト値: <ul style="list-style-type: none"> • 存在する言語が 1 つの場合は空白。 • 複数の言語が存在する場合は locale。
xcelerate.pubrolesattr	ユーザーに設定されたパブリケーションのロールをリストするユーザー属性の名前を指定します。 このプロパティは、 xcelerate.usermodelerclass が次のように設定されている場合のみ使用されます。 com.openmarket.xcelerate.user. LDAPAttrUserManager これはパブリケーション ID と結合され、ユーザーのパブリケーションのロールを格納する属性名が取得されます。 値が設定されていない場合は、 UserPublication 表、あるいは他の LDAP ユーザー管理プラグインが使用されます。

futuretense_xcel.ini: 「ユーザー管理」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
<code>xcelerate.sitenameattr</code>	<p>サイト・エントリのネーミング属性を指定します。</p> <p>このプロパティは、<code>xcelerate.usermanagerclass</code> が <code>com.openmarket.xcelerate.user.LDAPSchemeUserManager</code> に設定されている場合のみ使用されます。</p> <p>デフォルトでは、この値は空白です。したがって、ユーザーのロールに関する情報は <code>UserPublication</code> 表に保存されるか、他の LDAP ユーザー・マネージャ・プラグインが使用されます。</p> <p>このプロパティに値が指定されている場合、<code>xcelerate.usermanagerclass</code>、および <code>xcelerate.sitesroot</code> のプロパティも正しく構成する必要があります。</p>
<code>xcelerate.sitesattr</code>	<p>ユーザーにロールが設定されているパブリケーションを記述するユーザー属性の名前を指定します。</p> <p>このプロパティは、<code>xcelerate.usermanagerclass</code> が <code>com.openmarket.xcelerate.user.LDAPAttrUserManager</code> に設定されている場合のみ使用されます。</p> <p>このプロパティに値が存在する場合は、<code>pubid</code> 列の値、および <code>xcelerate.pubroleattr</code> プロパティの値と結合され、WebCenter Sites インタフェースにおけるユーザーのアクセス権が決定されます。</p> <p>デフォルトでは、この値は空白です。したがって、ユーザーのロールに関する情報は <code>UserPublication</code> 表に保存されるか、他の LDAP ユーザー・マネージャ・プラグインが使用されます。</p>

futuretense_xcel.ini: 「ユーザー管理」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
xcelerate.sitesroot	<p>サイトが配置されるルート・ノード (dn) を指定します。</p> <p>このプロパティは、<code>xcelerate.usermodelclass</code> が <code>com.openmarket.xcelerate.user.LDAPSchemeUserManager</code> に設定されている場合のみ使用されます。</p> <p>デフォルトでは、この値は空白です。したがって、ユーザーのロールに関する情報は <code>UserPublication</code> 表に保存されるか、他の LDAP ユーザー・マネージャ・プラグインが使用されます。</p> <p>このプロパティに値が指定されている場合、<code>xcelerate.usermodelclass</code>、および <code>xcelerate.sitenameattr</code> のプロパティも正しく構成する必要があります。</p>
xcelerate.userimageattr	<p>このプロパティは、WEM フレームワーク・ユーザーのアカウントの <code>imagesrc</code> 属性をポイントします (WEM 管理インターフェースからアクセス可能)。この属性には、base 64 エンコード文字列でイメージ・データが格納されます。このプロパティはイメージをフェッチします。</p>

futuretense_xcel.ini: 「ユーザー定義」タブ

futuretense_xcel.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
xcelerate.ckeditor.basepath	CKEditor ベースパス、つまり WebCenter Sites アプリケーションの CKEditor ファイルの場所です。 デフォルト値: /<URI>/ckEditor/
ckeditor.showIncludedElementInSpan	アセットをテキスト内に組み込んだときに CKEditor がどのように動作するかを制御します。 <div> タグを使用するアセットを組み込んだ場合、CKEditor は タグへの変換を行いません。 CKEditor で <div> タグを タグに変換する必要がある場合は、このプロパティを追加して true に設定します。
xcelerate.imageeditor.basepath	Online Image Editor (OIE) のベースパス、つまり OIE アーカイブの場所 (相対 URL)、ファイル名、およびバージョンです。 デフォルト値: <URI>/ImageEditor/OIE.cab#version=3,0,1,10
xcelerate.imageeditor.clarkii.basepath	WebCenter Sites アプリケーション内の Clarkii Online Image Editor ファイルへのパス。 デフォルト値: <application_context_root>/ImageEditor/clarkii/
xcelerate.useDimensionAssets	このプロパティは、配信システムでのみサポートされます。このプロパティは、WebCenter Sites 配信システムが Dim および DimP のデータベース表に対してディメンション・アセットの問合せを行うかどうかを制御します。 ディメンション・アセット (多言語サポート用など) を使用しない場合は、次のように実行して配信システムで Dim 表と DimP 表に対する不要な問合せを実行しないようにします。 1. このプロパティを futuretense_xcel.ini に追加し、false に設定します。 2. アプリケーション・サーバーの起動スクリプトで JVM の -Dcs.disable.dimensions.in.ui を true に設定します。

futuretense_xcel.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
advancedUI.enableAssetFor ms	<p>コンテンツ・コントリビュータの WebCenter Sites 管理インターフェース有効および無効の設定に使用されます。次のアセットへのアクセスに影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのフレックス・アセットとその親のアセット すべてのベーシック・アセット 推奨、セグメント、プロモーションなどの Engage アセット 問合せ、コレクションおよびページ・アセット <p>このプロパティはデフォルトで <code>false</code> に設定され、コンテンツ・コントリビュータの WebCenter Sites 管理インターフェースは無効化されています。デフォルトでサポートされている場合、WebCenter Sites コントリビュータ・インターフェース以外から上記のアセットの作成、編集、検索、削除は実行できません。</p> <p>注意: コントリビュータ・インターフェースでは開発者向けのアセット・タイプ、およびアセットは、調査のみに使用可能であるか、アクセス不可になっています。これらには WebCenter Sites 管理インターフェースからアクセスする必要があります。コントリビュータと管理インターフェースの機能比較については、『<i>Oracle WebCenter Sites ユーザーズ・ガイド</i>』を参照してください。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>

gator.ini

gator.ini のプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- [Gator タブ](#)
- [「ユーザー定義」タブ](#)

gator.ini: Gator タブ

gator.ini: Gator タブのプロパティ

プロパティ	説明
cc.attrDisplayStyle	FlexAsset または FlexGroup、ContentForm または ContentDetails 画面上の属性（名前または説明）を示すために表示されるフィールド。 可能な値: name または description デフォルト値: name
cc.attributeinheritance	Gator で使用される、属性が親から子へ継承されるかどうかを決定するブール値。 デフォルト値: true
cc.extrapath	Gator で使用される、UNIX 上でディレクトリ容量の問題を回避するために付加される追加のパス情報を BLOB に設定する必要があるかを決定するブール値。 デフォルト値: true
cc.fullconstraint	Gator で使用される、ネストされた問合せに外部問合せからのデータが含まれるかどうかを決定するブール値。 可能な値: true false デフォルト値: true
cc.money	通貨値が格納されるフィールドを定義する SQL。デフォルトを選択するか、データベース管理者に問い合わせてください。 デフォルト値: NUMERIC(20,3) データベース管理者に問い合わせることなく、この値を変更しないでください。

gator.ini: Gator タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
cc.querystyle	<p>Gator で使用される、生成するアセットセット間合せのベーシック・フォームを決定するブール値。</p> <p>可能な値: subquery、join、または intersect</p> <p>デフォルト値: subquery</p> <p>データベースで共通部分の間合せがサポートされる場合のみ、このプロパティの値の intersect への設定が機能します。</p>
cc.string	<p>文字列値が格納されるフィールドを定義する SQL。</p> <p>デフォルト値: SEARCHVARCHAR</p> <p>データベース管理者に問い合わせることなく、この値を変更しないでください。</p>
cc.textdistinct	<p>データベースが、タイプ TEXT の属性で DISTINCT をサポートできるかどうかを示すブール値。</p> <p>デフォルト値: no</p>
cc.url	<p>URL が格納されるフィールドを定義する SQL。</p> <p>デフォルト値: VARCHAR(128)</p> <p>データベース管理者に問い合わせることなく、この値を変更しないでください。</p>
cc.urlattrpath	<p>Gator が URL 属性ファイルに使用するデフォルトのベース・パスを指定します。</p> <p>デフォルト値: c:/futuretense/futuretense_cs/urlfiles</p>
cc.useLegacyInputNames	<p>Gator が使用する、FlexAsset/Parent フォームの属性の入力名を決定するブール値を指定します。新しいフォーマットに更新されていないカスタム属性エディタをサポートする必要がある場合のみ、このプロパティを有効にしてください。</p> <p>デフォルト値: false</p>

gator.ini: Gator タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
mwb.assetsetclass	<p>アセットセット管理のサービスを提供するクラスの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.gator.assetset.AssetSet</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p>
mwb.cartclass	<p>カート管理のサービスを提供するクラスの名前。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.catalog.cart.Cart</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p>
mwb.cartsetclass	<p>カート設定管理のサービスを提供するクラスの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.catalog.cartset.CartSet</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p>
mwb.commercecontextclass	<p>商用コンテキストのサービスを提供するクラスの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.gator.commercecontext.CommerceContext</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p>
mwb.commerceengineclass	<p>商用エンジン管理のサービスを提供するクラスの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.cscommerce.txcart.TransactEngine</p>
mwb.commerceuserclass	<p>商用ユーザー管理のサービスを提供するクラスの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.catalog.cart.CommerceUser</p>

gator.ini: Gator タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
mwb.conservativedependencies	<p>次の間の依存性のタイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> フレックス・アセットとフレックス属性 フレックス・アセットとフレックス定義 <p>フレックス・アセットとフレックス属性間、およびフレックス・アセットとフレックス定義間の依存性を <code>exact</code> する必要がある場合は、このプロパティを <code>true</code> に設定します。<code>exact</code> および <code>exists</code> の依存性の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>
mwb.defaultattributes	<p>Gator がアセットセットの作成時に使用するデフォルトの属性アセット名を指定します。</p> <p>デフォルト値: 空白</p>
mwb.externalattributes	<p>Gator で使用される、ユーザーによる外部属性の定義がフォームで許可されるかどうかを決定するブール値を指定します。</p> <p>デフォルト値: <code>true</code></p>
mwb.path	<p>Gator がインストールされているディレクトリを指定します。ディレクトリの末尾は必ずスラッシュ (/) にする必要があります。</p> <p>デフォルト値: <code>c:/nas21/apps/</code> このプロパティの値は変更しないでください。</p>
mwb.promotioncutoff	<p>プロモーションの訪問者を制限するかどうかを決定する確信度評価を指定します。</p> <p>可能な値: 0 以上、100 以下の整数</p> <p>デフォルト値: 50 このプロパティの値は変更しないでください。</p>
mwb.searchdir	<p>Gator がリッチテキスト索引を配置するディレクトリを指定します。ディレクトリの末尾は必ずスラッシュ (/) にする必要があります。</p> <p>デフォルト値: <code>c:/futuretense/gator/search/</code> このプロパティの値は変更しないでください。</p>

gator.ini: Gator タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
mwb.searchstateclass	<p>検索状態の管理のサービスを提供するクラスの名前を指定します。</p> <p>デフォルト値: com.openmarket.gator.searchstate.SearchState</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。ここに示すデフォルト値は参照のみを目的としています。</p>
mwb.segmentcutoff	<p>訪問者をセグメントに含めるかどうかを決定する確信度評価。</p> <p>可能な値: 0 以上、100 以下の整数。</p> <p>デフォルト値: 50</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>

gator.ini: 「ユーザー定義」タブ

gator.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
-------	----

注意: デフォルトでは、このタブにプロパティはありません。

log4j.properties

Apache log4j は、新しい WebCenter Sites 11gR1 インストールのロギング・システムとして使用されます。

注意

Apache log4j は、WebCenter Sites 11gR1 へのアップグレードのプロセスでサポートされますが、ソース・システム (FatWire Content Server 7.6 パッチ 1 またはパッチ 2) で Jakarta Commons Logging の使用が設定されている場合は、インストール・エンジニアが Jakarta Commons Logging の使用の続行を選択することもできます。システムのアップグレード後は、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』の Apache log4j の設定に関する項に記載されているように、Apache log4j への切替えは手動のプロセスになります。

Apache log4j の設定時は、次の 2 つのファイルが構成されます。

- commons-logging.properties ファイルでは、Log4JLogger を指定するようにプロパティ org.apache.commons.logging.Log が設定されます (この値はクラス名 com.fatwire.cs.core.logging.Log4JLogger です)。
- log4j.properties ファイルは、情報のログ記録方法、および記録される情報のタイプの指定のために作成されます。log4j.properties ファイルには、次のエントリが格納されます。
 - FWDefaultAppender という名前の一連のアペンドは、情報のログ記録の方法を指定します。たとえば、プロパティ FWDefaultAppender.File は、WebCenter Sites のログ・ファイルとその場所を指定します。プロパティのリストは、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』の log4j の構成に関する項に掲載されています。これら、および他の log4j 固有のプロパティの詳細は、Apache log4j のドキュメントを参照してください。
 - WebCenter Sites のログ出力では、ログ対象の情報のタイプ、および重大度レベルが判定されます。ログ出力は、commons-logging.properties ファイル (22 ページを参照) から、log4j.properties ファイルにコピーされ、その名前の先頭には log4j.logger が付けられています。

たとえば、commons-logging.properties ファイルでは、次のログ出力を使用してデータベース・アクセス、問合せ、文の実行に関連するメッセージのログ重大度が指定されます。

```
logger.com.fatwire.logging.cs.db
```

log4j.properties ファイルへのコピー時に、ログ出力は次のように命名されます。

```
log4j.logger.com.fatwire.logging.cs.db
```

WebCenter Sites ログ出力の詳細は、22 ページの「commons-logging.properties」を参照してください。

log4j を設定すると、WebCenter Sites 管理インターフェースの「管理」タブの「システム・ツール」に「log4j の構成」ツールが表示されます。「log4j の構成」ツールを使用すると、一般の管理者は現在のログ出力、ログ出力レベルの一時的な変更、および新しいログ出力を管理者インターフェースから直接表示できます。管理インターフェースから加えた変更は、WebCenter Sites を再起動するまでに限

り有効です。ログ出力プロパティのテキスト・バージョンをインターフェースから log4j.properties ファイルにコピーした場合のみ、再起動後も変更が有効になります。(log4j.properties ファイルに直接加えた変更は、システムを再起動するまで WebCenter Sites に適用されません。) 「**log4j の構成**」ツールの詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』を参照してください。

logging.ini (非推奨)

logging.ini には、ロギング・モジュールを構成するプロパティが保持されます。ロギング・モジュールは、futuretense.txt ファイルにメッセージを書き込みます。

注意

ロギング・モジュールは非推奨になりました。これは、Directory Services API でのみ使用されます。

logging.ini ファイルのプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- グローバル・データ・タブ
- メッセージ・リソース・タブ
- 「ユーザー定義」タブ

logging.ini: グローバル・データ・タブ

グローバル・データ・タブで保持されるプロパティは 1 つです。

logging.ini: グローバル・データ・タブのプロパティ

プロパティ	説明
log.filterLevel	<p>非推奨です。</p> <p>ロギング・モジュールがログに書き込むメッセージの量を決定する重大度のしきい値。</p> <p>可能な値：</p> <ul style="list-style-type: none">info: 情報、警告、エラー、重度、致命的のすべてのメッセージを書き込みます。warning: 情報メッセージが除外され、警告、エラー、重度、および致命的のメッセージが書き込まれます。error: 警告と情報のメッセージが除外され、エラー、重度、および致命的のメッセージが書き込まれます。severe: エラー、警告、および情報のメッセージが除外され、重度と致命的のメッセージが書き込まれます。fatal: 致命的なメッセージのみが書き込まれます。

logging.ini: メッセージ・リソース・タブ

メッセージ・リソース・タブには、ロギング・モジュールがアプリケーションの様々なコンポーネントによって起動されたときに、このモジュールによって配置、配信およびレポートされるメッセージ・バンドルの論理マッピングを提供するプロパティが保持されます。

注意

このタブ上のプロパティの値はいずれも変更しないでください。

logging.ini: メッセージ・リソース・タブのプロパティ

プロパティ	説明
log.Directory.messages	<p>非推奨です。 Directory Services API に使用される Java リソース・バンドル。 デフォルト値: com.openmarket.directory.DirectoryResources. このプロパティの値は変更しないでください。</p>
log.Logger.messages	<p>非推奨です。 ロギング・モジュールに使用される Java リソース・バンドル。 デフォルト値: com.openmarket.logging.LoggerMessageResources このプロパティの値は変更しないでください。</p>
log.transformer.messages	<p>非推奨です。 デフォルトのトランスフォーマ WebMethodsEnterprise Connector サブシステムのメッセージ・リソースを提供するクラス。</p>
log.wmentconnector.messages	<p>非推奨です。 WebMethodsEnterprise Connector システムのメッセージ・リソースを提供するクラス。</p>

logging.ini: 「ユーザー定義」タブ**logging.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ**

プロパティ	説明
-------	----

注意: デフォルトでは、このタブにプロパティは保持されません。

omii.ini

omii.ini ファイルはシステム固有のファイルです。このファイルは WebCenter Sites のインストール時に作成され、WebCenter Sites に対して選択されたインストールの条件とオプションを記録します。

注意

omii.ini ファイルは、再インストールおよびアップグレード時に WebCenter Sites インストーラによって使用されます。このファイルは絶対に変更しないでください。

omproduct.ini

omproduct.ini ファイルはシステム固有のファイルです。このファイルは WebCenter Sites のインストール時に作成され、WebCenter Sites のインストールで選択された Oracle 製品とサンプル・サイト・コンポーネントに関する情報を記録します。

注意

omproduct.ini ファイルは、再インストールおよびアップグレード時に WebCenter Sites インストーラによって使用されます。このファイルは絶対に変更しないでください。

satellite.properties

各 WebCenter Sites システムで Satellite サーブレットが実行されるため、satellite.properties ファイルは WebCenter Sites システムごとに作成されます。Satellite サーブレットが ContentServer サーブレットと同じ仮想マシン上で実行される場合は「共存」と呼ばれます。これ以外の場合はリモートです。

satellite.properties は、Satellite Server アプリケーションをホストする各サーバー上にあります。satellite.properties の役割は、制御対象の Satellite サーブレットを構成することです。

satellite.properties ファイルのプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 「キャッシュ」タブ
- 「構成」タブ
- 「リモート・ホスト」タブ
- 「セッション」タブ
- 「ユーザー定義」タブ

satellite.properties: 「キャッシュ」タブ

「キャッシュ」タブには、Satellite Server のキャッシュ設定が保持されます。

`file_size` プロパティはパフォーマンスに大きく影響する場合があります。パフォーマンスを最適化するには、メモリー・キャッシュの量を最大にします。ただし、ホストのメモリー容量を超えないようにする必要があります。

大容量のメモリーまたは比較的小さな Web サイトであれば、大きい値を設定してすべてをメモリーにキャッシュすることをお薦めします。ただし、Web サイト全体をメモリーに収容できるかどうかの計算では、明示的に削除するまで、またはキャッシュ・クリーニング・スレッドが削除するまで、期限切れの Web ページがメモリーにとどまるのを忘れないでください。`cache_check_interval` プロパティの値を設定するときは、このことを必ず考慮してください。

satellite.properties: 「キャッシュ」タブのプロパティ

プロパティ	説明
<code>cache_check_interval</code>	<p>非推奨です。</p> <p>レガシーのページ・キャッシュにのみ適用されます。このプロパティは、キャッシュ・クリーナ・スレッドの頻度を制御します。期限切れオブジェクトは、期限満了時にキャッシュから削除されるわけではありません。リクエストされて、無効であると判明した場合に削除されるか、キャッシュ・クリーナ・スレッドによって明示的に削除されます。</p> <p>キャッシュ・クリーナ・スレッドの実行間隔を分単位で指定します。</p>
<code>cache_folder</code>	<p>レガシーのページ・キャッシュにのみ適用されます。このプロパティでディスク・ベース・キャッシュ・データの場所が指定されます。このプロパティを空白のままにした場合、キャッシュされたデータはコンテキストの <code>temp</code> フォルダに格納されます。</p> <p>デフォルト値: 空白</p>
<code>cache_max</code>	<p>レガシーのページ・キャッシュにのみ適用されます。このプロパティは、キャッシュに保持するオブジェクトの最大数を指定します。指定のサイズを超えた場合はオブジェクトがキャッシュから削除されます。キャッシュ・サイズ制限の管理には LRU メソッドが使用されます。</p>

satellite.properties: 「キャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
expiration	<p>inCache ページ・キャッシュおよびレガシーのページ・キャッシュに適用されます。このプロパティは、有効期限情報が他に指定されていないすべてのキャッシュ・オブジェクトに (COM.FutureTense.Util.TimePattern 文字列の形式) でこの情報を指定します。</p> <p>オブジェクトの有効期限情報は、satellite.page (および関連) タグの cachecontrol 属性で指定できます。ページの場合は、SiteCatalog の sscacheinfo 列で有効期限情報を指定することもできます。バイナリ・オブジェクトの場合は、cachecontrol 属性のデフォルト値が futuretense.ini ファイルで指定されます。</p> <p>リクエストの最も外部のラッパー・ページはオーバーライドを指定できないため、このプロパティが制御可能な唯一の場所になることに注意してください。</p> <p>デフォルト値: 5:0:0 */*/*</p> <p>これは、Satellite Server のキャッシュにあるものはすべて、毎日午前 5 時に失効するということを表しています。</p> <p>フォーマットは次のとおりです。</p> <pre><hours>:<minutes>:<seconds> <daysOfWeek>/<daysOfMonth>/<months></pre> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • <hours>: 0 から 23 (0 は午前 0 時を示します) • <minutes>: 0 から 59 • <seconds>: 0 から 59 • <daysOfWeek>: 0 から 6 (0 は日曜日を示します) • <daysOfMonth>: 1 から 31 • <months>: 1 から 12 <p>その他の可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • never は、キャッシュが満杯で、ページの使用が最も古い場合のみページが期限切れになることを意味します。 • immediate は、ページがキャッシュされないことを意味します。

satellite.properties: 「キャッシュ」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
file_size	<p>レガシーのページ・キャッシングに適用されます。このプロパティは、ディスクにキャッシング可能なオブジェクトのサイズ(キロバイト)を指定します。小さいオブジェクトはメモリーに保持されます。</p> <p>この値は、システム RAM、ディスク速度などに応じて調整する必要があります。</p> <p>デフォルト値: 250</p>

satellite.properties: 「構成」タブ

「構成」タブには、Satellite サーブレットを構成するプロパティが保持されます。

satellite.properties: 「構成」タブのプロパティ

プロパティ	説明
blocktimeout	<p>非推奨です。</p> <p>別のスレッドがホストに対して同じデータをリクエストして処理中の場合に、リクエストが待機する秒数を指定します。個別ユーザーのレスポンス時間は犠牲になりますが、待機によりキャッシュが空の場合のホスト・サーバー上の負荷を軽減できます。</p> <p>デフォルト値: 45</p> <p>値 -1 は、前のスレッドが返されるまでの待機を意味します。値 0 は、待機しないことを意味します。</p> <p>この値は、ホストのパフォーマンス、平均リクエスト・サイズ、およびネットワーク待機時間に応じて調整する必要があります。</p> <p>大きい数字、または -1 の使用が安全です。</p>
password	<p>Satellite エンジンがエンジンの再起動やキャッシュのリセットなどの特殊な機能を要求するためのパスワードを指定します。</p> <p>ユーザー名とパスワードはデフォルトから必ず変更してください。</p>
readtimeout	<p>非推奨です。</p> <p>ソケットの読み取りタイムアウトの秒数を指定します。この期間を経過すると、読み取りはエラーによって終了します。値 0 は、Java Runtime Environment のタイムアウトに従います。値 3 では 3 秒の待機時間が設定されます。</p> <p>デフォルト値: 45</p>
transparent.content-type.pattern	<p>ページレット、別の WebCenter Sites ページへのリンク、BLOB へのリンクなどのネスト・コンポーネントの格納が可能なコンテンツ・タイプを示す正規表現。コンテンツ・タイプがこのパターンと一致するページは、Satellite Server によって解析されます。</p>

satellite.properties: 「構成」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
servlet	Satellite Server サーブレットの識別に使用される URL パターンを指定します。ページが適正に設計されている場合、Satellite Server は、この URL パターンを使用するようにリンクとフォームをリライトします。 デフォルト値: Satellite
username	Satellite エンジンがエンジンの再起動やキャッシュのリセットなどの特殊な機能を要求するためのユーザー名を指定します。 ユーザー名とパスワードはデフォルトから必ず変更してください。

satellite.properties: 「リモート・ホスト」タブ

「リモート・ホスト」タブには、Satellite Server と WebCenter Sites 間の通信ルールを定義するプロパティが保持されます。ここでは、これらのプロパティをアルファベット順に記載します。

satellite.properties: 「リモート・ホスト」タブのプロパティ

プロパティ	説明
bservice	この値は、BLOB Server サーブレットのサーブレット・パスです。これを使用して、satellite.blob タグを解決するための移動先を Satellite Server に指示します。 一般的な値には、iPlanet 用の /NASApp/cs/BlobServer や、サーブレット・コンテナ用の /servlet/BlobServer などがあります。
host	Satellite エンジンがリクエストをキャッシュする WebCenter Sites を実行するリモート・ホスト・システムの名前。 これは必須で、デフォルトは存在しません。
port	WebCenter Sites ホストと通信するポートの番号。 デフォルト値: 80
protocol	Satellite Server ホストと WebCenter Sites ホストの間の通信プロトコル。(一般には http:// または https://)。 プロトコルを https:// に設定しても、それだけではセキュアな通信が保証されないことに注意してください。証明書の取得も必要になります。
service	この値は、WebCenter Sites サーブレットのサーブレット・パスです。 これを使用して、satellite.page タグを解決するための移動先を Satellite Server に指示します。 一般的な値には、iPlanet 用の /NASApp/cs/ContentServer や、サーブレット・コンテナ用の /servlet/ContentServer などがあります。

satellite.properties: 「セッション」タブ

「セッション」タブには、Satellite サーブレットがユーザーのブラウザ・セッションを解釈する方法に関する情報を提供するプロパティが保持されます。

satellite.properties: 「セッション」タブのプロパティ

プロパティ	説明
contentserver.installation.folder	<p>path.to.futuretense.ini プロパティを置換します。</p> <p>Satellite Server と WebCenter Sites が同じ Web アプリケーションで実行され、ユーザーのセッションを共有する必要があるインストールに適用されます。このプロパティは、WebCenter Sites インストールへのパスを指定して、Satellite Server がシステム・アセット・ルートや futuretense.ini ファイルなどの WebCenter Sites のリソースにアクセスできるようにします。</p> <p>可能な値:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Satellite Server が WebCenter Sites と異なる Web アプリケーションで実行されている場合は空白。 • Satellite Server が WebCenter Sites と同じ Web アプリケーションで実行されている場合は <cs_installation_dir>。このディレクトリには、futuretense.ini ファイルが格納されています。
cookieprefix	<p>Satellite Server は、クライアントの代理としてそれ自体とリモート・ホスト間のセッションを維持します。Satellite Server の追跡を正しく実行するには、アプリケーション・サーバーが使用するセッション ID Cookie の名前を Satellite Server が認識している必要があります。</p> <p>ここに使用可能なセッション Cookie 名の接頭辞をセミコロンで区切って入力します。空白にした場合は、デフォルトの設定が使用されます。</p>
path.to.futuretense.ini	<code>contentserver.installation.folder</code> と置換されました。

satellite.properties: 「セッション」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
sessionid.cookie.prefix	<p>セッション ID Cookie に付加する接頭辞をユーザーが指定できるようになりました。</p> <p>セッション ID Cookie は、ホスト (WebCenter Sites など) に対するセッション ID Cookie です。WebCenter Sites とクライアント間のセッションを維持するには、Satellite Server がセッション ID Cookie をクライアントに渡す必要があります。</p> <p>Satellite Server 自体が使用するセッション Cookie と競合しないようにするため、この Cookie は名前を変更する必要があります。構成可能な接頭辞を使用することで、セッション ID Cookie の名前を認識しているユーザーは、完全な Cookie 名の構築が可能になります。これは、サーブレット・フィルタや、カスタム機能をサポートする他のメカニズムで使用できます。</p>
sharesession	<p>ContentServer サーブレットと Satellite サーブレットでユーザー・セッションを共有するかどうかを指定します。</p> <p>Satellite Server がリモートで実行される場合は、これを <code>false</code> に設定します。Satellite Server と ContentServer が共存している場合は、このプロパティを <code>true</code> に設定します。</p> <p>このプロパティの設定が適切でないと、ページ間でユーザー固有の情報に不整合が発生することがあります。</p>

satellite.properties: 「互換性」 タブ

satellite.properties: 「互換性」 タブのプロパティ

プロパティ	説明
formaction	<p>Satellite サーブレットは、ユーザーが GET または POST した WebCenter Sites の URL を Satellite の URL に変換します。このプロパティは、Satellite の URL を作成するときに置換する WebCenter Sites の URL の文字列を指定します。</p> <p>この値は大文字と小文字が区別されます。</p> <p>Satellite Server 6 で有効になりました。すべてのフォームで新しい satellite.form タグを使用してください。</p>
newformaction	<p>GET および POST される URL をローカルでマップされたサーブレットに置換する文字列を指定します。</p> <p>この値は大文字と小文字が区別されます。</p> <p>Satellite Server 6 で有効になりました。すべてのフォームで新しい satellite.form タグを使用してください。</p>
globally_replace_content_server	<p>このプロパティが <code>true</code> に設定されていると、Satellite Server は、WebCenter Sites から返された処理可能なすべてのページを解析して、<code>formaction</code> プロパティで記述された文字列のすべてのインスタンスを、<code>newformaction</code> プロパティで記述される文字列に置換します。また、発生したすべての ContentServer も、<code>servlet</code> プロパティで記述された文字列に置換します。</p> <p>Satellite Server 6 で有効になりました。リンクには <code>satellite.link</code> または <code>RENDER.GETPAGEURL</code> を、フォームには <code>satellite.form</code> を使用してください。これが可能でない場合は、このプロパティを <code>true</code> に設定します。</p> <p>デフォルト値: <code>false</code></p>

satellite.properties: 「ユーザー定義」タブ**satellite.properties: 「ユーザー定義」タブのプロパティ**

プロパティ	説明
appserverlink	非推奨です。 値: 45
servlet-path	非推奨です。 値: /spark/
propagatecache	inCache ページ・キャッシングが有効なノード間におけるページの伝播の有効化に使用されます。inCache の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
scratch.cleanup.schedule	Satellite Server のキャッシングで生成された Scratch フォルダ内のファイルをクリーンアップするために実行されるイベントの頻度を分単位で指定します。この頻度は、キャッシングにロードされるページのボリューム、および <code>file_size</code> プロパティ (satellite.properties ファイル内) から決定する必要があります。 Scratch フォルダのデフォルトの場所は、アプリケーション・サーバーによって異なります。パスは、 <code>cache_folder</code> プロパティ (satellite.properties ファイル内) を設定することによって構成できます。 デフォルト値: 2

ServletRequest.properties

ServletRequest.properties ファイルには、特定のタイプのリクエスト (ポータル・リクエスト、Satellite Server リクエストなど) の構成を指定するプロパティが保持されます。

ServletRequest.properties ファイルのプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 「リクエストのエンコーディング」タブ
- リクエストのしきい値タブ
- URI アセンブラー・タブ
- 「ユーザ一定義」タブ

ServletRequest.properties: 「リクエストのエンコーディング」タブ

ServletRequest.properties: 「リクエストのエンコーディング」タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.charset	入力の文字エンコーディングを定義するオプション・パラメータの名前。
cs.contenttype	テキストのストリームに使用されるデフォルト・コンテンツ・タイプの文字列。次に例を示します。 UTF-8 の場合: text/html; charset=UTF-8 Latin1 の場合: text/html; charset=iso-8859-1 デフォルト値: text/html
cs.contenttype.UTF-8	受信 HTTP パラメータのデコード時に使用される優先コンテンツ・タイプの文字列。このプロパティは、ユーザーが shift_jis を特別なエンコーディングにオーバーライドしようとする、日本語インストール向けに設計されています。 たとえば、Cp943C などのエンコーディングを使用する日本語環境での値の設定: cs.contenttype.shift_jis=Cp943C デフォルト値: cs.contenttype によって設定。

ServletRequest.properties: リクエストのしきい値タブ

ServletRequest.properties: リクエストのしきい値タブのプロパティ

プロパティ	説明
cs.disksize	メモリー内に保持されるページ・リクエスト内のバイナリ BLOB の最大サイズを定義します。このサイズを超えたものは、必要になるまで一時ファイルに保存されます。

ServletRequest.properties: URI アセンブラー・タブ

ServletRequest.properties: 「リクエストのエンコーディング」タブのプロパティ

プロパティ	説明
path.BlobServer	BLOB Server サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/BlobServer /servlet/BlobServer
path.CacheServer	Cache Server サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/CacheServer /servlet/CacheServer
path.CatalogManager	CatalogManager サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/CatalogManager /servlet/CatalogManager
path.ContentServer	ContentServer サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/ContentServer /servlet/ContentServer
path.CookieServer	Cookie Server サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/CookieServer /servlet/CookieServer
path.DispatchManager	Dispatch Manager サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/DispatchManager /servlet/DispatchManager
path.PageDispatchServer	Page Dispatch Server サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/PageDispatchServer /servlet/PageDispatchServer

ServletRequest.properties: 「リクエストのエンコーディング」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
path.SatelliteServer	最もアクセス頻度の高いホスト上の Satellite Server サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。強制 Satellite Server URI はこのパスをサーブレット・コンテキスト・パスとして使用します。 一般的な値: /cs/Satellite /servlet/Satellite
path.SeedDispatchServer	Seed Dispatch Server サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/SeedDispatchServer /servlet/SeedDispatchServer
path.SyncSeedDispatchServer	Sync Seed Dispatch Server サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/SyncSeedDispatchServer /servlet/SyncSeedDispatchServer
path.TreeManager	Tree Manager サーブレットのサーブレット・コンテキスト・パス。 一般的な値: /cs/TreeManager /servlet/TreeManager
uri assembler 1 classname	WebCenter Sites のこのインスタンスで使用されるデフォルト URI アセンブラーのクラス名を指定します。ユーザーはこの値をオーバーライドして、com.fatwire.cs.core.uriAssembler インタフェースに準拠した別のアセンブラーを指定できます。 このクラスで指定されたアセンブラーによって URI をデコードできない場合、WebCenter Sites は次にランクの高いアセンブラーを使用して URI のデコードを試みます。このプロセスは、URI がデコードされるまで続きます。
uri assembler 1 shortform	対応する URI アセンブラーの短縮名を指定します。短縮名とは、使用するアセンブラーを特定するために getURI メソッドに渡す名前で、アセンブラーの略称です。

ServletRequest.properties: 「リクエストのエンコーディング」タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
uri assembler 2 classname	WebCenter Sites のこのインスタンスで使用される 2 番目の URI アセンブラーのクラス名を指定します。ユーザーはこの値をオーバーライドして、com.fatwire.cs.core.uriAssembler インタフェースに準拠した別のアセンブラーを指定できます。 このクラスで指定されたアセンブラーによって URI をデコードできない場合、WebCenter Sites は次にランクの高いアセンブラーを使用して URI のデコードを試みます。このプロセスは、URI がデコードされるまで続けます。
uri assembler 2 shortform	対応する URI アセンブラーの短縮名を指定します。短縮名とは、使用するアセンブラーを特定するために getURI メソッドに渡す名前で、アセンブラーの略称です。
uri assembler 3 classname	WebCenter Sites のこのインスタンスで使用される 3 番目の URI アセンブラーのクラス名を指定します。ユーザーは、この値をオーバーライドして、com.fatwire.cs.core.uriAssembler インタフェースに従う別のアセンブラーを指定できます。 このクラスで指定されたアセンブラーによって URI をデコードできない場合、WebCenter Sites は次にランクの高いアセンブラーを使用して URI のデコードを試みます。このプロセスは、URI がデコードされるまで続けます。
uri assembler 3 shortform	対応する URI アセンブラーの短縮名を指定します。短縮名とは、使用するアセンブラーを特定するために getURI メソッドに渡す名前で、アセンブラーの略称です。

ServletRequest.properties: 「ユーザー定義」タブ

ServletRequest.properties: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
-------	----

注意: デフォルトでは、このタブにプロパティはありません。

visitor.ini

visitor.ini ファイルは、WebCenter Sites によってインストールされます。しかし、このファイル内のプロパティは WebCenter Sites ではなく WebCenter Sites: Engage を構成します。これらのプロパティは、訪問者データ・コレクション、および WebCenter Sites: Engage が提供するその他の機能を構成します。

visitor.ini ファイルのプロパティは、プロパティ・エディタの次のタブに機能別に編成されています。

- 訪問者データ・タブ
- 「ユーザー定義」タブ

visitor.ini: 訪問者データ・タブ

訪問者データ・タブには、ファイル内の主なプロパティが保持されます。

visitor.ini: 訪問者データ・タブのプロパティ

プロパティ	説明
vis.adminrole	<p>Engage ユーザーが訪問者属性、履歴属性、履歴タイプ、推奨アセット・タイプを処理する際に必要な ACL を指定します。</p> <p>デフォルト値: VisitorAdmin</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>
vis.compileclasspath	<p>ルールがコンパイルされるクラスパスを指定します。</p> <p>この値はインストール時に設定され、その後は変更できません。</p>
vis.editrole	<p>次の 2 種類の Engage ユーザーが必要とする ACL を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebCenter Sites システムを使用してセグメントおよびプロモーションを作成するコンテンツ・プロバイダ • Engage を使用して訪問者に関するセグメントの情報を収集する場合は、オンライン・サイトを訪問する訪問者 <p>デフォルト値: Visitor</p> <p>このプロパティの値は変更しないでください。</p>
vis.genclasspath	<p>訪問者データの rules-engine-generated クラス・ファイルが格納されるディレクトリ(末尾のスラッシュ文字を含む)を指定します。</p> <p>この値はインストール時に設定され、その後は変更できません。</p>

visitor.ini: 訪問者データ・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
vis.money	通貨値を保持するフィールドを定義する SQL 文字列を指定します。 データベース管理者に問い合わせることなく、このプロパティの値を変更しないでください。
vis.path	ruleset.dtd ファイルを保持するディレクトリを指定します。通常はインストール・ディレクトリです。この値はインストール時に設定されます。 このプロパティの値は変更しないでください。
vis.rulesetxmlpath	XML バージョンのルール・セットに使用する defdir (デフォルトのストレージ・ディレクトリ) を指定します。 この値はインストール時に設定されます。 このプロパティの値は変更しないでください。
vis.sessiondata	訪問者セッション・データを格納する defdir (デフォルトのストレージ・ディレクトリ) を指定します。 この値はインストール時に設定されます。 このプロパティの値は変更しないでください。
vis.update	ページ・アクセスごとに訪問者データ内の訪問者タイムスタンプが更新されるかどうかを指定します。 可能な値: true false ページのアクセスごとに訪問者データの訪問者タイムスタンプを更新する場合は、true に設定します。それ以外の場合は、false に設定します。 デフォルト値: true
vis.url	タイプ URL の訪問者および履歴の属性を定義する SQL 文字列を指定します。 デフォルト値: VARCHAR(128) データベース管理者に問い合わせることなく、このプロパティの値を変更しないでください。
vis.urlpath	バイナリの訪問者と履歴の属性に使用される defdir を指定します。 デフォルト値: /futuretense/visurl/

visitor.ini: 訪問者データ・タブのプロパティ (続き)

プロパティ	説明
vis.useSessionVisitorConnection	<p>このプロパティは、データベース中心、またはメモリーを中心とする方法のいずれで Engage 訪問者を追跡するかを決定します。これにより、Engage アセットを使用し、トラフィックが集中するサイトのパフォーマンスを改善します。メモリー中心の追跡の場合、WebCenter Sites は訪問者スカラー属性値をアドオン・リポジトリに、訪問者履歴属性値を WebCenter Sites 自体のデータベースに格納します。訪問者のセグメントを決定する計算はすべてメモリー内で実行され、結果がキャッシュされます。</p> <p>デフォルトでは、このプロパティは visitor.ini に自動では含まれません。その場合この値は <code>false</code> (つまり、データベース中心) とみなされます。</p> <p>このプロパティは、次の方法のいずれかによつて配信システムで設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> データベース中心の方法を有効にする場合は、このプロパティを <code>false</code> に設定するか、空白のままにするか、ファイルから省きます。 メモリー中心の方法を有効にする場合は、このプロパティを <code>true</code> に設定し、配信システムにサポートするテンプレート・コードが存在することを確認します (これがないと Engage 訪問者が正しく追跡されません)。必要なコードの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』の、Engage に関する項でメモリー中心の訪問者追跡に関する説明を参照してください。 <p>コンテンツ管理システムで、データベース中心の追跡が有効化された CM システム上のみで訪問者属性の作成と管理が行われる場合は、このプロパティを <code>false</code> に設定するか、省く必要があります。配信システムでは訪問者属性の管理がサポートされません。属性は配信システムにパブリッシュする必要があります。</p>

visitor.ini: 「ユーザー定義」タブ

visitor.ini: 「ユーザー定義」タブのプロパティ

プロパティ	説明
-------	----

注意: デフォルトでは、このタブにプロパティはありません。

第 2 部

Oracle WebCenter Sites のアプリケーション

この部では、WebCenter Sites: Engage、WebCenter Sites: Analytics、および WebCenter Sites:Satellite Server で使用されるプロパティ・ファイルを紹介します。

この部は次の項で構成されます。

- [Oracle WebCenter Sites: Analytics のプロパティ](#)
- [Oracle WebCenter Sites: Engage のプロパティ](#)
- [Oracle WebCenter Sites: Satellite Server のプロパティ・ファイル](#)

Oracle WebCenter Sites: Analytics のプロパティ

Oracle WebCenter Sites: Analytics では、Analytics のインストール後に `futuretense_xcel.ini` プロパティ・ファイル内のいくつかのプロパティの設定が必要です。これらのプロパティについては、106 ページの「[「分析」タブ](#)」を参照してください。

Oracle WebCenter Sites: Engage のプロパティ

WebCenter Sites: Engage では、`ms.ini` という名前の 1 つのプロパティ・ファイルがインストールされ、このファイルには `ms.enable` プロパティのみが保持されます。

ms.ini

ms.ini のプロパティ

プロパティ	説明
<code>ms.enable</code>	WebCenter Sites のインストール・プロセスで Engage をインストールして有効化すると、 <code>true</code> に設定されます。

注意

Engage 構成プロパティは、`visitor.ini` (169 ページ) という名前の WebCenter Sites プロパティ・ファイルに配置されています。

Oracle WebCenter Sites: Satellite Server のプロパティ・ファイル

リモート・サーバーにスタンドアロン・アプリケーションとして Satellite Server をインストールした場合は、そのサーバー上に `satellite.properties` が存在します。このファイルのプロパティの詳細は、153 ページの「[satellite.properties](#)」を参照してください。

第 3 部

サード・パーティのライブラリおよび アプリケーション

この部では、サード・パーティのライブラリとアプリケーション、および Oracle WebCenter Sites との統合に関する情報について説明します。

この部は次の項で構成されます。

- [HTTP クライアント・アクセス](#)

HTTP クライアント・アクセス

ここでは、Apache Commons HttpClient ライブラリについて、および WebCenter Sites とライブラリの統合方法について説明します。

Apache Commons HttpClient

WebCenter Sites では、すべての HTTP アクセスの基盤ライブラリとして Apache Commons HttpClient が使用されます。バージョン 3 以降、HttpClient は、次に掲載されたパラメータをサポートしています。

<http://jakarta.apache.org/commons/httpclient/preference-api.html>

このパラメータの機能は次のとおりです。

- HttpClient パラメータは、HttpClient コンポーネントの実行時の動作を変更します。
たとえば、Post 操作にデフォルトとは異なるタイムアウトを設定する場合は、実行前に PostMethod.getParams().setParam("timeout", 1000) をコールできます。
- HttpClient パラメータは、階層的にリンクできます。
階層のレベルは上から順にグローバル、クライアント、ホスト、メソッドです。上位レベルで設定されたパラメータは、下位レベルの対応パラメータの値でオーバーライドされます。

柔軟な HttpClient にも制限はあり、パラメータの設定はプログラムでのみ可能です。パラメータ値をユーザーが指定できる構成ファイルを作成したり、ライブラリから自動的に取得することはできません。ただし、次の項「[WebCenter Sites との統合](#)」で説明するように、WebCenter Sites の統合ではこの制限が克服されています。

注意

WebCenter Sites は、次に掲載されているパラメータを使用します。

<http://jakarta.apache.org/commons/httpclient/preference-api.html> 表 180 ページの「HttpClient パラメータ」に、パラメータとその説明が一覧表示されています（前述のサイトからの複製）。HttpClient によって定義されたパラメータとその機能に対する変更は自動サポートされません。

WebCenter Sites との統合

WebCenter Sites では、ユーザー構成可能なプロパティ・ファイルの作成をユーザーに許可することによって、HttpClient の機能を抽出します。ファイルの作成後、ユーザーは必要な HttpClient パラメータ（デフォルト値とは値が異なるパラメータ）をそのファイルに移入して、プロパティ・ファイルをクラスパスに配置します。WebCenter Sites はクラスパスからプロパティ・ファイルをロードして、事前定義された構文に従ってパラメータを解析します（表 180 ページの「HttpClient パラメータ」を参照）。パラメータは HttpAccess API によって取得され、実行時に適用されます。

WebCenter Sites では、レベルが `HttpAccess` Java API で定義されたレベルと直接的に対応する階層がサポートされます (WebCenter Sites の Java ドキュメントを参照)。実装に応じてレベルごとに 1 つ以上のプロパティ・ファイルを作成して、**任意の組合せ**の `HttpClient` パラメータを移入できます。レベルとプロパティ・ファイルの命名規則は次のとおりです。

注意

プロパティ・ファイルは、WebCenter Sites 外部のプロパティ・エディタでテキスト・ファイルとして作成する必要があります。プロパティ・ファイルの名前では大文字と小文字が区別され、全体を小文字にする必要があります。

- **HttpAccess (レベル 1)**

プロパティ・ファイル:`httpaccess.properties`

`httpaccess.properties` ファイルではユーザーがパラメータとその値を指定します。このファイルは作成されたすべての `HttpAccess` インスタンスに適用されます。

オーバーライド:`HttpAccess` レベルのパラメータ値は、レベル 2、3、および 4 の対応パラメータの値によってオーバーライドされます (下記を参照)。

- **HostConfig (レベル 2)**

プロパティ・ファイル:`<protocol>-<hostname>-<port number>.properties`

プロパティ・ファイルのそれぞれでユーザーがホスト固有パラメータを指定します。たとえば、ポート 7001 でアクセス可能な `targetserver` という名前のホストの場合、このプロパティは `http-targetserver-7001.properties` と命名され、そのホストに固有の `HttpClient` パラメータが格納されます。

オーバーライド:`HostConfig` レベルのパラメータ値は、`HttpAccess` レベルの対応パラメータの値をオーバーライドします。

- **Request (レベル 3)**

プロパティ・ファイル:`<request type>.properties`

この `<request type>` は、値 `post`、`get`、または `login` のいずれかを取得します。

`Request` に固有のパラメータをユーザーが指定します。たとえば、`post.properties` では、`post` のインスタンスに適用可能な `HttpClient` パラメータが指定されます。

オーバーライド:`Request` レベルのパラメータ値は、`HttpAccess` と `HostConfig` のレベルの対応パラメータの値をオーバーライドします。

- ホスト別、リクエスト別 (レベル 4)

プロパティ・ファイル:<request type>-<protocol>-<host name>-<port number>.properties

この <request type> は、値 post、get、または login のいずれかを取得します。

このプロパティ・ファイルのパラメータは、Request レベルのパラメータと同様に機能します。ただし、適用先は特定のホストになります。

オーバーライド: 「ホスト別、Request 別」 レベルで指定されたパラメータ値は、特定のホストの HttpAccess、HostConfig、および Request のレベルの対応パラメータの値をオーバーライドします。

次の例は、「ホスト別、Request 別」 レベルでどのようにオーバーライドが有効になるかを示しています。この例では、ユーザーが login-[http-m2-7002.properties](#) という名前のプロパティ・ファイルを定義し、100 秒の http.connection.timeout を指定しています。このタイムアウトは、m2 という名前のホスト・マシンとポート 7002 に厳密に適用されます。このタイムアウト値は、上位レベルの m2 に指定されたタイムアウト値が存在する場合にそのすべてをオーバーライドします。他のホスト・マシンのタイムアウト値には影響しません。

WebCenter Sites では、外部構成可能な方法で HttpClient によって定義されたすべてのパラメータがサポートされます。さらに、WebCenter Sites では、ユーザーによる外部でのパラメータの構成を可能にし、第 4 レベル (ホスト別、Request 別) でのパラメータ指定を容易にすることで、HttpClient の機能が拡張されます。

HttpClient によってサポートされるすべてのパラメータに加え、WebCenter Sites の HttpAccess API では、[httpaccess.properties](#) 内の構成プロパティ cs.SecureProtocolSocketFactory が定義されます。このプロパティは、SSL (Secure Socket Layer) 接続に使用されるプロトコル・ソケット・ファクトリを指定します。[http://jakarta.apache.org/commons/httpclient/sslguide.html](#) では、3 種類の実装を使用できます。自己署名証明書を使用し、SSL でホストに接続する場合は、次の構成が必要になることに注意してください。

```
cs.SecureProtocolSocketFactory=org.apache.commons.httpclient.contrib.ssl.EasySSLProtocolSocketFactory
```

WebCenter Sites では、この EasySSLProtocolSocketFactory クラスが提供されません。このクラスは、[http://jakarta.apache.org/commons/httpclient/sslguide.html](#) で入手できます。Apache の実装 (直上のリンク) は Sun 固有であるため、Sun と IBM JDK では必ず異なる方法でビルドします。また、HttpClient のドキュメントに従って、独自のソケット・ファクトリの実装を作成することもできます。

HttpClient 階層には、HttpAccess API で直接サポートされないためにパラメータを明示的に設定できない 2 つのレベル (接続マネージャと接続) が存在することに注意してください。ただし、このことはユーザーがこのパラメータを構成できないこと意味するものではありません。このパラメータは HttpAccess API の下位または上位の対応レベルで指定できます。

実装

WebCenter Sites ユーザーは、どのような方法で WebCenter Sites の HTTP アクセスを構成するのでしょうか。ユーザーは、適切な名前のプロパティ・ファイルを作成して、それをクラスパスに配置するだけです。それをインフラストラクチャが取得し、使用します。これは、特にパラメータの数が多いと大量の作業が必要になるように見えます。しかし、デフォルトでは作成が必要なプロパティやプロパティ・ファイルはありません。すべてのデフォルトが使用され、HttpClient によって、「最適な推測」値が取得されます。通常これは特定のシステムにおける最適な設定です。事例のうち 95% で「最適な推測」値が有効であり、ユーザーがプロパティ・ファイルを作成する必要はありません。

まれに、デフォルトとは異なるパラメータ値が必要な場合は、WebCenter Sites インフラストラクチャではユーザーがプロパティ・ファイルで構成を指定でき、その実装が可能になります。これにより、HttpClient 自体が構築基盤である構成機能全体の使用が可能になります。

HttpClient パラメータと WebCenter Sites のプロパティ

この項の表は、Apache Commons HttpClient でサポートされるパラメータを示しています。表の説明は、次のサイトから複製されています。

<http://jakarta.apache.org/commons/httpclient/preference-api.html>

構文とデフォルト値は、WebCenter Sites 固有であるため、Oracle によって定義されます。構文は明白である場合は、下表の「構文」フィールドが空白になっています。

パラメータとその機能に対する変更は自動的にサポートされるわけではないことに注意してください。下表の情報は Oracle から更新情報が発行されるまで有効です。

WebCenter Sites では、HttpClient パラメータのサポートに加え、次のプロパティも定義されています。

プロパティ: cs.SecureProtocolSocketFactory

使用: httpaccess.properties ファイルにのみ適用可能。

説明: SSL ソケット接続の開始に使用されるクラスを定義します。

デフォルト値: 空白。システムでは、HttpClient の JSSE ベースのデフォルト実装が使用されます。詳細の提供場所: <http://jakarta.apache.org/commons/httpclient/sslguide.html>

HttpClient パラメータ

名前	説明
http.authentication.preemptive	認証が優先的に試行されるかどうかを定義します。 データ型: ブール デフォルト値: <未定義>

HttpClient パラメータ (続き)

名前	説明
http.connection.stalecheck	古い接続チェックを使用するかどうかを決定します。古い接続チェックを無効にすると、サーバー側でクローズされた接続を介したリクエストの実行時に I/O エラーが発生するリスクはありますが、パフォーマンスが若干向上します。 データ型: ブール デフォルト値: <未定義>
http.connection.timeout	接続が確立されるまでのタイムアウト。値 0 はタイムアウトを使用しないことを意味します。 データ型: 整数 デフォルト値: <未定義>
http.connection-manager.class	デフォルトの HTTP 接続マネージャ・クラス。 データ型: クラス 構文: 完全修飾クラス名 デフォルト値: simpleHttpConnectionManager クラス
http.connection-manager.max-per-host	ホスト構成ごとに許容される最大接続数を定義します。これらの値は、特定の <code>HttpConnectionManager</code> インスタンスからの接続数のみに適用されます。このパラメータは、データ型 <code>Map</code> の値を受け入れます。この値は、 <code>HostConfiguration</code> のインスタンスを <code>Integer</code> にマップします。デフォルト値は <code>ANY_HOST_CONFIGURATION</code> を使用して指定できます。 データ型: マップ 構文: 次のように指定します。 <code> \${<host>;<port>;<protocol>; <max connections>}</code> デフォルト値: <未定義>
http.connection-manager.max-total	全体に許容される最大接続数を定義します。この値は、特定の <code>HttpConnectionManager</code> インスタンスからの接続数のみに適用されます。 データ型: 整数 デフォルト値: <未定義>

HttpClient パラメータ (続き)

名前	説明
http.connection-manager.timeout	<p>HTTP 接続マネージャから HTTP 接続を取得する際に使用されるタイムアウト (ミリ秒)。</p> <p>データ型: ロング</p> <p>デフォルト値: <未定義></p>
http.dateparser.patterns	<p>解析に使用されるデータ・パターン。パターンは、コレクションに格納され、SimpleDateFormatとの互換性が必要とされます。</p> <p>データ型: コレクション</p> <p>構文: 各エレメントを \${<element>} で囲んで、コレクションを指定します。</p> <p>例: \${EEE, dd-MMM-yyyy HH-mm-ss z}\${EEE, dd MMM yy HH:mm:ss z}</p> <p>デフォルト値:</p> <p>EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss zzz EEEE, dd-MMM-yy HH:mm:ss zzz EEE MMM d HH:mm:ss yyyy EEE, dd-MMM-yyyy HH:mm:ss z EEE, dd-MMM-yyyy HH-mm:ss z EEE, dd MMM yy HH:mm:ss z EEE dd-MMM-yyyy HH:mm:ss z EEE dd-MMM-yyyy HH:mm:ss z EEE dd-MMM-yy HH:mm:ss z EEE dd MMM yy HH:mm:ss z EEE, dd-MMM-yy HH:mm:ss z EEE, dd-MMM-yyyy HH:mm:ss z EEE, dd-MMM-yyyy HH:mm:ss z EEE, dd-MMM-yyyy HH:mm:ss z</p>
http.default-headers	<p>各リクエストのデフォルトで送信されるリクエスト・ヘッダー。このパラメータは、コレクション・データ型の値を受け入れます。コレクションには HTTP ヘッダーが格納されると予期されます。</p> <p>データ型: コレクション</p> <p>構文: 次のように各ヘッダーを指定します。</p> <pre> \${name=<header name>; value=<header value>}</pre> <p>デフォルト値: <未定義></p>

HttpClient パラメータ (続き)

名前	説明
http.method.multipart.boundary	<p>MultipartRequestEntity と合わせて使用されるマルチパート境界文字列。このプロパティが設定されていない場合は、リクエストごとにランダム値が生成されます。</p> <p>データ型: 文字列 構文: デフォルト値: <未定義></p>
http.method.response.buffer.warnlimit	<p>警告をトリガーしない最大バッファ済レスポンス・サイズ (バイト)。バッファ済レスポンスがこのサイズを超えると、ログで警告がトリガーされます。設定されていない場合の制限は 1MB です。</p> <p>データ型: 整数 デフォルト値: 1</p>
http.method.retry-handler	<p>失敗したメソッドの再試行に使用されるメソッド再試行ハンドラ。詳細は、例外処理のガイドを参照してください。</p> <p>データ型: HttpMethodRetryHandler 構文: 完全修飾クラス名 デフォルト値: デフォルトの実装。</p>
http.protocol.allow-circular-redirects	<p>循環リダイレクト (同じ場所へのリダイレクト) が許容されるかどうかを定義します。HTTP の仕様では、循環リダイレクトが許容されるかどうかが明確でないため、オプションとして有効化できます。</p> <p>データ型: ブール デフォルト値: <未定義></p>
http.protocol.content-charset	<p>コンテンツ本文のエンコーディングに使用される文字セット。</p> <p>データ型: 文字列 デフォルト値: ISO-8859-1</p>
http.protocol.cookie-policy	<p>Cookie 管理に使用される Cookie ポリシー。</p> <p>データ型: 文字列 デフォルト値: CookiePolicy.RFC_2109</p>

HttpClient パラメータ (続き)

名前	説明
http.protocol.credential-charset	<p>資格証明のエンコーディング時に使用される文字セット。定義されていない場合は、値 <code>http.protocol.element-charset</code> が使用されます。</p> <p>データ型: 文字列 デフォルト値: <未定義></p>
http.protocol.element-charset	<p>HTTP プロトコル・エレメント (ステータス行およびヘッダー) のエンコーディング / デコードに使用される文字セット。</p> <p>データ型: 文字列 デフォルト値: US-ASCII</p>
http.protocol.expect-continue	<p>エンティティを含むメソッドで「Expect: 100-Continue」ハンドシェイクをアクティブ化します。「Expect: 100-Continue」ハンドシェイクでは、リクエスト本文を含むリクエスト・メッセージを送信するクライアントが、リクエスト本文の送信前にオリジン・サーバーがリクエストを受け入れようとしているかどうかを (リクエスト・ヘッダーに基づいて) 判定できます。</p> <p>「Expect: 100-continue」ハンドシェイクの使用により、ターゲット・サーバーの認証を必要とするエンティティを含むリクエスト (POST、PUT など) のパフォーマンスが大幅に向上します。「Expect: 100-continue」は、HTTP/1.1 プロトコルをサポートしていない HTTP サーバーおよびプロキシで問題が発生する場合があるため、使用時は注意が必要です。</p> <p>データ型: ブール デフォルト値: <未定義></p>
http.protocol.head-body-timeout	<p>非互換サーバーからの HEAD レスポンスの応答として送信されるコンテンツ本文の待機時間をミリ秒で設定します。パラメータが設定されていない場合、または -1 に設定されている場合、非互換レスポンスの本文チェックが無効化されます。</p> <p>データ型: 整数 デフォルト値: <未定義></p>
http.protocol.max-redirects	<p>追跡対象のリダイレクトの最大数を定義します。リダイレクト数の制限は、無限ループの防止を目的としています。</p> <p>データ型: 整数 デフォルト値: <未定義></p>

HttpClient パラメータ (続き)

名前	説明
http.protocol.reject-head-body	HEAD リクエストに対して送信されるコンテンツ本文が拒否されるかどうかを定義します。 データ型: ブール デフォルト値: <未定義>
http.protocol.reject-relative-redirect	相対リダイレクトが拒否されるかどうかを定義します。 データ型: ブール デフォルト値: <未定義>
http.protocol.single-cookie-header	Cookie を単一レスポンス・ヘッダーに配置するかどうかを定義します。 データ型: ブール デフォルト値: <未定義>
http.protocol.status-line-garbage-limit	HTTP レスポンスのステータス・コードを受け入れる前に無視可能な最大行数を定義します。 HTTP/1.1 の永続的な接続では、スクリプトの中止によって、返される Content-Length が不正確になる (指定より多くのバイト数が送信される) 問題が発生します。場合によっては、不適切なレスポンス後は実行できず、次のレスポンスの前に実行可能になります。そのため HttpClient では、これらの剩余行のスキップが可能である必要があります。これを 0 に設定すると、ステータス行の前のガベージ / 空白行が許容されません。無制限を指定するには Integer.MAX_VALUE を使用します。 データ型: 整数 デフォルト値: <未定義>
http.protocol.strict-transfer-encoding	無効な転送エンコーディングのレスポンス拒否されるかどうかを定義します。 データ型: ブール デフォルト値: <未定義>
http.protocol.unambiguous-statusline	HTTP メソッドであいまいな HTTP ステータス行を拒否するかどうかを定義します。 データ型: ブール デフォルト値: <未定義>

HttpClient パラメータ (続き)

名前	説明
http.protocol.version	<p>デフォルトで HTTP メソッドによって使用される HTTP プロトコル・バージョン。</p> <p>データ型: <code>HttpVersion</code></p> <p>構文: <(int)major>.<(int)minor>; 例: 1.1</p> <p>デフォルト値: <code>HttpVersion_1_1</code></p>
http.protocol.warn-extra-input	<p>レスポンスのバイト数が想定 (Content-Length ヘッダーの指定など) より多い場合の HttpClient の動作を定義します。悪意のあるレスポンス・データ (偽ヘッダーなど) がその接続を使用して次のリクエストで望ましくない結果を発生させる可能性があるため、このような剩余データは HTTP 接続の keep-alive リクエストの信頼性をなくします。</p> <p>このパラメータを <code>true</code> に設定した場合は、余計な入力データが検出されるとログに警告が生成されます。</p> <p>データ型: ブール</p> <p>デフォルト値: <未定義></p>
http.socket.linger	<p>秒単位の残存時間 (SO_LINGER)。このオプションは、TCP ソケットの <code>close()</code> からの即時の戻りを無効化 / 有効化します。ゼロ以外の整数のタイムアウトでこのオプションを有効化すると、<code>close()</code> によってピアに書き込まれるすべてのデータの送信と確認の保留がブロックされ、その時点でソケットが正常にクローズされます。値 0 は、このオプションの無効化を意味します。値 -1 は、JRE のデフォルトの使用を意味します。</p> <p>データ型: 整数</p> <p>デフォルト値: <未定義></p>
http.socket.receive-buffer	<p><code>Socket.setReceiveBufferSize(int)</code> で設定される値。この値は、ソケットを介して受信されるデータに使用されるバッファのサイズに関する、アプリケーションからカーネルへの提案です。</p> <p>データ型: 整数</p> <p>デフォルト値: <未定義></p>

HttpClient パラメータ (続き)

名前	説明
http.socket.sendbuffer	Socket.setSendBufferSize(int) で設定される値。この値は、ソケットを介して送信されるデータに使用されるバッファのサイズに関する、アプリケーションからカーネルへの提案です。 データ型：整数 デフォルト値： <未定義>
http.socket.timeout	メソッドの実行時に使用されるソケットのタイムアウト (SO_TIMEOUT) をミリ秒単位で設定します。タイムアウト値をゼロにすると、無限のタイムアウトとして解釈されます。 データ型：整数 デフォルト値： <未定義>
http.socket.timeout	データ待機のタイムアウトであるデフォルトのソケット・タイムアウト (SO_TIMEOUT) (ミリ秒)。タイムアウト値をゼロにすると、無限のタイムアウトとして解釈されます。この値は、HTTP メソッド・パラメータでソケット・タイムアウトが設定されていない場合に使用されます。 データ型：整数 デフォルト値： <未定義>
http.tcp.nodelay	Nagle のアルゴリズムを使用するかどうかを決定します。Nagle のアルゴリズムは、送信されるセグメント数を最小化することによって帯域幅を節約しようとします。アプリケーションでネットワーク待機時間の短縮とパフォーマンスの増強が必要な場合は、Nagle のアルゴリズムを無効化できます (TCP_NODELAY の有効化によって)。データの送信は早くなりますが、帯域幅の消費は増加します。 データ型： ブール デフォルト値： <未定義>
http.useragent	HTTP メソッドで使用される User-Agent ヘッダーのコンテンツ。 データ型： 文字列 デフォルト値： <公式リリース名> 例： Jakarta Commons-HttpClient/3.0

索引

B

BlobServer

 キャッシュ設定 60
 セキュリティ設定 56
 プロパティ 59

C

cc.textdistinct 143

E

Engage

 プロパティ 174

H

HTTP

 プロパティ 82

J

Java Server Pages, 「JSP」を参照
JSP

 プロパティ 79

S

Satellite Server

 プロパティ 95

U

URL 列
 プロパティ 84

W

Web モード
 プロパティ 133

あ

 アプリケーション・サーバー
 プロパティ 52

か

 管理者
 管理 ACL を設定するプロパティ 132

く

 クラスタ
 プロパティ 62

け

 結果セットのキャッシング
 プロパティ 90, 97
 検索エンジン
 プロパティ 96

ニ

コンテンツ表
プロパティ 63, 66

さ

削除
プロパティ 13

せ

セキュリティ
プロパティ 56

そ

ソース
定義 76

た

ターゲット
定義 76

て

ディスク・キャッシュ・プロパティ 85
データベース
プロパティ 67
電子メール
アドレスが保持されるユーザー属性の
指定 137
プロパティ 74

に

認証プロパティ 53

は

パフォーマンス
ft.filecheck プロパティ 94
パブリッシュ
プロパティ 76, 124

ふ

ファイアウォール・サーバー

IP アドレス 76
ポート番号 77
プリフレンス
プロパティ 121
プロパティ
Engage 174
HTTP 82
JSP 79
Satellite Server 95
URL 列 84
Web モード 133
アプリケーション・サーバー 52
管理者 132
クラスタ 62
結果セットのキャッシング 90, 97
検索エンジン 96
コンテンツ表 63, 66
削除 13
セキュリティ 56
設定 10
追加 12
データベース 67
電子メール 74
認証 53
パブリッシュ 76, 124
プリフレンス 121
訪問者データ 169
メッセージ・ロギング 149
ラージ・テキスト・フィールド 70
プロパティ・エディタ
プロパティの削除 13
プロパティの設定 10
プロパティの追加 12

ほ

訪問者データ
プロパティ 169

め

メッセージ・ロギング
プロパティ 149

ゆ

ユーザー管理
認証のプロパティ 53

ろ

ロギング、メッセージ
プロパティ 149

手順の索引

advancedUI.enableAssetForms 141
afk.historydata 17
afk.publishdata 17
am.debug 116
analysisconnector.version 97
analytics.datacaptureurl 106
analytics.enabled 106
analytics.piurl 106
analytics.reporturl 106
analytics.user 106
appserverlink 163
asset.debug 116
baseDN 40
blocktimeout 157
bs.bCacheSize 59
bs.bCacheTimeout 60
bs.invalidheadernames 60
bs.security 56
bservice 159
cache_check_interval 154
cache_folder 154
cache_max 154
catalogcentre.version 97
cc.AttributeSetCSz 97
cc.attrDisplayStyle 142
cc.attributeinheritance 142
cc.bigint 67
cc.bigtext 67
cc.blob 68
cc.BlobServerCacheCSz 88
cc.BlobServerTimeout 88
cc.cacheNoSync 62
cc.cacheResults 91
cc.cacheResultsAbs 92
cc.cacheResultsTimeout 92

cc.CategoryCSz 97
cc.char 68
cc.ComparatorsKey 98
cc.contentkey 66
cc.datepicture 68
cc.datetime 68
cc.double 69
cc.ElementCatalogCSz 92
cc.ElementCatalogTimeout 93
cc.extrapath 142
cc.FiltersKey 98
cc.forcelower 69
cc.fullconstraint 142
cc.ignoreTblCase 69
cc.integer 69
cc.maxvarcharsize 70
cc.MimeTypeKey 98
cc.money 142
cc.null 70
cc.numeric 70
cc.PreviewgenKey 98
cc.primary 70
cc.queryablemaxvarcharlength 71
cc.querystyle 143
cc.rename 71
cc.security 56
cc.SiteCatalogCSz 93
cc.SiteCatalogTimeout 93
cc.smallint 71
cc.SourceKey 98
cc.StatusCodeCSz 98
cc.StatusCodeKey 98
cc.string 143
cc.stringpicture 71
cc.SystemACLCSz 93
cc.SystemACLTimeout 93
cc.SystemInfoCSz 93
cc.SystemInfoTimeout 93
cc.SystemPageCacheCSz 89
cc.SystemPageCacheTimeout 89
cc.SystemUsersCSz 94
cc.SystemUsersTimeout 94
cc.textdistinct 143
cc.unique 72
cc.url 143
cc.urlattrpath 143
cc.useLegacyInputNames 143
cc.varchar 72
ckeditor.showIncludedElementInSpan 140
className.Attribute 41
className.Attributes 41
className.IDir 42

className.IFactory 42
className.IName 42
className.IUserDir 42
className.JNDIName 42
cleandns 40
cn 38
com.fatwire.logging.cs 24
com.fatwire.logging.cs.auth 24
com.fatwire.logging.cs.blobserver 25
com.fatwire.logging.cs.cache.page 25
com.fatwire.logging.cs.cache.resultset 25
com.fatwire.logging.cs.core.http.HttpAccess 25
com.fatwire.logging.cs.core.uri.assembler 25
com.fatwire.logging.cs.core.uri.definition 26
com.fatwire.logging.cs.db 26
com.fatwire.logging.cs(errno 26
com.fatwire.logging.cs.event 26
com.fatwire.logging.cs.export 27
com.fatwire.logging.cs.filelock 27
com.fatwire.logging.cs.firstsite.filter 27
com.fatwire.logging.cs.install 27
com.fatwire.logging.cs.jsp 27
com.fatwire.logging.cs.realtime 27
com.fatwire.logging.cs.request 28
com.fatwire.logging.cs.satellite 28
com.fatwire.logging.cs.satellite.cache 28
com.fatwire.logging.cs.satellite.host 28
com.fatwire.logging.cs.satellite.request 28
com.fatwire.logging.cs.session 28
com.fatwire.logging.cs.sync 29
com.fatwire.logging.cs.sysinfo 29
com.fatwire.logging.cs.time 29
com.fatwire.logging.cs.visitor.object 29
com.fatwire.logging.cs.visitor.ruleset 30
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.advantage.recommendation 30
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.approval 30
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.asset 30
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.assetmaker 30
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.publish 30
com.fatwire.logging.cs.xcelerate.template 31
com.fatwire.logging.cs.xml 31
com.fatwire.logging.ui.model 35
com.fatwire.logging.ui.phase 35
com.fatwire.search.asset 31
com.fatwire.search.lucene 35
commerceconnector.version 98
contentcentre.version 98
contentserver.installation.folder 160
cookieprefix 160
cs.alwaysusedisk 85
cs.approvalLockStriping 99
cs.barEqualsSlash 56

cs.binarypath 132
cs.charset 165
cs.charset 36
cs.charset 81
cs.childfoldercount 100
cs.contenttype 165
cs.contenttype 36
cs.contenttype 81
cs.contenttype.UTF-8 165
cs.contenttype.UTF-8 36
cs.cookievariables 63
cs.dataindatabase 63
cs.dbconnpicture 72
cs.dbencoding 100
cs.dbtype 72
cs.disksize 165
cs.disksize 36
cs.disksize 81
cs.documentation 81
cs.dsn 72
cs.emailaccount 74
cs.emailauthenticator 74
cs.emailcharset 74
cs.emailcontenttype 74
cs.emailhost 75
cs.emailpassword 75
cs.emailreturnto 75
cs.eventhost 52
cs.expireonly 86
cs.freezeCache 86
cs.HTTP_HOST 82
cs.HTTP_PROTOCOL 82
cs.httpvariables 63
cs.IItemList 86
cs.invalMemWindow 100
cs.jspclear 79
cs.jsppath 79
cs.jsprefresh 79
cs.jspresponsewrapper 79
cs.jsproot 80
cs.jspwork 80
cs.manage.expired.blob.inventory 87
cs.manageACL 53
cs.manageproperty 53
cs.manageUser 53
cs.manageUserAccess 54
cs.manageUserSystem 54
cs.mirrorhttpversion 76
cs.mirrorpassword 76
cs.mirrorproxyserver 76
cs.mirrorproxyserverport 77
cs.mirrorrowsperpost 77

cs.mirrorthreads 77
cs.mirroruser 77
cs.nocache 87
cs.parentfoldercount 99
cs.PastramiEngine 95
cs.pgCacheTimeout 88
cs.pgexportfolder 78
cs.privpassword 72
cs.privuser 72
cs.recordBlobInventory 61
cs.recordBlobInventory 88
cs.requestfactory 101
cs.requiresessioncookies 88
cs.satellitehosts 63
cs.satellitepassword 64
cs.satelliteusers 64
cs.selfmodify 64
cs.session 56
cs.sitepreview 83
cs.ssovalidator 54
cs.timeout 57
cs.uniqueidpoolsize 57
cs.urlfilerollup 84
cs.use.short.jsp.names 80
cs.wrapper 57
cs.xmlfolder 84
cs.xmlHeader 84
cs.xmlHeaderAutoStream 64
debug 19
defaultGroupAttrs 47
defaultPeopleAttrs 47
defaultReaderACls 47
expiration 155
file_size 156
forgotpassword 50
formaction 162
ft.approot 65
ft.catalogmanager 65
ft.cgipath 52
ft.contentserver 65
ft.debugport 73
ft.filecheck 94
ft.servletpoutputstream 101
ft.suppressPasswordNames 73
ft.suppressPasswords 73
ft.sync 62
ft.treemanager 65
ft.usedisksync 62
ft.version 57
globally_replace_contentserver 162
groupparent 41
host 159

```
http.authentication.preemptive 180
http.connection.stalecheck 181
http.connection.timeout 181
http.connection-manager.class 181
http.connection-manager.max-per-host 181
http.connection-manager.max-total 181
http.connection-manager.timeout 182
http.dateparser.patterns 182
http.default-headers 182
http.method.multipart.boundary 183
http.method.response.buffer.warnlimit 183
http.method.retry-handler 183
http.protocol.allow-circular-redirects 183
http.protocol.content-charset 183
http.protocol.cookie-policy 183
http.protocol.credential-charset 184
http.protocol.element-charset 184
http.protocol.expect-continue 184
http.protocol.head-body-timeout 184
http.protocol.max-redirects 184
http.protocol.reject-head-body 185
http.protocol.reject-relative-redirect 185
http.protocol.single-cookie-header 185
http.protocol.status-line-garbage-limit 185
http.protocol.strict-transfer-encoding 185
http.protocol.unambiguous-statusline 185
http.protocol.version 186
http.protocol.warn-extra-input 186
http.socket.linger 186
http.socket.receivebuffer 186
http.socket.sendbuffer 187
http.socket.timeout 187
http.socket.timeout 187
http.tcp.nodelay 187
http.useragent 187
image.time 101
java.naming.factory.initial 43
java.naming.security.authentication 43
jndi.baseURL 43
jndi.connectAsUser 43
jndi.custom 44
jndi.login 44
jndi.password 44
jndi.poolConnections 44
jndi.poolsize 44
log.Directory.messages 150
log.filterLevel 149
log.Logger.messages 150
log.transformer.messages 150
log.wmentconnector.messages 150
logging.file 33
logging.format 33
```

logging.interval 23
logging.maxlogsize 33
logging.per-client-log 34
logging.roll 34
logging.timestamp 34
loginattribute 38
marketingstudio.version 101
memberof 39
ms.enable 174
mwb.assetsetclass 144
mwb.cartclass 144
mwb.cartsetclass 144
mwb.cartsetdir 21
mwb.commercecontextclass 144
mwb.commerceengineclass 144
mwb.commerceuserclass 144
mwb.conservativedependencies 145
mwb.defaultattributes 145
mwb.externalattributes 145
mwb.path 145
mwb.promotioncutoff 145
mwb.searchdir 145
mwb.searchstateclass 146
mwb.segmentcutoff 146
newformaction 162
ntlogin.DefaultACL 54
ntlogin.DefaultReaderACL 54
ntlogin.DefaultReaderID 55
ntlogin.DefaultReaderPW 55
ntlogin.LogFile 55
ntlogin.Logging 55
objectclassGroup 48
objectclassPerson 48
org.apache.commons.logging.Log 23
org.apache.commons.logging.LogFactory 24
org.apache.http 31
org.apache.http.client 31
org.apache.http.headers 32
org.apache.http.impl.client 32
org.apache.http.impl.conn 32
org.apache.http.wire 32
page.time 101
password 157
password 38
path.BlobServer 166
path.CacheServer 166
path.CatalogManager 166
path.ContentServer 166
path.CookieServer 166
path.DispatchManager 166
path.PageDispatchServer 166
path.SatelliteServer 167

path.SeedDispatchServer 167
path.SyncSeedDispatchServer 167
path.to.futuretense.ini 160
path.TreeManager 167
peopleparent 41
port 159
propagatecache (futuretense.ini) 101
propagatecache (satellite.properties) 163
protocol 159
readtimeout 157
request.folder 19
requiredGroupAttrs 48
requiredPeopleAttrs 48
rsCacheOverinCache 102
satellite.blob.cachecontrol.default 95
satellite.page.cachecontrol.default 96
scratch.cleanup.schedule 163
search.returnLimit 48
search.scope 49
search.timeoutVal 49
secure.CatalogManager 58
secure.DebugServer 58
secure.TreeManager 58
security.checkpagelets 65
security.class 20
service 159
servlet 158
servlet-path 163
sessionid.cookie.prefix 161
sharesession 161
singlesignon 55
soap.binaryRowsType 103
soap.iList 103
soap.likeConstraint 103
soap.listRowsType 103
soap.nestedConstraint 103
soap.rangeConstraint 103
soap.richTextConstraint 103
soap.searchstate 103
soap.standardConstraint 104
soap.stringRowsType 104
soap.stringVarsType 104
soap.urlRowsType 104
soap.URLType 104
ss.flushall 89
syntax.beginquote 45
syntax.beginquote2 45
syntax.custom 44
syntax.direction 45
syntax.endquote 45
syntax.endquote2 45
syntax.escape 45

syntax.ignorecase 46
syntax.separator 46
syntax.separatorava 46
syntax.separatortypeeval 46
syntax.trimblanks 46
thread.count 18
thread.growcache 18
thread.idle 18
thread.wait 19
transformer.imgdir 130
transformer.imgur 131
transparent.content-type.pattern 157
uniquemember 38
uri.assembler.1.classname 167
uri.assembler.1.shortform 167
uri.assembler.2.classname 168
uri.assembler.2.shortform 168
uri.assembler.3.classname 168
uri.assembler.3.shortform 168
username 158
username 39
vis.adminrole 169
vis.compileclasspath 169
vis.editrole 169
vis.genclasspath 169
vis.money 170
vis.path 170
vis.rulesetxpath 170
vis.sessiondata 170
vis.update 170
vis.url 170
vis.urlpath 170
vis.useSessionVisitorConnection 171
wem.enabled 132
xcelem.manageuserpub 120
xcelem.publishfactors 120
xcelem.publishoptions 120
xcelem.setpubid 120
xcelerate.adminacl 132
xcelerate.adminrole 132
xcelerate.approval.dependency.chunksize 132
xcelerate.asset.shareToAllAllowed 107
xcelerate.asset.sizeofnamefield 107
xcelerate.authorizefunctions 110
xcelerate.base 133
xcelerate.batchhost 124
xcelerate.batchloadsizeonpublish 124
xcelerate.batchmode 124
xcelerate.batchpass 124
xcelerate.batchsavesizeonpublish 124
xcelerate.batchuser 125
xcelerate.blobref 125

xcelerate.body.length 107
xcelerate.bulkaprovechunk 125
xcelerate.charset 121
xcelerate.ckeditor.basepath 140
xcelerate.crosssiteassign 133
xcelerate.defaultacl 107
xcelerate.defaultbase 107
xcelerate.defaultcscacheinfo 108
xcelerate.defaultcsstatus 108
xcelerate.defaultlang 133
xcelerate.defaultpagecriteria 108
xcelerate.defaultpagecriteriaSiteEntry 109
xcelerate.defaultpreviewurlgenerator 133
xcelerate.defaultsscacheinfo 108
xcelerate.deny.abstainfromvoting 110
xcelerate.deny.approve 110
xcelerate.deny.authorize 110
xcelerate.deny.build 110
xcelerate.deny.checkout 110
xcelerate.deny.copy 110
xcelerate.deny.delegate 110
xcelerate.deny.delete 111
xcelerate.deny.edit 111
xcelerate.deny.inspect 111
xcelerate.deny.placepage 111
xcelerate.deny.preview 111
xcelerate.deny.removefromgroup 111
xcelerate.deny.removefromworkflow 111
xcelerate.deny.rollback 111
xcelerate.deny.setExportData 111
xcelerate.deny.setnestedworkflow 112
xcelerate.deny.setparticipants 112
xcelerate.deny.setprocessdeadline 112
xcelerate.deny.setstepdeadline 112
xcelerate.deny.share 112
xcelerate.deny.showparticipants 112
xcelerate.deny.showstatus 112
xcelerate.deny.showversion 113
xcelerate.displayablenameattr 137
xcelerate.domain 133
xcelerate.donotregenerate 126
xcelerate.editrole 133
xcelerate.emailattr 137
xcelerate.emailnotification 121
xcelerate.enableinsite 133
xcelerate.ewebeditpro 109
xcelerate.exportmaxfilename 126
xcelerate.grant.abstainfromvoting 113
xcelerate.grant.approve 113
xcelerate.grant.authorize 113
xcelerate.grant.build 113
xcelerate.grant.checkout 113

xcelerate.grant.copy 113
xcelerate.grant.delegate 113
xcelerate.grant.delete 114
xcelerate.grant.edit 114
xcelerate.grant.inspect 114
xcelerate.grant.placepage 114
xcelerate.grant.preview 114
xcelerate.grant.removefromgroup 114
xcelerate.grant.removefromworkflow 114
xcelerate.grant.rollback 114
xcelerate.grant.setExportData 114
xcelerate.grant.setnestedworkflow 114
xcelerate.grant.setparticipants 115
xcelerate.grant.setprocessdeadline 115
xcelerate.grant.setstepdeadline 115
xcelerate.grant.share 115
xcelerate.grant.showparticipants 115
xcelerate.grant.showstatus 115
xcelerate.grant.showversion 115
xcelerate.imageeditor.basepath 140
xcelerate.imageeditor.clarkii.basepath 140
xcelerate.imageurl 134
xcelerate.localeattr 137
xcelerate.locallanguagedir 117
xcelerate.lockdir 117
xcelerate.MaxLinks 109
xcelerate.mirrorini 126
xcelerate.objpubdir 117
xcelerate.pageref 127
xcelerate.presaveelt 127
xcelerate.previewhost 134
xcelerate.previewservlet 134
xcelerate.previewurlpagename 134
xcelerate.pubabortelt 127
xcelerate.pubcleanupelt 127
xcelerate.pubkeydir 117
xcelerate.publishallassettypes 127
xcelerate.publishinvalidate 128
xcelerate.publishquerystyle 134
xcelerate.pubrolesattr 137
xcelerate.pubsetupelt 128
xcelerate.remotecall 128
xcelerate.restrictSiteTree 121
xcelerate.rolemanagerclass 135
xcelerate.saveSearchdir 118
xcelerate.searchResultCols 135
xcelerate.seLimit 121
xcelerate.sePath 118
xcelerate.showSiteTree 122
xcelerate.sitenameattr 138
xcelerate.sitesattr 138
xcelerate.sitesroot 139

```
xcelerate.systemid 135
xcelerate.templatesdefault 128
xcelerate.tempobjectsdir 118
xcelerate.thumbnaildir 118
xcelerate.transformpath 135
xcelerate.treehierassettype 122
xcelerate.treeMaxNodes 122
xcelerate.treetabmanagerclass 136
xcelerate.treeType 122
xcelerate.useDimensionAssets 140
xcelerate.userimageattr 139
xcelerate.usermodelerclass 136
xcelerate.usese 123
xcelerate.workflowdir 119
xcelerate.workflowengineclass 136
```

Oracle WebCenter Sites 11gR1 の 新しいプロパティ

```
advancedUI.enableAssetForms 141
cc.BlobServerCacheCSz 88
cc.BlobServerTimeout 88
com.fatwire.logging.cs.realtime 27
org.apache.http 31
org.apache.http.client 31
org.apache.http.headers 32
org.apache.http.impl.client 32
org.apache.http.impl.conn 32
org.apache.http.wire 32
xcelerate.imageeditor.clarkii.basepath 140
```


非推奨のプロパティ

```
analysisconnector.version 97
appserverlink 163
blocktimeout 157
cache_check_interval 154
catalogcentre.version 97
contentcentre.version 98
cs.httpvariables 63
cs.wrapper 57
ft.approot 65
ft.debugport 73
image.time 101
log.Directory.messages 150
log.filterLevel 149
log.Logger.messages 150
log.transformer.messages 150
log.wmentconnector.messages 150
logging.interval 23
page.time 101
readtimeout 157
satellite.page.cachecontrol.default 96
servlet-path 163
xcelem.setpubid 120
xcelerate.emailnotification 121
xcelerate.ewebeditpro 109
```

